

1	物理基礎	EE-A-101	必修 2単位 1 年前期
	Introductory Physics		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年X組、1年Y組、1年Z組 齋藤 章 武田 元彦			
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> 位置と速度、加速度、および力と加速度の関係を理解する。 力のつり合いを定量的に決定でき、運動方程式をいろいろな運動に適用できるようになる。 等速円運動や中心力について理解する。 ばねに付けた物体の運動を例として単振動を理解する。 			
授業の概要			
<p>実践的な教育を通して地域や産業界が求める創造力のある柔軟性に富む人材の育成を目指す。「物理基礎」では物理学の最も基礎的な分野である力学について講義する。高等学校における「物理」の履修は前提とせず、スムーズに「物理学 I」等の学習に移行するための導入教育と位置づけ、基礎的な事項から学習する。</p>			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
初歩から学ぶ基礎物理学 力学 I 柴田洋一・勝山智男ほか 大日本図書 2010			
参考書等			
成績評価方法・基準			
定期試験を70%、小テスト・確認テストを30%の割合で総合的に評価し、60点以上を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストについては採点後に返却し、問題と解答例を LMS 上に掲載してフィードバックする。			
備考			

1	物理基礎	EE-A-101	必修 2単位 1 年前期
	Introductory Physics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	物理量	教科書で物理量の表し方について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第2回	力の合成と分解	教科書で力の合成と分解について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第3回	作用と反作用、力のつりあい	教科書で作用と反作用と力のつりあいについて予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第4回	質点と剛体、モーメント	教科書で質点と剛体とモーメントについて予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第5回	圧力と浮力	教科書で圧力と浮力について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第6回	速度と変位	教科書で速度と変位について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第7回	加速度	教科書で加速度について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第8回	重力加速度	教科書で重力加速度について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第9回	運動方程式	教科書で運動方程式について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第10回	張力、摩擦力	教科書で張力と摩擦力について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第11回	空気抵抗	教科書で空気抵抗について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第12回	等速円運動①	教科書で等速円運動について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第13回	等速円運動②	教科書で等速円運動について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第14回	単振動	教科書で単振動について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2

2 化学基礎		EE-A-102	必修 2単位 1 年前期
Introductory Chemistry			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年1組・2組をそれぞれXYクラスに分けて実施する。 瀬谷 和夫			
授業の達成目標			
1) 元素の性質と電子配置の関係を理解すること 2) 化学結合の種類と化合物の特徴を理解すること 3) 化学反応の量的関係を理解すること 4) 酸と塩基の基本を理解すること 5) 酸化と還元の基本を理解すること			
授業の概要			
物質を構成する基本粒子である原子・分子・イオンと、それらが化学結合で結びついてできる物質の構造・性質との関係について説明し、同時に物質の定量的な取扱いについて演習問題を解きながら考えていく。また、物質の変化の例として、酸と塩基及び酸化還元を取り上げる。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 スペンサー基礎化学(上) 渡辺 正 訳 東京化学同人 毎回詳細解説のプリント及び課題プリントを配付する			
参考書等			
成績評価方法・基準			
定期試験を 70 点、小テスト及び提出課題を 30 点として合計点が 60 点以上の者を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テスト及び課題は授業時またはLMS上でフィードバックする。			
備考			

2 化学基礎		EE-A-102	必修 2単位 1 年前期
Introductory Chemistry			
授業計画 (各回の学習内容等)			
学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第1回 授業方針説明(ガイダンス) 物質と元素	高校での既習事項と「化学基礎」での学習範囲を確認する。主な元素の元素記号を予習する。物質の分類と元素について復習する。	2	2
第2回 原子の構造 周期表と電子配置	電子殻の電子配置と周期表の関係について予習する。電子配置と周期表の構造について復習する。	2	2
第3回 イオンの生成とイオン結合	イオンの種類について予習する。電子配置からイオンの生成とイオン式を理解する。イオン化合物の組成式について復習する。	2	2
第4回 共有結合と分子の生成 分子間力と分子結晶	分子の種類について予習する。電子配置から共有結合を理解して構造式の復習をする。分子間力・水素結合と分子結晶の関係を復習する。化学結合による物質の分類について予習する。	2	2
第5回 金属結合 結晶格子 結合の種類と物質の性質	化学結合と物質の性質の関係について復習する。結晶格子について復習する。原子量の意味を理解し分子量等の計算を行う。物質の量の表し方と濃度について予習する。	2	2
第6回 物質の量 モル濃度	物質の量の定義について理解を深める。物質の量と質量、気体の体積の換算について復習する。モル濃度の計算の復習をする。	2	2
第7回 化学反応式 化学反応の量的関係	化学反応式の係数の決定法を予習する。化学反応式を用いた化学反応の量的関係の計算の復習をする。	2	2
第8回 まとめと試験(中間考査)	中間考査に向けて今までの授業内容をまとめる。考査の内容について理解を深めて学力の定着を図る。	2	2
第9回 酸と塩基 pH	酸・塩基の性質と種類について予習する。酸と塩基の定義と代表的な酸と塩基について復習する。pHの計算の復習をする。	2	2
第10回 中和と塩	塩の種類と中和について予習する。塩の分類及び塩の水溶液の性質について復習する。中和の量的関係の計算の復習をする。	2	2
第11回 酸化と還元 酸化数	酸化還元反応の具体例を予習する。酸化・還元反応の定義及び酸化剤など用語の理解を深める。酸化数の求め方及び酸化還元反応の判断について復習する。	2	2
第12回 イオン化傾向	金属のイオン化傾向について予習する。イオン化傾向と金属の反応性の関係と酸化還元反応について復習する。	2	2
第13回 酸化還元反応の量的関係・無機材料化学	酸化還元反応式について予習する。酸化還元反応の量的関係について復習する。無機材料化学物質の種類と特徴について理解する。	2	2
第14回 まとめと試験(期末考査)	期末考査に向けて今までの授業内容をまとめる。考査の内容について理解を深めて学力の定着を図る。	2	2

3	数学基礎	EE-A-103	必修 2単位 1 年前期
	Introductory Mathematics		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年1X組、2X組、1年1Y組、2Y組 竹内 透 野崎 壽彦			
授業の達成目標			
方程式や2次関数などの基本的な取り扱い、並びに、専門科目の理解に必要な三角関数、ベクトル、および、複素数の基本概念とその計算法を身につける。			
授業の概要			
基礎的な内容から解説し、専門科目の履修に必要な数学の基礎を学ぶ演習も取り入れていく。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「大学新入生のための数学入門」増補版 石村園子著 共立出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中に実施する小テストおよび、中間・期末試験等の結果で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストの採点結果を返却し、模範解答は支援講座で解説する。			
備考			

3	数学基礎	EE-A-103	必修 2単位 1 年前期
	Introductory Mathematics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	数と式の計算 (展開・因数分解・繁分数)	四則演算、展開、因数分解に関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第2回	数と式の計算 (平方根・複素数・分数式)	平方根、複素数、分数式に関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第3回	数と式の計算 (部分分数展開・無理式の計算) 方程式 (連立1次方程式・代数方程式)	部分分数展開、無理式、方程式に関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第4回	関数とグラフ (直線・放物線)	直線、放物線に関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第5回	関数とグラフ (円・楕円・不等式と領域)	円、楕円、不等式と領域に関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第6回	三角関数 (三角比・弧度法・三角関数の値)	三角比、弧度法、三角関数の値に関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第7回	三角関数 (グラフ・各種公式)	三角関数のグラフ、各種公式に関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第8回	これまでのまとめと中間試験	これまでの学習内容を予習する。 まとめの問題で学習内容が不確実な部分を復習する。	2 2
第9回	極座標と極方程式	極座標と極方程式に関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第10回	複素平面と極形式	複素平面と極形式に関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第11回	ド・モアブルの定理	ド・モアブルの定理に関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第12回	平面ベクトル	平面ベクトルに関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第13回	空間ベクトル	空間ベクトルに関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2
第14回	ベクトルの1次結合	ベクトルの1次結合に関する部分を読み予習をする。 教科書の問題を自分の力で解き学習内容の復習をする。	2 2

4	電気数学Ⅰ及び同演習	EE-A-104	必修 3単位 1 年前期
	Mathematics and its Exercises I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 下位 法弘 小林 正樹 伊藤 仁			
授業の達成目標			
各種関数を使いこなすことができること。微分の意味を理解し、各種関数の微分計算が自在に行えること。			
授業の概要			
電気回路や電磁気学など専門の基礎教科を学ぶ上で必須となる、関数の微分・積分について、1変数の微分の範囲を 修得する。授業は習熟度別にクラス分けし、講義と演習をセットで行う。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は民間企業で開発に従事した経験により、これを活かした教育を行う。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版 2,000 円 (+ 税)			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中に行う小テストや中間試験及び課題による評価 50%、期末試験による評価 50%。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は次回授業時、またはそれまでにフィードバックする。			
備考			

4	電気数学Ⅰ及び同演習	EE-A-104	必修 3単位 1 年前期
	Mathematics and its Exercises I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	【ガイダンス】電気数学Ⅰの学び方、授業の概要と進め方	高校数学の数Ⅲレベルの内容を予習する。	0.5
第2回	初歩的な関数とグラフ① 三角関数、逆三角関数	高校数学の数Ⅱレベルの内容を復習する。	0.5
第3回	初歩的な関数とグラフ② 指数関数、対数関数	教科書より、三角関数、逆三角関数に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2
第4回	初歩的な関数とグラフ③ 演習	教科書より、指数関数、対数関数に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2
第5回	関数の極限	初歩的な関数とグラフに関する演習問題を解き予習する。 演習内容で理解が不確実な部分の問題を解き直し復習する。	0.5 0.5
第6回	関数の極限演習	教科書より、関数の極限に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2
第7回	1変数関数の微分① 微分係数、導関数	関数の極限に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で理解が不確実な部分の問題を解き直し復習する。	0.5 0.5
第8回	1変数関数の微分② 微分係数、導関数演習	教科書より、微分係数、導関数に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2
第9回	1変数関数の微分③ 微分公式	微分係数、導関数に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で理解が不確実な部分の問題を解き直し復習する。	0.5 0.5
第10回	1変数関数の微分④ 微分公式演習	教科書より、微分公式に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2
第11回	1変数関数の微分⑤ 初等関数の導関数(有理関数、無理関数)	微分公式に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で理解が不確実な部分の問題を解き直し復習する。	0.5 0.5
第12回	1変数関数の微分⑥ 初等関数の導関数(有理関数、無理関数)演習	教科書より、初等関数の導関数(有理関数、無理関数)に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2
第13回	1変数関数の微分⑦ 初等関数の導関数(三角関数、指数・対数関数)	初等関数の導関数(有理関数、無理関数)に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で理解が不確実な部分の問題を解き直し復習する。	0.5 0.5
第14回	1変数関数の微分⑧ 初等関数の導関数(三角関数、指数・対数関数)演習	教科書より、初等関数の導関数(三角関数、指数・対数関数)に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2
第15回	まとめと中間試験	初等関数の導関数(三角関数、指数・対数関数)に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で理解が不確実な部分の問題を解き直し復習する。	0.5 0.5
第16回	中間試験の解説と総復習	中間試験の予習をする。 中間試験の問題を解き学習内容で解き方が不確実な部分を復習する。	2 2
第17回	1変数関数の微分⑨ 対数微分法	中間試験のやり直しをする。 試験問題について、理解が十分でないところを重点的に復習する。	0.5 0.5
第18回	1変数関数の微分⑩ 対数微分法演習	教科書より、対数微分法に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2
第19回	1変数関数の微分⑪ n次導関数	対数微分法に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で理解が不確実な部分の問題を解き直し復習する。	0.5 0.5
第20回		教科書より、n次導関数に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2

4 電気数学Ⅰ及び同演習		EE-A-104	必修 3単位 1年前期
Mathematics and its Exercises I			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第20回	1変数関数の微分⑫ n次導関数演習	n次導関数に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で理解が不確実な部分の問題を解き直し復習する。	0.5 0.5
第21回	1変数関数の微分⑬ 平均値の定理と不定形の極限	教科書より、平均値の定理と不定形の極限に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2
第22回	1変数関数の微分⑭ 平均値の定理と不定形の極限演習	平均値の定理と不定形の極限に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で理解が不確実な部分の問題を解き直し復習する。	0.5 0.5
第23回	1変数関数の微分⑮ マクローリン展開	教科書より、マクローリン展開に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2
第24回	1変数関数の微分⑯ マクローリン展開演習	マクローリン展開に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で理解が不確実な部分の問題を解き直し復習する。	0.5 0.5
第25回	1変数関数の微分⑰ 関数の増減とグラフの凹凸	教科書より、関数の増減とグラフの凹凸に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で理解が不確実な部分を復習する。	2 2
第26回	1変数関数の微分⑱ 関数の増減とグラフの凹凸演習	関数の増減とグラフの凹凸に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で理解が不確実な部分の問題を解き直し復習する。	0.5 0.5
第27回	まとめと期末試験	期末試験の予習をする。 今まで解答した演習問題を再び解き、学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第28回	期末試験の解説と総復習	期末試験のやり直しをする。 試験問題について、理解が十分でないところを重点的に復習する。	0.5 0.5

5	コンピュータアーキテクチャ I	EE-D-101	必修 2単位 1 年前期
	Computer Architecture I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 室山 真徳			
授業の達成目標			
コンピュータの基本構成・基本原理をハード面・ソフト面から理解する。さらに、情報処理システム、インターフェース、ソフトウェア、ファイルの概要を理解する。			
授業の概要			
情報処理技術の発展により、コンピュータは今や社会のあらゆるところで利用されている。コンピュータを有効に活用するには、コンピュータに関する基本的な知識の習得は必須条件である。授業では、コンピュータシステムの基本構成や動作原理についてハードウェアとソフトウェアの両面から解説を行なう。また、周辺装置やインターフェースとの関連についても解説する。なお、1 年次後期のコンピュータアーキテクチャⅡ、2 年次前期のⅢと合わせ、基本情報技術者資格試験に備えることも狙いとする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「IT ワールド」インフォテック・サーブ社			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中に行う小テスト・レポートによる評価 40%、および期末試験による評価 60% の配分で、総合的に成績を評価する。レポートについては、提出課題についての見解や、解説について次回以降の授業等でコメントする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、提出課題についての見解や、解説について次回以降の授業等でコメントする。			
備考			

5	コンピュータアーキテクチャ I	EE-D-101	必修 2単位 1 年前期
	Computer Architecture I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	コンピュータシステムの基本構成と基数と基数変換	コンピュータシステムの基本構成と基数と基数変換に関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 2 回	コンピュータのデータの表現形式	コンピュータのデータの表現形式に関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 3 回	中央処理装置と主記憶装置	中央処理装置と主記憶装置に関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 4 回	命令セット・アドレッシング	命令セット・アドレッシングに関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 5 回	ALU の構成回路と高速化技術	ALU の構成回路と高速化技術に関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 6 回	補助記憶装置	磁気ディスク装置、光ディスク装置、半導体メモリに関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 7 回	入出力装置	入出力装置に関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 8 回	情報処理システムの処理形態と高速化システムの構成	情報処理システムの処理形態と高速化システムの構成に関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 9 回	情報処理システムの性能評価	情報処理システムの性能評価に関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 10 回	ヒューマンインターフェースとマルチメディア	ヒューマンインターフェースとマルチメディアに関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 11 回	オペレーティングシステム	オペレーティングシステムに関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 12 回	プログラム言語と言語プロセッサ	プログラム言語と言語プロセッサに関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 13 回	ファイル	ファイルに関する部分を読んで予習する。 レポート課題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 14 回	まとめと試験	これまでの総復習をする。 試験で解けなかったところを再度復習する。	2 2

6	プログラミング I Programming I	EE-D-102	必修 2単位 1 年前期
	授業形態		該当科目
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	○ 教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1 年全組 水野 文雄			
授業の達成目標			
本講義では、講義、演習および課題を通じて電子メールやインターネットなどコンピュータの基本的な操作技術を身につける。また、C言語の基本文法を身に付け、プログラムを作成・修正・実行することができること。C言語の繰り返し、条件分岐を用いた基本的な計算の実行と結果の表示ができるようになること。			
授業の概要			
電気電子工学科の学生として最低限必要となる情報倫理、電子メールやインターネット、プログラミングなどの基礎的な情報技術の修得を目指す。プログラミングでは C 言語を取り上げ、講義・演習を行う。本講義では、C言語の変数の型、入出力命令、分岐および繰り返しなど基本文法について演習を通して学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 [第 2 版] 例題で学ぶ「はじめての C 言語」 大石弥幸/朝倉宏一著 ムイスリ出版 必要に応じて補助プリントを作成し配付する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
講義の各回で指示する演習・レポートを全て提出することが評価のための必要条件である。評価は演習・レポート 50%、試験 50%の配分で行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては、提出課題についての見解や、よくある誤り等について次回以降の授業内でコメントする。			
備考			

6	プログラミング I Programming I	EE-D-102	必修 2単位 1 年前期
	授業計画 (各回の学習内容等)		
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス	シラバスや教科書に目を通し、講義の全体像を理解する。	2
第 2 回	C言語プログラムと基本事項	C プログラムの作成と基本事項について教科書を読む。 教科書と講義スライドを見直し、課題に取り組む。	2
第 3 回	C言語文字列、数値の表示	C 言語の文字列と数値の表示方法について教科書を読む。 教科書と講義スライドを見直し、課題に取り組む。	2
第 4 回	C言語数値定数、変数と四則演算	C 言語の数値定数、変数と四則演算について教科書を読む。 教科書と講義スライドを見直し、課題に取り組む。	2
第 5 回	C言語数値の入力	C 言語の数値入力方法について教科書を読んでおく。 教科書と講義スライドを見直し、課題に取り組む。	2
第 6 回	C言語 if による分岐	C 言語の if を用いた分岐処理について教科書を読む。 教科書と講義スライドを見直し、課題に取り組む。	2
第 7 回	C言語 switch-case による多分岐	C 言語の多分岐処理 (switch-case) について教科書を読む。 教科書と講義スライドを見直し、課題に取り組む。	2
第 8 回	C言語 while、do-while による繰り返し	C 言語の繰り返し処理 (while, do-while) について教科書を読む。 教科書と講義資料を見直し、課題に取り組む。	2
第 9 回	C言語 for による繰り返し、多重ループ	C 言語の繰り返し処理 (for) や多重ループについて教科書を読む。 教科書と講義スライドを見直し、課題に取り組む。	2
第 10 回	C言語 break と continue	C 言語の繰り返し処理制御 (break, continue) について教科書を読む。 教科書とスライドを見直し、課題に取り組む。	2
第 11 回	C言語分岐、繰り返しによる応用プログラム	C 言語の分岐と繰り返し処理について教科書を読んでおく。 教科書とスライドを見直し、課題に取り組む。	2
第 12 回	C言語演習 (分岐、繰り返し処理)	C 言語の数値計算処理に関する当該範囲の教科書を読む。 教科書や講義スライドを見直し、課題に取り組む。	2
第 13 回	インターネットと情報倫理	資料を読みインターネットと情報倫理の理解に努める。 講義スライドと資料を見直し、課題に取り組む。	2
第 14 回	まとめ	未提出の課題に取り組み全て提出する。 課題でできなかった問題について教科書等を見て疑問点を解決する。	2

7	電気電子工学セミナー	EE-F-101	必修 1単位 1 年前期
	Electric and Electronic Engineering Seminar		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 藤田 豊己 小林 正樹 水野 文雄 中山 英久 伊藤 仁 内野 俊 宮下 哲哉 小野寺 敏幸 柴田 憲治 鈴木 郁郎 辛島 彰洋 葛西 重信 田河 育也 下位 法弘 室山 真徳 田倉 哲也 新井 敏一			
授業の達成目標			
1. 電気・電子工学を学ぶにあたり、経験豊富な教員との共同作業から、広い視野と柔軟な思考力を養う。2. 学習の面白さを観察や実習を通して経験するとともに、主体的に学問に取り組む姿勢を養う。3. 自ら考え、自己表現する能力を養う。4. 教員と学生、学生相互間の良好な人間関係を築く。			
授業の概要			
教員1人あたり10名ほどの学生を対象に行う少人数教育である。個々の学生に合わせたきめ細かな教育と学習の機会を提供するとともに、学生と教員間の交流によって親密な人間関係を築く機会となる。本セミナーでは、大学生活において重要な主体的に学習する姿勢を養うこと、学生生活の順調なスタートを支援することを目的とする。具体的には、AI教育、高校程度の数学、物理、英語の補完的な教育、基礎的な電気電子工作・実験・計測、試料作製、プログラミング実習などを各教員に応じて適宜行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
各指導教員の指示による。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
評価はレポート課題の成績と学習した知識量だけでなく、セミナーでの自主性の度合いと理解度、およびセミナー内容への興味度合いを総合して評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業内容の振り返りを行う。			
備考			


7	電気電子工学セミナー	EE-F-101	必修 1単位 1 年前期
	Electric and Electronic Engineering Seminar		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	与えられた課題の事前学習を行う。	0.5
第2回	自己紹介のためのプレゼンテーション資料の作成	実施した課題の振り返りを行う。 プレゼン資料作成のための情報を準備する。	0.5
第3回	自己紹介プレゼン	実施した授業内容の振り返りを行う。 作成したプレゼン資料の発表を練習する。	0.5
第4回	リエゾンゼミ1 パワーポイント、ワード、エクセルの使い方	実施したプレゼンの振り返りを行う。 自分のPCを使用してパワーポイント、ワード、エクセルを立ち上げられるようにする。	0.5
第5回	リエゾンゼミ2 パワーポイント、ワード、エクセルを応用した資料の作成	実施した授業内容の振り返りを行う。 自分のPCを使用してパワーポイント、ワード、エクセルを使えるように練習する。	0.5
第6回	リエゾンゼミ3 作成資料の発表	与えられた課題をまとめ、発表の準備を行う。	0.5
第7回	フィールドワーク 東北放送の施設見学	実施した授業内容の振り返りを行う。	0.5
第8回	電子回路の組み立て1 回路の基本構成	与えられた課題の事前学習を行う。	0.5
第9回	電子回路の組み立て2 回路の基礎設計	実施した課題の振り返りを行う。 与えられた課題の事前学習を行う。	0.5
第10回	電子回路の組み立て3 回路製作および稼働実験	実施した授業内容の振り返りを行う。	0.5
第11回	ディベート1 グループ分け、課題抽出	与えられた課題の事前学習を行う。	0.5
第12回	ディベート2 討論	実施した課題の振り返りを行う。	0.5
第13回	ディベート3 実施内容の振り返り	与えられた課題の事前学習を行う。	0.5
第14回	総括	実施した課題の振り返りを行う。 これまで実施した課題の振り返りを行う。	0.5
		得られた成果・知見に対する自分の達成感・満足感を総括する。	0.5

8	物理学 I	EE-A-105	必修 2単位 1年後期
	Physics I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年X組、1年Y組、1年Z組 武田 元彦			
授業の達成目標			
1. 仕事、エネルギー、運動量について理解する。 2. 様々な熱現象と熱力学の法則を理解する。 3. 様々な波動現象とその法則を理解する。			
授業の概要			
まず力学の基本概念である仕事、エネルギー、運動量について学ぶ。次に熱現象と熱力学の法則を学び、最後に波動現象とその法則について学ぶ。自然現象を物理学の視点で捉えるトレーニングとして、講義中に適宜小テストや設問、演習を行う。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
初歩から学ぶ基礎物理学 力学 I 柴田洋一・勝山智男ほか 大日本図書 2010 初歩から学ぶ基礎物理学 熱・波動 柴田洋一・勝山智男ほか 大日本図書 2010			
参考書等			
成績評価方法・基準			
定期試験を70%、小テスト・確認テストを30%の割合で総合的に評価し、60点以上を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストについては採点後に返却し、問題と解答例を LMS 上に掲載してフィードバックする。			
備考			

8	物理学 I	EE-A-105	必修 2単位 1年後期
	Physics I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	仕事	教科書で仕事について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第2回	仕事率	教科書で仕事率について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第3回	エネルギー	教科書でエネルギーについて予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第4回	エネルギー保存則	教科書でエネルギー保存則について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第5回	運動量	教科書で運動量について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第6回	運動量保存則	教科書で運動量保存則について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第7回	熱力学	教科書で熱力学について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第8回	ボイル - シャルルの法則	教科書でボイル - シャルルの法則について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第9回	理想気体の内部エネルギー	教科書で理想気体の内部エネルギーについて予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第10回	力学的エネルギーと内部エネルギー	教科書で力学的エネルギーと内部エネルギーについて予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第11回	波動	教科書で波動について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第12回	波の重ね合わせ	教科書で波の重ね合わせについて予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第13回	波が運ぶエネルギー	教科書で波が運ぶエネルギーについて予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2
第14回	波の反射、屈折、回折	教科書で波の反射、屈折、回折について予習する。 演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2 2

9	無機化学	EE-A-106	必修 2単位 1年後期
	Inorganic Chemistry		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 葛西 重信			
授業の達成目標			
1) 代表的な無機化合物の日常生活、工業製品製造における役割を理解すること 2) 工業製品中の無機化合物の製造プロセスを無機化合物の構造・性質の特徴と関連づけて理解すること			
授業の概要			
多数の元素の組み合わせからできている単体または無機化合物は、それぞれ構造と性質に重要な関係がある。本講義では、典型元素及び遷移元素とその化合物について系統的にその性質を概説する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書：基礎からわかる物理化学 柴田、珠玖、須藤、長尾、松本、米本（共立出版）			
参考書等			
成績評価方法・基準			
レポートおよび定期試験の結果にて総合的に評価する。授業で課題・レポート等を提示し、次回以降の授業に対しての見解やよくある誤り等についてコメントする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
単元ごとの問題演習によるフィードバック、定期試験により知識理解の確認を行う。			
備考			

9	無機化学	EE-A-106	必修 2単位 1年後期
	Inorganic Chemistry		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	無機化学、無機工業化学の役割	無機化学、無機工業化学の役割に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題を解き復習する。	2 2
第2回	原子の構造	原子の構造に関する部分を調べて予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第3回	ボーアの量子仮説と電子の波動性	ボーアの量子仮説と電子の波動性部分を調べて予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第4回	化学反応とエネルギー	化学反応とエネルギーに関する部分を読んで予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第5回	熱力学と化学平衡	熱力学と化学平衡に関する部分を読んで予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第6回	酸化還元反応と実用電池	酸化還元反応と実用電池に関する部分を読んで予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第7回	典型元素とその化合物における工業製品製造の役割	典型元素とその化合物における工業製品製造の役割に関する部分を読んで予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第8回	リン、フッ素等の化合物に関する工業	リン、フッ素等の化合物に関する工業に関する部分を読んで予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第9回	塩素及びアルカリ金属化合物に関する工業	塩素及びアルカリ金属化合物に関する工業に関する部分を読んで予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第10回	遷移元素とその化合物における工業製品製造の役割	遷移元素とその化合物における工業製品製造の役割に関する部分を読んで予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第11回	希土類元素の工業的分離法	希土類元素の工業的分離法に関する部分を読んで予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第12回	電極材料Ⅰ(鉄族元素の化合物とその性質)	鉄族元素の化合物とその性質に関する部分を読んで予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第13回	電極材料Ⅱ(白金族元素の化合物とその性質)	白金族元素の化合物とその性質に関する部分を読んで予習する。 講義で出される課題を解き復習する。	2 2
第14回	まとめと試験	定期試験を受験し、総復習を行う。 総復習をする。	2 2

10	線形代数	EE-A-107	必修 2単位 1年後期
	Linear Algebra		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年1組X組、1組Y組、1年2組X組、2組Y組 青山 純 竹内 透			
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> ベクトルの基本的な演算を習得すること。 1次独立や内積・外積などベクトルの基本的な概念を理解すること。 行列の基本的な演算と行列を用いた連立1次方程式の解法を習得すること。 行列式の基本的な性質を理解すること。 行列の固有値・固有ベクトルとその応用について理解すること。 			
授業の概要			
<p>線形代数学は解析学と並んで理工学の多くの分野で用いられる数学である。本講義では、ベクトル及び行列に関する基本的内容を中心に線形代数学の基礎を学ぶ。前半では、ベクトルと行列についてそれらの基本的な演算とその応用としての連立1次方程式の解法を習得する。後半では、行列式及び行列の固有値と固有ベクトルについて学ぶ。</p>			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「カラーテキスト線形代数」大原仁著 講談社			
参考書等			
成績評価方法・基準			
中間試験・期末試験(70%)、授業中に実施する小テスト(30%)で評価し、60点以上を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストの採点結果を返却し、模範解答は支援講座で解説する。			
備考			

10	線形代数	EE-A-107	必修 2単位 1年後期
	Linear Algebra		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ベクトルの演算、内積と外積	ベクトルの演算、及び内積と外積について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第2回	行列の定義と演算	行列について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第3回	平面上の1次変換	平面上の1次変換について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第4回	1次変換の合成と逆変換、特徴的な1次変換	1次変換の合成と逆変換、及び特徴的な1次変換について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第5回	行基本変形(掃出し法)による連立1次方程式の解法	行基本変形による連立1次方程式の解法について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第6回	行列の階数と解の自由度	行列の階数と解の自由度について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第7回	基本行列と行基本変形(掃出し法)による逆行列の求め方	基本行列による逆行列の求め方について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第8回	これまでのまとめと試験	これまでの内容について教科書や講義中の課題を見直し予習する。 中間試験で解答できなかった項目を復習する。	2
第9回	行列式の定義と余因子展開	行列式について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第10回	行列式の性質と有用な公式	行列式の計算公式について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第11回	行列式と逆行列(逆転公式)、クラメールの公式	逆転公式・クラメールの公式について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第12回	固有値と固有ベクトル	固有値と固有ベクトルについて教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第13回	行列の対角化	行列の対角化について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2
第14回	ジョルダン標準形	ジョルダン標準形について教科書を読み疑問点を整理し予習する。 学習内容を教科書や<講義ノート>で確認し復習する。	2

11	電気数学Ⅱ及び同演習	EE-A-108	必修 3単位 1年後期
	Mathematics and its Exercises II		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 (ブレースメントテストの結果に基づいて習熟度別クラス編成する) 小林 正樹 伊藤 仁 鈴木 郁郎			
授業の達成目標			
積分の意味を理解し、各種関数の不定積分や定積分の計算が自在にできること。偏微分・重積分の意味を理解し、2変数関数の微分積分の計算が自在に行えること。			
授業の概要			
電気回路や電磁気学など専門の基礎教科を学ぶ上で必須となる、関数の微分・積分について、1変数の微分の復習と不定積分・定積分、さらに2変数関数の偏微分と重積分を理解、修得する。授業は習熟度別にクラス分けし、講義と演習をセットで行う。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は民間企業で開発に従事した経験により、これを活かした教育を行う。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書は「電気数学Ⅰ及び同演習」と同じ。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中に行う小テストや中間試験及び課題による評価 50%、期末試験による評価 50%。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は次回授業時、またはそれまでにフィードバックする。			
備考			

11	電気数学Ⅱ及び同演習	EE-A-108	必修 3単位 1年後期
	Mathematics and its Exercises II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	【ガイダンス】電気数学Ⅰの復習と電気数学Ⅱの概要	高校数学の数Ⅲレベルの内容を予習する。	0.5
第2回	1変数関数の積分① 不定積分の公式、初等関数の不定積分	電気数学Ⅰの内容を復習する。 不定積分の公式、初等関数の不定積分に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	0.5 2 2
第3回	1変数関数の積分② 置換積分	置換積分に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第4回	1変数関数の積分③ 不定積分の公式、置換積分演習	不定積分の公式、置換積分に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で不確実な部分を演習問題を解き復習する。	0.5 0.5
第5回	1変数関数の積分④ 部分積分	部分積分に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第6回	1変数関数の積分⑤ 部分積分演習	部分積分に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で不確実な部分を演習問題を解き復習する。	0.5 0.5
第7回	1変数関数の積分⑥ 有理関数の積分、定積分の定義	有理関数の積分、定積分の定義に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第8回	1変数関数の積分⑦ 有理関数の積分、定積分の定義演習	有理関数の積分、定積分の定義に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で不確実な部分を演習問題を解き復習する。	0.5 0.5
第9回	1変数関数の積分⑧ 様々な関数の定積分	様々な関数の定積分に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第10回	1変数関数の積分⑧ 様々な関数の定積分演習	様々な関数の定積分に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で不確実な部分を演習問題を解き復習する。	2 2
第11回	1変数関数の積分⑨ 面積と回転体の体積	面積と回転体の体積に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第12回	1変数関数の積分⑩ 面積と回転体の体積演習	面積と回転体の体積に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で不確実な部分を演習問題を解き復習する。	0.5 0.5
第13回	まとめと中間試験	中間試験の予習をする。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第14回	中間試験の解説と総復習	中間試験のやり直しをする。 理解が十分でないところを重点的に復習する。	0.5 0.5
第15回	2変数関数の微分① 偏導関数	偏導関数に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第16回	2変数関数の微分② 偏導関数演習	偏導関数に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で不確実な部分を演習問題を解き復習する。	0.5 0.5
第17回	2変数関数の微分③ 高次偏導関数	高次偏導関数に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第18回	2変数関数の微分④ 高次偏導関数演習	高次偏導関数に関する演習問題を解き予習する。 演習内容で不確実な部分を演習問題を解き復習する。	0.5 0.5
第19回	2変数関数の微分⑤ 全微分と接平面、合成関数の微分	全微分と接平面、合成関数の微分に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2

11	電気数学Ⅱ及び同演習	EE-A-108	必修 3単位 1年後期
	Mathematics and its Exercises II		
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第 20 回	2変数関数の微分⑥ 全微分と接平面、合成関数の微分 演習	全微分と接平面、合成関数の微分に関する演習問題を解き予習する。	0.5
		演習内容で不確実な部分を演習問題を解き復習する。	0.5
第 21 回	2変数関数の積分① 累次積分、重積分	累次積分、重積分に関する部分を読んで予習する。	2
		演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 22 回	2変数関数の積分② 累次積分、重積分演習	累次積分、重積分に関する演習問題を解き予習する。	0.5
		演習内容で不確実な部分を演習問題を解き復習する。	0.5
第 23 回	2変数関数の積分③ 極座標への変数変換	極座標への変数変換に関する部分を読んで予習する。	2
		演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 24 回	2変数関数の積分④ 極座標への変数変換演習	極座標への変数変換に関する演習問題を解き予習する。	0.5
		演習内容で不確実な部分の演習問題を解き復習する。	0.5
第 25 回	2変数関数の積分⑤ 立体の体積	立体の体積に関する部分を読んで予習する。	2
		演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 26 回	2変数関数の積分⑥ 立体の体積演習	立体の体積に関する演習問題を解き予習する。	0.5
		演習内容で不確実な部分の演習問題を解き復習する。	0.5
第 27 回	まとめと期末試験	期末試験の予習をする。	2
		演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第 28 回	期末試験の解説と総復習	期末試験のやり直しをする。	0.5
		理解が十分でないところを重点的に復習する。	0.5

12	電気回路 I 及び同演習	EE-B-101	必修 3単位 1年後期
	Electric Circuits and Its Exercises I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		○ 教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年1組、1年2組 辛島 彰洋 内野 俊			
授業の達成目標			
直流回路においては、オームの法則やキルヒホッフの法則を実際の回路に適用できるようになること。交流回路においては、時間とともに変化する交流の性質を理解し、フェーザ法によって簡単な交流回路の解析ができるようになること。			
授業の概要			
電気回路は、電気系学科目のなかで最も基礎的で、他の工学分野にも広く応用される重要な科目に位置付けられるので、可能な限り丁寧に講義を進めて行く。さらに演習問題を解かせることで、既習事項の理解を深めさせる。前半は主に直流回路、後半は交流回路の基本について学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「電気回路の基礎」西巻、森、荒井共著 森北出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
課題レポートと定期試験で評価する。成績評価基準として、課題レポート 20%、定期試験 80%の配分で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
演習課題および小テストはそれぞれ添削・採点后に返却する。必要に応じて、講義時またはLMS上で解説を行う。			
備考			

12	電気回路 I 及び同演習	EE-B-101	必修 3単位 1年後期
	Electric Circuits and Its Exercises I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	電気回路と回路要素の基本的性質	電気回路と回路要素の基本的性質に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第2回	電気回路と回路要素の基本的性質の演習	電気回路と回路要素の基本的性質に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習する。	2.5 2.5
第3回	直流回路の基本：オームの法則と直流電源の等価回路	オームの法則と直流電源の等価回路に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第4回	直流回路の基本：オームの法則と直流電源の等価回路の演習	オームの法則と直流電源の等価回路に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5 2.5
第5回	直流回路の基本：抵抗の直列接続と並列接続	直流回路の抵抗の直列接続と並列接続に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第6回	直流回路の基本：抵抗の直列接続と並列接続の演習	直流回路の抵抗の直列接続と並列接続に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5 2.5
第7回	直流回路網：直並列回路	直流の直並列回路に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第8回	直流回路網：直並列回路の演習	直流回路の直並列回路に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5 2.5
第9回	直流回路網：Y-Δ変換回路	直流回路のY-Δ変換回路に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第10回	直流回路網：Y-Δ変換回路の演習	直流回路のY-Δ変換回路に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5 2.5
第11回	直流回路網の基本定理：キルヒホッフ則	直流回路のキルヒホッフ則に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第12回	直流回路網の基本定理：キルヒホッフ則の演習	直流回路のキルヒホッフ則に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5 2.5
第13回	直流回路網の基本定理：網目電流法	直流回路の網目電流法に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第14回	直流回路網の諸定理：重ね合わせの理	直流回路の重ね合わせの理に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第15回	直流回路網の諸定理：テブナンとノートンの定理	直流回路のテブナンとノートンの定理に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第16回	直流回路網の諸定理：テブナンとノートンの定理の演習	直流回路のテブナンとノートンの定理に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5 2.5
第17回	正弦波交流：計算の基本	正弦波交流の計算の基本に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配布資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第18回	正弦波交流：計算の基本的演習	正弦波交流の計算の基本に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5 2.5
第19回	正弦波交流：平均値と実効値	正弦波交流の平均値と実効値の基本的性質に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5

12 電気回路 I 及び同演習		EE-B-101	必修 3単位 1年後期
Electric Circuits and Its Exercises I			
授業計画 (各回の学習内容等)			
学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)	
第 20 回	正弦波交流：平均値と実効値の演習	正弦波交流の平均値と実効値に関する演習問題を解いて予習する。	2.5
		自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第 21 回	正弦波交流のフェーザ表示と回路要素 (R、L、C) の性質	正弦波交流のフェーザ表示と回路要素 (R、L、C) の性質に関する部分を読んで予習する。	2.5
		教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第 22 回	正弦波交流のフェーザ表示と回路要素 (R、L、C) の性質の演習	正弦波交流のフェーザ表示と回路要素 (R、L、C) の性質に関する演習問題を解いて予習する。	2.5
		自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第 23 回	交流回路における複素数表示	交流回路における複素数表示に関する部分を読んで予習する。	2.5
		教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第 24 回	交流回路における複素数表示の演習	交流回路における複素数表示に関する演習問題を解いて予習する。	2.5
		自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第 25 回	交流回路における回路要素の接続	交流回路における回路要素の接続に関する部分を読んで予習する。	2.5
		教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第 26 回	交流回路における回路要素の接続の演習	交流回路における回路要素の接続に関する演習問題を解いて予習する。	2.5
		自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第 27 回	直流回路および交流回路の基本のまとめ	直流回路および交流回路の基本についてこれまで学んだ内容に関する演習問題を前もって解き、理解できていない箇所を見つける。	2.5
		まとめの講義で触れられた箇所に関する演習問題を解き、問題の解法を復習する。	2.5
第 28 回	試験とまとめ	教科書やノート、配付資料を見直したり、演習問題を解きなおしたりすることで試験に備える。	2.5
		試験の結果をふまえて、自分の理解が不足している箇所を見つけて重点的に復習する。	2.5

13	プログラミング II	EE-D-103	必修 2単位 1年後期
	Programming II		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		○ 教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 藤田 豊己			
授業の達成目標			
C言語の基本的な文法を理解するとともに、正しい実行結果を得るためのデバッグ手法を学び、一連のプログラム開発能力を身につけること。			
授業の概要			
「プログラミング I」に引き続き、C言語によるプログラム作成を学ぶ。前期で学んだC言語の文法、基本的なプログラム技法の復習を行った上で、ポインタ、関数、構造体などの文法を修得する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「プログラミング I」で使用した教科書を継続して使う。「例題で学ぶ はじめてのC言語」大石弥幸著 ムイスリ出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
各講義で指示する演習・課題を全て提出することが評価のための必要条件である。評価は演習・課題 40%、試験 40%、毎回行う小テスト 20%の配分で総合的に行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストはそれぞれ採点して返却し、LMS上で模範解答を示す。また、演習・課題もそれぞれ確認して返却し、必要に応じてLMS上で解説する。内容に不備があるときは再提出となる場合がある。			
備考			

13	プログラミング II	EE-D-103	必修 2単位 1年後期
	Programming II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	前期の復習 (1): 数値の入出力と四則演算	教科書等を見直し、前期のプログラミング I で学んだ内容を理解する。授業の内容を理解し、次回小テストに備える。演習と課題に取り組み提出する。	2
第2回	前期の復習 (2): 分岐処理と繰り返し処理	分岐処理について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第3回	前期の復習 (3): 繰り返し処理	繰り返し処理について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第4回	配列	配列について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第5回	文字と文字列	文字と文字列処理について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第6回	標準関数とヘッダファイル	標準関数について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第7回	ユーザー関数の定義	ユーザー関数について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第8回	ポインタ (1): 配列とポインタ	ポインタについて教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第9回	ポインタ (2): ポインタと関数	ポインタと関数について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第10回	グローバル変数	グローバル変数について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第11回	ファイル処理	ファイル処理について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第12回	構造体	構造体について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第13回	プリプロセッサ	プリプロセッサについて教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。授業内容を理解し、演習と課題に取り組み提出する。返却された小テストを見直す。	2
第14回	まとめと試験	これまでの演習、課題、小テストを見直しして内容を理解し、試験に備える。試験で不明だった点を解決する。未提出の演習および課題を必ず全て提出する。	2

14	工学基礎実験	EE-F-102	必修 2単位 1年後期
	Physics Laboratory		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 葛西 重信 新井 敏一 高木 和夫 瀬谷 和夫 梅田 健太郎			
授業の達成目標			
工学の基礎力を身につけるために、実験を通して測定技術を習得すると共に、基本的な物理・化学現象を理解する。また、実験レポートの作成、レポートの発表および討論を通して、表現能力・発表能力を高める。			
授業の概要			
物理学・化学は近代科学の中心的な役割をになってきた。その発展は測定技術の進歩に支えられている。この実験を通して、科学する心構えや基本的な測定技術などを体得することをめざす。第1回のガイダンスの後、第2-7回は物理実験、第8-13回は化学実験を行い、最終回は報告会を行う。物理実験は以下のテーマの中から2週ごとに1テーマの実験を行う。[1] 重力加速度の測定、[2] 気柱共鳴による音速の測定、[3] 二本のスリットによる光の干渉実験、[4] 回折格子によるレーザー光の回折、[5] 電氣的共振現象の実験、[6] 比誘電率の測定、[7] 電子の比電荷の測定、[8] 物質によるβ線の吸収測定、[9] プランク定数の測定、[10] 光速の測定：位相差測定による方法、[11] フランク-ヘルツの実験、[12] ホイートストンブリッジを用いた金属抵抗の温度係数測定、[13] ニュートン環による球面曲率半径の測定 化学実験は以下のテーマについて実験を行う。[1] 電解質水溶液の電気伝導率測定 [2] 電解メッキ実験 [3] サイクリックボルタンメトリーの内容と演示実験など			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「工学基礎実験」東北工業大学工学部編			
参考書等			
成績評価方法・基準			
実験の進め方、実験レポートおよび口頭発表の内容、質疑応答の内容を総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
実験前に実験方法の確認、実験機器、器具の操作方法の確認、実験操作の実際と指導、実験レポートによる課題の整理を行う。			
備考			

14	工学基礎実験	EE-F-102	必修 2単位 1年後期
	Physics Laboratory		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	教科書の「第1部総説」部分を読んで予習する。	2
第2回	(物理実験) 実験テーマ1 実験計画	レポートを作成し課題問題を解いて復習する。	2
第3回	(物理実験) 実験テーマ1 実験	実験テーマ1として選んだ実験に関して、教科書で実験内容について読んで予習する。適宜文献を調べるなどして不明な点がないようにしておく。	2
第4回	(物理実験) 実験テーマ1 実験	レポートを作成し課題問題を解いて復習する。	2
第5回	(物理実験) 実験テーマ2 実験計画	実験テーマ2として選んだ実験に関して、自ら立てた実験計画にしたがって実験を進める。次回の授業までに報告書を作成する。	2
第6回	(物理実験) 実験テーマ2 実験	レポートを作成し課題問題を解いて復習する。	2
第7回	(物理実験) 実験テーマ2 実験	実験テーマ2として選んだ実験に関して、自ら立てた実験計画にしたがって実験を進める。次回の授業までに報告書を作成する。	2
第8回	(物理実験) 実験テーマ3 実験計画	レポートを作成し課題問題を解いて復習する。	2
第9回	(物理実験) 実験テーマ3 実験	実験テーマ3として選んだ実験に関して、教科書で実験内容について読んで予習する。適宜文献を調べるなどして不明な点がないようにしておく。	2
第10回	(物理実験) 実験テーマ3 実験	レポートを作成し課題問題を解いて復習する。	2
第11回	(物理実験) 実験テーマ3 実験	実験テーマ3として選んだ実験に関して、自ら立てた実験計画にしたがって実験を進める。次回の授業までに報告書を作成する。	2
第12回	(化学実験) 実験テーマ [1] の実験機器及び実験テーマ [2] の実験計画	レポートを作成し課題問題を解いて復習する。	2
第13回	(化学実験) 実験テーマ [2] 実験	実験テーマ [1] の実験機器の基本操作に関して、教科書で機器の操作内容について読んで予習する。実験テーマ [2] についても教科書を読み、適宜文献を調べるなどして不明な点がないようにしておく。	2
第14回	(化学実験) 実験テーマ [2] 実験	実験テーマ [2] の実験に関して、自ら立てた実験計画にしたがって実験を進める。次回の授業までに報告書を作成する。	2
第15回	(化学実験) 実験テーマ [3] 実験計画	レポートを作成し課題問題を解いて復習する。	2
第16回	(化学実験) 実験テーマ [3] 実験	実験テーマ [3] の実験に関して、教科書で実験内容について読んで予習する。適宜文献を調べるなどして不明な点がないようにしておく。	2
第17回	(化学実験) 実験テーマ [3] 実験	レポートを作成し課題問題を解いて復習する。	2
第18回	(化学実験) 実験テーマ [3] 実験	実験テーマ [3] の実験に関して、自ら立てた実験計画にしたがって実験を進める。次回の授業までに報告書を作成する。	2
第19回	(化学実験) 実験テーマ [4] 実験計画	レポートを作成し課題問題を解いて復習する。	2
第20回	(化学実験) 実験テーマ [4] 実験	実験テーマ [4] として選んだ実験に関して、教科書で実験内容について読んで予習する。適宜文献を調べるなどして不明な点がないようにしておく。	2
第21回	(物理実験) 実験テーマ [4] 実験	レポートを作成し課題問題を解いて復習する。	2
第22回	(物理実験) 実験テーマ [4] 実験	実験テーマ [4] として選んだ実験に関して、自ら立てた実験計画にしたがって実験を進める。次回の授業までに報告書を作成する。	2
第23回	工学基礎実験 報告会	ここまで行ってきた実験の中からひとつを選んで口頭発表する。口頭発表用のスライドをあらかじめ用意する。討論を通じてたがいの理解を深める。	2
第24回		レポートを作成し課題問題を解いて復習する。	2

15 コンピュータアーキテクチャ II A		EE-D-104	選択 2単位 1年後期
Computer Architecture II A			
授業形態	該当科目	SDGs の取り組み	
<input type="radio"/> 単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)		
<input type="radio"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	<input type="radio"/> 教職科目 (情報)		
<input type="radio"/> オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
<input type="radio"/> クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
1年全組 渋谷 正行			
授業の達成目標			
情報通信工学を学ぶ上で基礎となるコンピュータシステムに関するソフトウェアの基礎知識を理解、修得するとともに、基本情報技術者試験や IT パスポート試験に合格するに足る知識もあわせて獲得する。			
授業の概要			
データベースシステムの SQL を中心に理解する。ネットワーク技術はインターネット技術 (TCP/IP) の仕組みを理解する。情報セキュリティはウイルスからの保護技術を理解する。データ構造とアルゴリズムではリスト構造、ヒープ構造、配列構造などの処理アルゴリズムについて理解する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業での経験と実績からコンピュータアーキテクチャやソフトウェア技術に精通しており、授業において実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
工大生協「FE 支援システム」(アクティベーションを購入) リードガイダンス 工大生協 IT ワールド インフォテック・サーブ インフォテックサーブ 2003 IT ワールドサブノート インフォテック・サーブ インフォテックサーブ 2003			
参考書等			
成績評価方法・基準			
中間試験 (2 回) と期末試験の結果で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講義中にフィードバックを行う。			
備考			

15 コンピュータアーキテクチャ II A		EE-D-104	選択 2単位 1年後期
Computer Architecture II A			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	データの正規化	データベース設計、正規化について読んでおくこと。 第 3 正規形までの流れを e ラーニングで復習する。	2 2
第 2 回	SQL 文	データ操作言語の SQL について読んでおくこと。 SQL 操作について e ラーニングで復習する。	2 2
第 3 回	データベースの利用	データウェアハウス、データマイニングについて読んでおくこと。 データベースの利用について e ラーニングで復習する。	2 2
第 4 回	ネットワークの基礎技術	伝送制御手順について読んでおくこと。 ネットワークの基本構成と制御手順について e ラーニングで復習する。	2 2
第 5 回	ネットワークアーキテクチャ	OSI と TCP/IP について読んでおくこと。 OSI の 7 つの階層について e ラーニングで復習する。	2 2
第 6 回	LAN	LAN の制御とイントラネットについて読んでおくこと。 LAN の制御手順について e ラーニングで復習する。	2 2
第 7 回	ネットワーク管理	ICMP について読んでおくこと。 TCP/IP における通信制御管理について e ラーニングで復習する。	2 2
第 8 回	情報セキュリティ技術	ウイルスの種類と特徴について読んでおくこと。 情報セキュリティ技術の各手法について e ラーニングで復習する。	2 2
第 9 回	情報セキュリティ対策技術	情報セキュリティ対策の実施について読んでおくこと。 情報セキュリティ実装技術について e ラーニングで復習する。	2 2
第 10 回	データ構造	リスト、配列、木構造について読んでおくこと。 データ構造と LIFO、FIFO について e ラーニングで復習する。	2 2
第 11 回	ソートアルゴリズム	単純選択法、挿入法、クイックソートについて読んでおくこと。 ソートアルゴリズムのフローチャートについて e ラーニングで復習する。	2 2
第 12 回	探索アルゴリズムとマッチング	線形探索と 2 分探索について読んでおくこと。 探索アルゴリズムのオーダーについて e ラーニングで復習する。	2 2
第 13 回	マージアルゴリズム, OR	ファイルのマッチングによるデータの更新処理について読んでおくこと。 マッチングとマージのフローチャートについて e ラーニングで復習する。OR については例を見ておくこと	2 2
第 14 回	まとめと試験	e ラーニングを利用して予習する。 試験で不正解の箇所を復習する。	2 2

16	コンピュータアーキテクチャ II B	EE-D-105	選択 2単位 1年後期
	Computer Architecture II B		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
<input type="radio"/>	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
<input type="radio"/>	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
<input type="radio"/>	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
<input type="radio"/>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
1年全組 伊藤 和子			
授業の達成目標			
コンピュータアーキテクチャのソフトウェアとハードウェアのインターフェイスに関する基本設計原理について、その基本概念、構造役割を理解し、関連する知識を習得する。			
授業の概要			
コンピュータシステムのソフトウェアに関する基本概念を学習する。本講義を通じて、基本情報技術者試験や ITパスポート試験などに関係する知識の習得も行う。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員が、民間企業においてソフトウェアなどを開発した経験を活用し、実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「IT ワールド」, 「IT 戦略とマネジメント」 インフォテック・サーブ社「IT パスポート試験支援システム」(アクティベーションコードを購入) リードガイダンス			
参考書等			
成績評価方法・基準			
期末試験・確認テスト、及び、宿題 (IT パスポート試験支援システム課題) より判断される学習状況から総合的に評価し、60 点以上の者を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
詳しいことは最初の授業で説明する。次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

16	コンピュータアーキテクチャ II B	EE-D-105	選択 2単位 1年後期
	Computer Architecture II B		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	オリエンテーション、基礎理論(その1): ハードウェア、情報(データ)の表現、集合/論理演算	コンピュータアーキテクチャ I で学習した部分を確認する。	2
第2回	基礎理論(その2): 確率/統計、待ち行列理論/グラフ理論	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 確率/統計、待ち行列理論/グラフ理論に関する部分を読んで予習する。	2
第3回	ソフトウェア(その1): オペレーティングシステム、ソフトウェアパッケージ	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2
第4回	ソフトウェア(その2): ワープロソフト、オープンソースソフトウェア	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 ワープロソフト、オープンソースソフトウェアに関する部分を読んで予習する。	2
第5回	システム構成(その1): システム形態、システム構成	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 システム形態、システム構成に関する部分を読んで予習する。	2
第6回	システム構成(その2): システム形態、稼働率	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 システム形態、稼働率に関する部分を読んで予習する。	2
第7回	データベース(その1): 関係データベースの設計、データの正規化	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 関係データベースの設計、データの正規化に関する部分を読んで予習する。	2
第8回	データベース(その2): 関係データベースのデータ操作	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 関係データベースのデータ操作に関する部分を読んで予習する。	2
第9回	データベース(その3): DBMS(データベースのリカバリ機能)	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 DBMS(データベースのリカバリ機能)に関する部分を読んで予習する。	2
第10回	情報セキュリティ(その1): 情報セキュリティの脅威	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 情報セキュリティの脅威に関する部分を読んで予習する。	2
第11回	情報セキュリティ(その2): 情報セキュリティ対策	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 情報セキュリティ対策に関する部分を読んで予習する。	2
第12回	情報セキュリティ(その3): アクセス制御~暗号化/デジタル署名	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 アクセス制御、暗号化/デジタル署名に関する部分を読んで予習する。	2
第13回	マルチメディアとヒューマンインタフェース: マルチメディア技術、Webデザイン	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 マルチメディア技術、Webデザインに関する部分を読んで予習する。	2
第14回	総まとめと試験	教科書の問題およびプリント問題、IP支援システムからの課題問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。 ITパスポート試験の過去問題などを解き学習内容で不確実な部分をなくす。	4
			0

17	電気回路Ⅱ及び同演習	EE-B-202	必修 3単位 2年前期
	Electric Circuits and Its Exercises II		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		○ 教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年1組、2年2組 辛島 彰洋 内野 俊			
授業の達成目標			
記号法(交流の複素数表示、フェーザ)を用いた回路解析および諸定理を理解し、実際の交流回路に適用できるようになること。			
授業の概要			
電気回路Ⅱは、電気回路Ⅰに引き続き、記号法を用いて交流回路網を解析する。また、交流回路網に関する諸定理について講義する。さらに演習問題を解かせることで、既習事項の理解を深めさせる。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「電気回路の基礎」西巻、森、荒井共著 森北出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
課題レポートと定期試験で評価する。成績評価基準として、課題レポート 20%、定期試験 80%の配分で評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
演習課題および小テストはそれぞれ添削・採点后に返却する。必要に応じて、講義時またはLMS上で解説を行う。			
備考			

17	電気回路Ⅱ及び同演習	EE-B-202	必修 3単位 2年前期
	Electric Circuits and Its Exercises II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	電気回路Ⅰ及び同演習で学んだことの復習	交流回路の基本的性質など電気回路Ⅰ及び同演習で学んだ内容について教科書やノートを読み直しておく。教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第2回	電気回路Ⅰ及び同演習で学んだことの復習の演習	電気回路Ⅰ及び同演習の理解度を確保するため、予め演習問題を解いておく。自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第3回	交流回路計算の基本：フェーザ表示と極表示	交流回路のフェーザ表示と極表示に関する部分を読んで予習する。教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第4回	交流回路計算の基本：フェーザ表示と極表示の演習	交流回路のフェーザ表示と極表示に関する演習問題を解いて予習する。自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第5回	回路要素の直列および並列接続	交流回路の回路要素の直列および並列接続に関する部分を読んで予習する。教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第6回	回路要素の直列および並列接続の演習	回路要素の直列および並列接続に関する演習問題を解いて予習する。自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第7回	2端子回路の直列接続：インピーダンスの合成	交流回路のインピーダンスの合成に関する部分を読んで予習する。教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第8回	2端子回路の直列接続：インピーダンスの合成の演習	交流回路のインピーダンスの合成に関する演習問題を解いて予習する。自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第9回	2端子回路の並列接続：アドミタンスの合成	交流回路のアドミタンスの合成に関する部分を読んで予習する。教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第10回	2端子回路の並列接続：アドミタンスの合成の演習	交流回路のアドミタンスの合成に関する演習問題を解いて予習する。自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第11回	交流電力	交流電力に関する部分を読んで予習する。教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第12回	交流回路網の解析：キルヒホッフ則の適用	交流回路のキルヒホッフ則の適用に関する部分を読んで予習する。教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第13回	交流回路網の解析：キルヒホッフ則の適用に関する演習	交流回路のキルヒホッフ則の適用に関する演習問題を解いて予習する。自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第14回	交流回路網の諸定理：重ね合わせの理、テブナンの定理の定理	交流回路の重ね合わせの理、テブナンの定理の定理に関する部分を読んで予習する。教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第15回	電磁誘導結合回路	電磁誘導結合回路に関する部分を読んで予習する。教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第16回	電磁誘導結合回路の演習	電磁誘導結合回路に関する演習問題を解いて予習する。自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第17回	変圧器結合回路	変圧器結合回路に関する部分を読んで予習する。教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5
第18回	変圧器結合回路の演習	変圧器結合回路に関する演習問題を解いて予習する。自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5
第19回	交流回路の周波数特性	交流回路の周波数特性に関する部分を読んで予習する。教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5

17 電気回路Ⅱ及び同演習		EE-B-202	必修 3単位 2年前期
Electric Circuits and Its Exercises II			
授業計画（各回の学習内容等）			
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	目安時間(時)
第20回	交流回路の周波数特性の演習	交流回路の周波数特性に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5 2.5
第21回	直列共振	交流回路の直列共振に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第22回	直列共振の演習	交流回路の直列共振に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5 2.5
第23回	並列共振	交流回路の並列共振に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第24回	並列共振の演習	交流回路の並列共振に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5 2.5
第25回	対称3相交流回路	対称3相交流回路に関する部分を読んで予習する。 教科書やノート、配付資料を見直して学習したことを復習する。	2.5 2.5
第26回	対称3相交流回路の演習	対称3相交流回路に関する演習問題を解いて予習する。 自分の力ですべての問題を解けるようになるまで繰り返し復習をする。	2.5 2.5
第27回	交流回路のまとめ	交流回路についてこれまで学んできた内容に関する演習問題を解き、自分が理解できていない箇所を見つける。 まとめの講義で触れられた箇所に関する演習問題を解いて、問題の解法を復習する。	2.5 2.5
第28回	試験とまとめ	教科書やノート、配付資料を見直したり演習問題を解きなおしたりすることで、試験に備える。 試験の結果をふまえて自分の理解が不足している箇所を見つけて、重点的に復習をする。	2.5 2.5

18	電磁気学 I	EE-B-203	必修 2単位 2 年前期
	Electromagnetics I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	<input type="radio"/> 教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2 年全組 田河 育也			
授業の達成目標			
電磁気学は電気電子分野のみならず制御工学や医工学の研究分野などにも深い関わりを持っている。本講義では静的な電磁場の基礎的理論を理解し、各分野へ応用することのできるベクトル解析手法や”場”の考え方を身につける。真空中および物質中の静電場の性質を理解し、簡単な電場や静電ポテンシャルなどを求められることを目標とする。			
授業の概要			
クーロンの法則から電場の概念を説明し、電場の基本的な性質から静電場に関するマクスウエルの方程式を導出する。ベクトル場の数学的表記と計算手法を習得したうえで、ガウスの法則および電場の保存則を理解し、簡単な電場の計算ができるようにする。導体および物質中の電荷と静電場の性質を学び、電気の身近な諸現象が電磁気学の原理により理解できることを示す。			
実務経験を活かした教育について			
民間企業において電子機械の設計開発に携わった経験を活かし、モノづくりに役立つ人材の育成に努める。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「電磁気学」兵頭俊夫著 裳華房 2,600 円参考書 「電磁気学」宇野亨・白井宏 コロナ社			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中課題 40%、定期試験 60%の評価合計 60 点以上で合格とする。真空中および導体・誘電体中の電場の性質を理解し、静電場に関する基礎的問題を解くことができること。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に、提出課題に対しての見解や、よくある誤り等についてコメントするなど、全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

18	電磁気学 I	EE-B-203	必修 2単位 2 年前期
	Electromagnetics I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	電磁気学の概説、物理量の次元とベクトル	予習として高校授業のベクトルを見直しておく 次元について学んだことを復習する	2 2
第 2 回	電場とベクトル、ベクトルの和と差、ベクトルのスカラー積	ベクトルの演算の公式を調べておく ベクトル場について学んだことを復習する	2 2
第 3 回	クーロンの法則と電場、電場の重ね合わせの原理、ローレンツ力	教科書を読んでクーロン電場とは何かを調べておく クーロン電場および電場の重ねあわせの計算方法を復習する	2 2
第 4 回	数学的基礎：微分、ベクトル場の線積分・面積分、立体角	微積分について電気数学で学んだことを確認しておく 面積分や体積積分、および立体角の概念を復習する	2 2
第 5 回	真空の誘電率、電束密度、ガウスの法則 (マクスウエルの方程式 1)	誘電率や電束密度の定義を調べておく 電束密度におけるガウスの法則の概念を復習する	2 2
第 6 回	球対称分布電荷の周りの電場	3次元極座標での積分方法について調べておく ガウスの法則の使い方を十分に復習する	2 2
第 7 回	円筒対称分布電荷の周りの電場	円筒座標における積分方法について調べておく ガウスの法則の例題が確実に解けるまで復習する	2 2
第 8 回	保存場と場の循環、電場の循環 (マクスウエルの方程式 2)	エネルギー保存則について調べておく 電場の循環と保存場の意味を理解できるまで復習する	2 2
第 9 回	静電ポテンシャルと電場	静電ポテンシャルとは何かを調べておく 静電ポテンシャルの例題が確実に解けるまで復習する	2 2
第 10 回	電気双極子の周りの静電ポテンシャルと電場	電気双極子とは何かを調べておく 静電ポテンシャルから電場を求める計算方法を復習する	2 2
第 11 回	導体の基本的性質、等ポテンシャル面と電場、静電遮蔽	導体の性質について調べておく 導体近傍電場の例題が確実に解けるまで復習する	2 2
第 12 回	静電容量、鏡像	電場と電圧について予習しておく 静電容量の計算方法について十分に復習する	2 2
第 13 回	誘電体、分極、誘電体境界での電場と電束密度の連続条件	誘電体や分極などの用語の定義を調べておく、 誘電体内電場の例題が確実に解けるまで復習する	2 2
第 14 回	まとめと試験	全ての授業中課題が解けるように見直しておく 解けなかった問題と類似の課題を十分に復習する	2 2

19	電気数学Ⅲ	EE-A-213	選択 2単位 2年前期
	Mathmatics III		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 室山 真徳 柴田 憲治			
授業の達成目標			
微分方程式の基本的な解法を身につけるとともに、ラプラス変換およびフーリエ解析を用いる解法を修得して、電気・電子回路の応答解析に応用できるようになること。			
授業の概要			
常微分方程式の基本的解法、ラプラス変換、フーリエ級数、フーリエ変換による解法、およびその電気・電子回路への応用を中心に学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「理工系のための数学入門 微分方程式・ラプラス変換・フーリエ解析」一色秀夫・塩川高雄著 オーム社参考書 「やさしく学べる微分方程式」石村園子著 共立出版「やさしく学べるラプラス変換・フーリエ解析」石村園子著 共立出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中における小テストやレポートによる評価 40%、期末試験による評価 60% の配分で、総合的に成績を評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポート課題に対しては、次回授業時に解答を示し、よくある誤り等についてコメントする。			
備考			

19	電気数学Ⅲ	EE-A-213	選択 2単位 2年前期
	Mathmatics III		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	微分方程式を自然現象の記述に即して理解三角関数、微分、および積分について習熟	微分方程式と自然現象の関連性に関する部分を予習する。三角関数、微分、および積分に関する部分を予習する。 配付プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する	2 2
第2回	1階常微分方程式：変数分離形微分方程式の解法	変数分離形微分方程式の解法に関する部分を予習する。 配付プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第3回	1階常微分方程式：線形微分方程式の解法	線形微分方程式の解法に関する部分を予習する。 配付プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第4回	1階常微分方程式：電気回路への応用	電気回路への応用に関する部分を予習する。 配付プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第5回	2階常微分方程式：線形同次方程式の解法	線形同次方程式の解法に関する部分を予習する。 配付プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第6回	2階常微分方程式：線形非同次方程式の解法	線形非同次方程式の解法に関する部分を予習する。 配付プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第7回	ラプラス変換：定義と基本的性質	ラプラス変換：定義と基本的性質に関する部分を予習する。 配付プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第8回	ラプラス変換：ラプラス変換による常微分方程式の解法	ラプラス変換による常微分方程式の解法の部分を予習する。 配付プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第9回	逆ラプラス変換：ヘビサイド展開を用いた解法	ヘビサイド展開を用いた解法に関する部分を予習する。 配付プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第10回	逆ラプラス変換：伝達関数の概念、電気電子回路の過渡応答解析	伝達関数の概念、回路の過渡応答解析に関する部分を予習する。 プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第11回	フーリエ解析：周期関数とフーリエ級数	周期関数とフーリエ級数に関する部分を予習する。 配付プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第12回	フーリエ解析：フーリエ級数とフーリエ変換による常微分方程式の解法	フーリエ変換による常微分方程式の解法に関する部分を予習する。 プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第13回	フーリエ解析：電気電子回路の過渡応答解析	電気電子回路の過渡応答解析に関する部分を予習する。 配付プリントの問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第14回	まとめと試験	これまでの総復習をする。 試験で解けなかったところを再度復習する。	2 2

20 物理学 II		EE-A-210	選択 2単位 2 年前期
Physics II			
授業形態	該当科目	SDGs の取り組み	
○ 単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	 	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2 年全組 新井 敏一			
授業の達成目標			
自然現象を定量的に理解し、その内容のポイントを文章等で説明できること。1. 種々の条件のもとでのバネの振動を定量的に理解し、RLC交流回路などとの関係を理解する。2. 波動現象として音、光を理解する。3. 力の概念を応力まで広げた力学を理解する。			
授業の概要			
本授業では「物理学 I」の基礎の上に立ってバネの振動を例に減衰・強制・連成振動を学び、続いて、振動が空間的に伝わる現象である波動に関して波の特性や波動方程式、音や光の波動現象について学ぶ。さらに、弾性体の力学の基礎を学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 ハリディ・レスニック・ウォーカー 共著 野崎光昭 監訳「物理学の基礎 2 波・熱」培風館教科書 ハリディ・レスニック・ウォーカー・ホワイトントン 共著 野崎光昭 監訳「演習・物理学の基礎 2 波・熱」培風館			
参考書等			
成績評価方法・基準			
試験で 60 点以上を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業中に出题した課題は、次の授業で解説する。			
備考			

20 物理学 II		EE-A-210	選択 2単位 2 年前期
Physics II			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	単振動	教科書で単振動について予習する。	2
第 2 回	減衰振動	単振動の演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2
第 3 回	過減衰・臨界減衰	教科書で減衰振動について予習する。	2
第 4 回	強制振動・共振	減衰振動の演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2
第 5 回	波動現象を記述する物理量	教科書で過減衰・臨界減衰について予習する。	2
第 6 回	波動方程式	過減衰・臨界減衰の演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2
第 7 回	音波、弾性体を伝わる縦波	教科書で強制振動・共振について予習する。	2
第 8 回	波の反射と透過	強制的振動・共振の演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2
第 9 回	波の重ね合わせ、定常波	教科書で波動現象を記述する物理量について予習する。	2
第 10 回	波の反射、屈折	波動現象を記述する物理量の演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2
第 11 回	回折、ドップラー効果	教科書で波動方程式について予習する。	2
第 12 回	ひずみと応力、フックの法則	波の重なり、弾性体を伝わる縦波について予習する。	2
第 13 回	ヤング率、体積弾性率、ずれ弾性率	音波、弾性体を伝わる縦波の演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2
第 14 回	まとめと試験	教科書で波の反射、屈折について予習する。	2
		波の重なり、定常波の演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2
		教科書で波の反射、屈折について予習する。	2
		回折、ドップラー効果の演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2
		教科書でひずみと応力、フックの法則について予習する。	2
		ひずみと応力、フックの法則の演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2
		教科書でヤング率、体積弾性率、ずれ弾性率について予習する。	2
		ヤング率、体積弾性率、ずれ弾性率の演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2
		これまでに学習した内容をすべて理解していることを確かめる。演習問題を自分の力で解けるようになるまで繰り返し復習する。	2
		試験問題を自分の力で解けるようによく復習する。	2

21	電気化学	EE-A-211	選択 2単位 2年前期
	Electrochemistry		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 葛西 重信			
授業の達成目標			
電気分解や電池反応だけでなく、酸化還元反応に分類される反応はみな原子及び分子の電子授受によるものであることを理解する。			
授業の概要			
まず、平衡論について説明し、電気分解や電池の反応の基礎である酸化還元反応について講義する。次に、速度論について電子移動の速さについて説明する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書	電気化学 (基礎化学コース) 渡辺正著 丸善出版		
参考書等			
成績評価方法・基準			
レポートおよび定期試験の結果にて総合的に評価する。授業で課題・レポート等を提示し、次回以降の授業時に対しての見解やよくある誤り等についてコメントする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
単元ごとの問題演習によるフィードバック、定期試験により知識理解の確認を行う。			
備考			

21	電気化学	EE-A-211	選択 2単位 2年前期
	Electrochemistry		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	酸化還元反応	標準電極電位について教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第2回	ネルンストの式	ファラデーの法則について教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第3回	水の電解	自発変化について教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第4回	熱力学第2法則	熱力学第3法則について教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第5回	ギブズエネルギー	平衡定数を教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第6回	標準生成ギブズエネルギー	絶対エントロピーについて教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第7回	反応速度	速度定数について教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第8回	反応次数	活性化エネルギーについて教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第9回	酵素反応	拡散についてについて教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第10回	拡散方程式	コッレルの式についてについて教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第11回	サイクリックボルタンメトリー	表面反応について教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第12回	電解電流の大きさ	表面単分子層について教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第13回	走査型トンネル顕微鏡	原子間力顕微鏡について教科書を読んで予習する。 教科書を読み返し課題問題を解いて復習する。	2 2
第14回	まとめ	定期試験を受験し、総復習を行う。 総復習する。	2 2

22	コンピュータアーキテクチャⅢ A	EE-D-206	選択 2単位 2年前期
	Computer Architecture III A		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
<input type="radio"/>	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
<input type="radio"/>	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
<input type="radio"/>	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
<input type="radio"/>		実務経験のある教員担当	
<input type="radio"/>		アクティブラーニング	
<input type="radio"/>		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 渋谷 正行			
授業の達成目標			
企業における情報戦略を学び、情報技術を活用し企業内での情報システムを構築する開発技法を獲得する。基本情報技術者試験や IT パスポート試験の出題範囲であるストラテジ、マネジメント分野も習得する。			
授業の概要			
企業を取り巻く法務を学び経営戦略を理解する。企業理念から生まれる情報システム戦略構築の技術を学び、システム開発技術を習得する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業での経験と実績からコンピュータアーキテクチャやソフトウェア技術に精通しており、授業において実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
「FE 支援システム」(アクティベーションコードを購入) リードガイド IT 戦略とマネジメント インフォテック・サーブ インフォテック・サーブ 2008 情報とマネジメントサブノート インフォテック・サーブ インフォテック・サーブ 2008			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テスト 30%、まとめの試験 50%、宿題等 20% の配分で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業中にオンラインで演習課題を出し、解答を返信した時点で採点し、正解とともにフィードバックする。			
備考			

22	コンピュータアーキテクチャⅢ A	EE-D-206	選択 2単位 2年前期
	Computer Architecture III A		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	企業の組織体系	事業部制、PMBOK について予習する。 目的に合わせた組織体系を e ラーニングで復習する。	2 2
第2回	経営科学	OR・IE 技術について予習する。 具体的な OR 技術について e ラーニングで復習する。	2 2
第3回	法務	知的財産権、セキュリティ関連法規について予習する。 企業のコンプライアンスについて e ラーニングで復習する。	2 2
第4回	経営マネジメント	マーケティング手法について予習する。 ビジネス戦略について eラーニングで復習する。	2 2
第5回	ビジネスインダストリ	ビジネスシステムの種類と特徴について予習する。 ビジネス形態について e ラーニングで復習する。	2 2
第6回	情報システム	ソリューションビジネスについて予習する。 情報システムの要件定義について e ラーニングで復習する。	2 2
第7回	システム開発技術	ウォーターフォールモデル、プロトタイプモデル、スパイラルモデルについて予習する。 ウォーターフォールモデルでの成果物、テストについて e ラーニングで復習する。	2 2
第8回	ソフトウェア開発技術	ソフトウェア設計について予習する。 ソフトウェア設計の成果物について e ラーニングで復習する。	2 2
第9回	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメントの考え方について予習する。 PMBOK の内容について e ラーニングで復習する。	2 2
第10回	サブジェクトマネジメント	スコープマネジメントについて予習する。 タイムマネジメント、品質マネジメントシステムについて e ラーニングで復習する。	2 2
第11回	サービスマネジメント	サービスデスク、インシデント管理、問題管理、構成管理、リリース管理について予習する。 サービスマネジメントで行うべき事項について e ラーニングで復習する。	2 2
第12回	ITIL	ITIL でのベストプラクティスについて予習する。 同業他社のベンチマークによるBPMIについて e ラーニングで復習する。システム監査について e ラーニングで復習する。	2 2
第13回	サービスマネジメントとシステム監査	SLA について予習する。 サービスマネジメント設計・移行について e ラーニングで復習する。	2 2
第14回	まとめと試験	e ラーニングで予習する。 試験で不正解の箇所を復習する。	2 2

23	コンピュータアーキテクチャⅢ B	EE-D-207	選択 2単位 2年前期
	Computer Architecture III B		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
<input type="radio"/>	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
<input type="radio"/>	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
<input type="radio"/>	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
<input type="radio"/>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 伊藤 和子			
授業の達成目標			
コンピュータアーキテクチャの基本的な知識を基に、情報システム戦略やシステム企画、さらには経営戦略マネジメントや技術戦略マネジメントの基本的な考え方を理解する。			
授業の概要			
企業における情報システム戦略やシステム企画、経営戦略マネジメントや技術戦略マネジメント、及び法務、情報社会、情報倫理を習得する。本講義を通じて、基本情報技術者試験や IT パスポート試験などに関係する知識の習得も行う。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員が、民間企業においてソフトウェアなどを開発した経験を活用し、実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「IT ワールド」、 「IT 戦略とマネジメント」 インフォテック・サーブ社「IT パスポート試験支援システム」(アクティベーションコードを購入) リードガイダンス			
参考書等			
成績評価方法・基準			
期末試験・確認テスト、及び、宿題 (IT パスポート試験支援システム課題) より判断される学習状況から総合的に評価し、60 点以上の者を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
詳しいことは最初の授業で説明する。次回授業時に全体に対しフィードバックを行う。			
備考			

23	コンピュータアーキテクチャⅢ B	EE-D-207	選択 2単位 2年前期
	Computer Architecture III B		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	アルゴリズムとプログラミング (その1) : データ構造、検索アルゴリズム	データ構造、検索アルゴリズムに関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第2回	アルゴリズムとプログラミング (その2) : 整列アルゴリズム (1)、マークアップ言語	整列アルゴリズム (1)、マークアップ言語に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第3回	システム開発技術 (その1) : システム開発工程、ソフトウェア開発管理技術	システム開発工程、ソフトウェア開発管理技術に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第4回	システム開発技術 (その2) : テスト工程、ソフトウェア導入・受入れ工程	テスト工程、ソフトウェア導入・受入れ工程に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第5回	プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント (その1) : プロジェクトマネジメント、その他の知識工	プロジェクトマネジメント、その他の知識エリアに関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第6回	プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント (その2) : サーマネジメント、内部統制	サービスマネジメント、内部統制に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第7回	企業と法務 (その1) : 企業活動・意思決定	企業活動・意思決定に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第8回	企業と法務 (その2) : 企業会計 (財務会計)・企業会計 (管理会計)	企業会計 (財務会計)・企業会計 (管理会計)に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第9回	企業と法務 (その3) : 知的財産権 (1)、標準化関連	知的財産権 (1)、標準化関連に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第10回	経営戦略 (その1) : 経営戦略・技術開発戦略	経営戦略・技術開発戦略に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第11回	経営戦略 (その2) : 経営管理システム・民生機器/産業機器	経営管理システム・民生機器/産業機器に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第12回	システム戦略 (その1) : 情報システム戦略・業務改善	情報システム戦略・業務改善に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第13回	システム戦略 (その2) : ソリューションビジネス・システム企画	ソリューションビジネス・システム企画に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題およびプリント問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第14回	まとめと試験	ITパスポート試験の過去問題などを解き学習内容で不確実な部分をなくす。	4 0

24 アルゴリズム基礎		EE-D-208	選択 2単位 2年前期
Basic Algorithms			
授業形態	該当科目	SDGs の取り組み	
○ 単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	 	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	○ 教職科目 (情報)		
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
○ クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
2年全組 中山 英久			
授業の達成目標			
効率的でかつ正確に問題解決を行う手順であるアルゴリズムを用いて、コンピュータで動作するプログラムを自らの手で作成することができるようになること。その上で、IPA情報処理技術者試験（iパス・基本情報・応用情報等）を受験するために必要な知識を習得すること。			
授業の概要			
C言語プログラミングの文法、技法を用いて標準的なプログラミングを行う際に、よく用いられる各種アルゴリズムについて学ぶ。さらに、実験データ処理に不可欠なファイル処理についても学習する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
データ構造とアルゴリズム 第4版 インフォテック・サーブ 2023			
参考書等			
アルゴリズム図鑑 増補改訂版 絵で見えてわかる33のアルゴリズム 石田保輝 著, 宮崎修一 著 翔泳社 2023 情報処理教科書 出るところだけ! 基本情報技術者 [科目B] 第3版 橋本祐史 著 翔泳社 2022			
成績評価方法・基準			
レポート課題等の提出状況 50%、定期試験の結果 50%により、総合的な評価を行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は期限までに提出することを前提とし、LMS 等でフィードバックする。			
備考			

24 アルゴリズム基礎		EE-D-208	選択 2単位 2年前期
Basic Algorithms			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	構造体、プリプロセッサ	構造体、プリプロセッサに関する部分を読んで予習する。 構造体、プリプロセッサについて復習する。	2 2
第2回	問題分析とアルゴリズム	問題分析とアルゴリズムに関する部分を読んで予習する。 問題分析とアルゴリズムについて復習する。	2 2
第3回	流れ図 (フローチャート) と基本制御構造	流れ図 (フローチャート) と基本制御構造に関する部分を読んで予習する。 基本制御構造について復習する。	2 2
第4回	疑似言語とアルゴリズムの評価	疑似言語とアルゴリズムの評価に関する部分を読んで予習する。 アルゴリズムの評価について復習する。	2 2
第5回	配列とリスト	配列とリストに関する部分を読んで予習する。 配列とリストについて復習する。	2 2
第6回	スタック、キュー、木構造	スタック、キュー、木構造に関する部分を読んで予習する。 スタック、キュー、木構造について復習する。	2 2
第7回	線形探索、2分探索	線形探索、2分探索に関する部分を読んで予習する。 線形探索、2分探索について復習する。	2 2
第8回	基本選択法、基本交換法、基本挿入法	基本選択法、基本交換法、基本挿入法に関する部分を読んで予習する。 基本選択法、基本交換法、基本挿入法について復習する。	2 2
第9回	クイックソート、マージソート	クイックソート、マージソートに関する部分を読んで予習する。 クイックソート、マージソートについて復習する。	2 2
第10回	ファイル処理に関する演習	ファイル処理に関する部分を読んで予習する。 ファイル処理プログラムの動作について復習する。	2 2
第11回	データ処理に関する演習	データ処理に関する部分を読んで予習する。 データ処理プログラムの動作について復習する。	2 2
第12回	データ構造に関する問題演習	データ構造に関する部分を読んで予習する。 出来なかった問題について復習する。	2 2
第13回	アルゴリズムに関する問題演習	アルゴリズムに関する部分を読んで予習する。 出来なかった問題について復習する。	2 2
第14回	まとめと試験	これまで学んだ部分を予めまとめておく。 試験で解けなかった部分を復習する。	2 2

25	電気回路Ⅲ	EE-B-204	必修 2単位 2年後期
	Electric Circuits III		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		○ 教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 宮下 哲哉			
授業の達成目標			
電気回路の基礎をなす二端子対回路の構成とその定数の物理的な意味と使い方を理解して回路網の計算ができること。また、時間的に変化する波形を微分方程式及びラプラス変換法を用いて解析できること。			
授業の概要			
二端子対回路(四端子網)と過渡現象を取り上げる。前半の二端子対回路は回路網の電気的特性、入出力端子の電圧と電流の関係を学び、応用例から理解を深める。また、後半は過渡現象について、過渡的電圧、電流を微分方程式とラプラス変換を用いて解く方法を学ぶ。講義では理解の補助に資料を配付し、毎回講義の開始時にミニテストを実施する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「続電気回路の基礎」第3版 西巻・下川・奥村共著 森北出版参考書 「例題と演習で学ぶ続電気回路」服部著 森北出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
定期試験で60%以上の評点を決め、授業中のミニテスト及び演習の結果などから最大40%の評点を決めて、合計で評価する。ミニテストは実施の前の回に配布した正解例と比べ理解を確認し、演習は実施回に正解の配布と解説をする。点数はポータルサイトで確認す			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講義の最初の時間帯にミニテストの解説を行う。さらに質問のある学生に対して、講義の終わり頃の時間帯に個別の質疑応答を行う。			
備考			

25	電気回路Ⅲ	EE-B-204	必修 2単位 2年後期
	Electric Circuits III		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	重ね合わせの理、テブナンの定理	講義の理解に必要な電気回路Ⅱの内容について、教科書とノートなどを見て内容を再確認し、理解していない部分を補っておく。重ね合わせの理、テブナンの定理に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を再度解いて理解の確認を行う。	2
第2回	二端子対回路・マトリクスの表示	続く講義の理解のために重ね合わせの理、テブナンの定理に関して教科書と配付資料を見て再度確認を行う。また練習問題を解いて次のミニテストに備える。	2
第3回	インピーダンス行列、アドミタンス行列	二端子対回路・マトリクスの表示に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を再度解いて理解の確認を行う。	2
第4回	縦続行列	続く講義の理解のために二端子対回路・マトリクスの表示に関して教科書と配付資料を見て再度確認を行う。また練習問題を解いて次のミニテストに備える。	2
第5回	縦続接続と回路網の計算	縦続行列に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を再度解いて理解の確認を行う。	2
第6回	二端子対回路の入出力特性	縦続接続と回路網の計算に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を再度解いて理解の確認を行う。	2
第7回	定常現象と過渡現象	二端子対回路の入出力特性に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を再度解いて理解の確認を行う。	2
第8回	過渡現象と微分方程式	続く講義の理解のために二端子対回路の入出力特性に関して教科書と配付資料を見て再度確認を行う。また練習問題を解いて次のミニテストに備える。	2
第9回	初等的解法	過渡現象と微分方程式に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を再度解いて理解の確認を行う。	2
第10回	簡単な関数とラプラス変換	続く講義の理解のために過渡現象と微分方程式に関して教科書と配付資料を見て再度確認を行う。また練習問題を解いて次のミニテストに備える。	2
第11回	逆ラプラス変換による解法	初等的解法に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を再度解いて理解の確認を行う。	2
第12回	電気回路へのラプラス変換の応用	続く講義の理解のために簡単な関数とラプラス変換に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を再度解いて理解の確認を行う。	2
第13回	複雑なラプラス変換の解法	逆ラプラス変換による解法に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を再度解いて理解の確認を行う。	2
第14回	全体の復習と総合演習	電気回路へのラプラス変換の応用に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を再度解いて理解の確認を行う。	2
		複雑なラプラス変換の解法に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を再度解いて理解の確認を行う。	2
		本講義で学んだ全内容に関して教科書と配付資料を見て理解を深める。また練習問題を解いて、試験に備える。	2

26	電磁気学 II	EE-B-205	必修 2単位 2年後期
	Electromagnetics II		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		○ 教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 柴田 憲治			
授業の達成目標			
電場、電束密度、磁場、磁束密度の4つの基本的物理量とこれらの従うマクスウェルの方程式を理解し、簡単な発生磁場や電流に働く力、インダクタンスや静電容量などを求められる電磁気学の基礎的応用力を持つこと。			
授業の概要			
電磁気学 I で学んだ静電気学と数学的基礎を基盤にして、磁場、磁束密度及び磁化の基本を説明する。さらに、電磁誘導則と変位電流の導入により、電場と磁場がマクスウェル方程式として統一的に理解できることを学ぶ。また、インダクター、電磁石、モーター、発電機等の身近なものや電磁気学の関わりについても学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「電磁気学」兵頭俊夫著 裳華房			
参考書等			
成績評価方法・基準			
試験(70%)とレポート(30%)で総合的に評価する。100点満点で評価合計60点以上の得点で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポート課題について、次回授業時にフィードバックを行う。			
備考			

26	電磁気学 II	EE-B-205	必修 2単位 2年後期
	Electromagnetics II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	電磁気学 I の復習。直線電流の周りの磁場、ベクトル積	ベクトル積について予習。	2
第2回	透磁率、磁束密度とローレンツ力、ビオ・サバールの法則	ベクトル積の表し方を復習。 ビオ・サバールの法則を復習。	2
第3回	ビオ・サバールの法則による直線、円環電流の磁場	ビオ・サバールの法則の使い方を予習。 同法則による磁場の求め方を復習。	2
第4回	アンペールの法則(マクスウェル方程式3)と円柱、円筒電流の周りの磁場	アンペールの法則を予習。 同法則を用いた磁場の求め方を復習。	2
第5回	ソレノイドコイルの磁場、ローレンツ力と電流の受ける力	ローレンツ力を予習。 ソレノイドの磁場、磁場が電流に及ぼす力を復習。	2
第6回	平行直線電流間に働く力、電流の定義	電流間に働く力を予習。 平行直線電流間の力を復習。	2
第7回	電流ループと磁気モーメント、磁場のガウスの法則(マクスウェル方程式4)	電流ループに働く力を予習。 磁気モーメントを復習。	2
第8回	電磁誘導、誘導電場(マクスウェル方程式2の完成形)	電磁誘導について予習。 誘導電場を復習。	2
第9回	相互および自己インダクタンス	コイルの磁束について予習。 インダクタンスについて復習。	2
第10回	変位電流(マクスウェル方程式3の完成形)	変位電流について予習。 変位電流とマクスウェルの方程式を復習。	2
第11回	交流回路と LCR の性質	LCR について予習。 LCR の電気回路的な扱いを復習。	2
第12回	磁性体、磁化と仮想磁化電流	磁化について予習。 磁化電流の概念を復習。	2
第13回	磁化と磁束密度、物質境界での磁場の接続条件磁場と電場、L と C のエネルギー、電磁波	磁束密度、L と C のエネルギーについて予習。 磁化と磁束密度、磁場の接続条件、電磁波について復習。	2
第14回	まとめと試験	従前の学習内容を理解し、期末試験に備える。 不確実だった問題について、講義ノートを見直し不明な点を解決する。	2

27	固体電子工学 I	EE-B-206	必修 2単位 2年後期
	Solid State Electronics I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 田河 育也			
授業の達成目標			
エレクトロニクス研究に必須となる電子の振る舞いを理解するため、量子力学の基礎的概念を理解する。運動量と物質波、シュレーディンガー方程式、波動関数、トンネル効果、不確定性原理などの量子力学的性質について理解し、簡単なポテンシャル中の粒子の量子状態を求められること。さらに、固体電子工学の学習に必要な、原子の電子状態についての基礎的な理解ができること。			
授業の概要			
現在のエレクトロニクス材料およびデバイスを扱うには、原子オーダーのミクロの世界を支配する量子力学の理解が必須である。難解な量子力学の解釈には立ち入らず、材料物性の基礎となる電子の量子的振る舞いや水素原子の電子状態について基礎的な理解が得られるように分かり易く解説する。3学年以降で学ぶ固体電子工学Ⅱや同Ⅲへの入門となる。			
実務経験を活かした教育について			
民間企業において電子機械の設計開発に携わった経験を活かし、モノづくりに役立つ人材の育成に努める。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「基礎電子物性工学」阿部正紀著 コロナ社			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中課題 40%、定期試験 60%の評価合計 60 点以上で合格とする。シュレーディンガー方程式の意味を理解し、簡単なポテンシャル中の量子状態を求めることができること。また、水素原子の電子状態を表す種々量子数とその意味について説明できること。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回授業時に、提出課題に対しての見解や、よくある誤り等についてコメントする。			
備考			

27	固体電子工学 I	EE-B-206	必修 2単位 2年後期
	Solid State Electronics I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	電子物性と量子力学、量子力学の歴史	量子力学の歴史について調べておく。	2
第2回	光電効果、ボーアの原子模型、ド・ブロイ波	物質の波動性と粒子性について復習する。	2
第3回	シュレーディンガー方程式、波動関数の意味	黒体放射と光電効果について調べておく。	2
第4回	演算子、固有関数、定常状態の波動方程式	ボーアの原子模型とド・ブロイ波の関係を復習する。	2
第5回	一次元自由粒子、井戸型ポテンシャル中の粒子	波動関数と波動方程式について調べておく。	2
第6回	無限大井戸型ポテンシャル中の粒子の固有値・固有状態	シュレーディンガー方程式の意味を復習する。	2
第7回	有限井戸型ポテンシャル中の粒子の波動関数と浸み出し	数学で学んだ固有値と固有状態について確認しておく。	2
第8回	凸型障壁での反射と透過、トンネル効果	一次元のシュレーディンガー方程式の導出方法を復習する。	2
第9回	水素原子の電子の波動方程式、変数分離解と量子数	ポテンシャル井戸の物理的意味を調べておく。	2
第10回	水素原子の波動関数と軌道角運動量	ポテンシャル井戸中の波動関数の導出方法を復習する。	2
第11回	電子のスピン、スピン量子数、磁気モーメント	シュレーディンガー方程式についてこれまで学んだことを整理しておく。	2
第12回	多電子原子の電子配置とバンド理論	無限大井戸型ポテンシャル中の粒子の例題が解けるまで復習する。	2
第13回	EPRパラドックス、量子情報工学	波動関数の浸みだしとは何を意味するか調べておく。	2
第14回	まとめと試験	有限深さ井戸型ポテンシャル中の粒子の例題が解けるまで復習する。	2
		トンネル効果について調べておく。	2
		障壁での反射・透過係数の導出を復習する。	2
		水素原子の電子構造を調べておく。	2
		水素原子の波動関数の変数分離解を復習する。	2
		力学で学ぶ角運動量の性質について調べておく。	2
		波動関数と軌道角運動量の関係について復習する。	2
		軌道角運動量とスピン角運動量の違いを調べておく。	2
		スピンと磁気モーメントの関係について復習する。	2
		周期律表の特徴を調べておく。	2
		パウリの原理とフントの規則を十分に復習する。	2
		いわゆる「シュレーディンガーの猫」について調べておく。	2
		量子コンピュータのおおまかな原理について復習する。	2
		全ての課題を見直しておく。	2
		解けなかった問題と類似の課題を復習する。	2

28	電気電子計測	EE-B-207	必修 2単位 2年後期
	Electric and Electronic Measurements		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 新井 敏一			
授業の達成目標			
電気電子計測では、電気電子工学実験における計測の原理と技術、および卒業研修に必要な計測の基礎概念と知識を習得することを目標としています。			
授業の概要			
電気電子計測は電気計器の動作原理や、それに関わる回路、材料、アナログ・デジタル変換、統計処理などについて扱う科目です。本講義では、基礎から実際の測定に必要な応用計測までの解説を通して、電気電子工学分野で用いる機器を用いて正しい測定を行うために必要な基礎を学びます。なお講義中に理解度の確認と評価のために毎回ミニテストを実施します。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「電気・電子計測」田所嘉昭編著 オーム社参考書 「絵ときでわかる電気電子計測」高橋監修、熊谷著 オーム社			
参考書等			
成績評価方法・基準			
試験で 60 点以上を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業で出題した課題は、次の授業で解説する。			
備考			

28	電気電子計測	EE-B-207	必修 2単位 2年後期
	Electric and Electronic Measurements		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	計測と測定	計測と測定に関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 計測と測定に関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第2回	単位とトレーサビリティ	単位とトレーサビリティに関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 単位とトレーサビリティに関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第3回	測定誤差と精度	測定誤差と精度に関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 測定誤差と精度に関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第4回	分散最小二乗法、有効数字	分散・最小二乗法・有効数字に関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 分散・最小二乗法・有効数字に関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第5回	直流電圧・電流、交流電圧・電流の測定	直流電圧・電流、交流電圧・電流の測定に該当する部分を教科書で事前に学んでおきます。 直流電圧・電流、交流電圧・電流の測定に関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第6回	直流電力、交流電力測定、3電圧計法	直流電力、交流電力測定、3電圧計法に関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 直流電力、交流電力測定、3電圧計法に関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第7回	抵抗・容量・インダクタンス・インピーダンスの測定	抵抗・容量・インダクタンス・インピーダンスの測定に関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 抵抗・容量・インダクタンス・インピーダンスの測定に関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第8回	分流器、倍率器、多重レンジ計器	分流器、倍率器、多重レンジ計器に関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 分流器、倍率器、多重レンジ計器に関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第9回	信号波形の観測と周波数・位相の測定	信号波形の観測と周波数・位相の測定に関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 信号波形の観測と周波数・位相の測定に関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第10回	磁気測定	磁気測定に関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 磁気測定に関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第11回	データ変換 (A / D、D / A 変換)	データ変換 (A / D、D / A 変換)に関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 データ変換 (A / D、D / A 変換)に関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第12回	電子計測システム	電子計測システムに関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 電子計測システムに関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第13回	応用計測	応用計測に関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 応用計測に関する課題に取り組み、提出する。	2 2
第14回	センサ技術および総まとめ	センサ技術に関する部分を教科書で事前に学んでおきます。 センサ技術に関する課題に取り組み、提出する。	2 2

29	デジタル回路	EE-B-208	必修 2単位 2年後期
	Digital Circuits		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	○ 教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 田倉 哲也			
授業の達成目標			
高度情報化社会を支えるデジタル回路技術は、機能を効率的に記述するための論理代数と数体系、論理式から回路を構成する際の最小単位であるゲート素子、それらを組み合わせて得られる各種の実用回路で構成される。本講義では、これらの技術の基礎を身につけた技術者の育成を目指す。			
授業の概要			
まずデジタル回路に必要な2進数などの数体系と論理代数について学ぶ。次に、論理式からデジタル回路を設計する際の手順、特にゲート素子の性質や表記法に関する知識を習得する。その後、ゲート素子を組み合わせて得られる順序回路(フリップフロップ)の性質を理解し、これを応用したカウンタ、シフトレジスタの性質を学ぶ。これらの知識に基づいて、幅広い分野で活用されている入出力変換回路や演算回路を例に取り、実用的なデジタル回路の設計原理と性質を理解する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
しっかり学べる基礎デジタル回路 湯田春雄・堀端孝俊共著 森北出版			
参考書等			
ゼロから学ぶデジタル論理回路 秋田純一 講談社 ゼロからわかるデジタル回路超入門 並木秀明 技術評論社			
成績評価方法・基準			
小テスト(50%)、期末テスト(50%)で総合評価して、その合計点が60点以上の者を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストについては、次回授業時に提出課題に対しての見解や、よくある誤り等についてコメントする。			
備考			

29	デジタル回路	EE-B-208	必修 2単位 2年後期
	Digital Circuits		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	はじめに	デジタルとアナログに関する部分を読んで予習する。	2
第2回	デジタル回路の数体系	デジタル回路とアナログ回路の違いについて復習する。	2
第3回	補数と四則演算	n進数に関する部分を読んで予習する。 基数変換について不確実な部分を復習する。	2
第4回	ブール代数	補数に関する部分を読んで予習する。 2進数の四則演算について不確実な部分を復習する。	2
第5回	論理関数と標準展開	論理代数に関する部分を読んで予習する。 論理演算とブール代数の法則について不確実な部分を復習する。	2
第6回	論理式の簡単化	論理関数に関する部分を読んで予習する。 標準展開について不確実な部分を復習する。	2
第7回	ゲート回路	論理式の簡単化に関する部分を読んで予習する。 カルノー図による簡単化について不確実な部分を復習する。	2
第8回	組み合わせ回路	ゲート回路に関する部分を読んで予習する。 各種ゲートについて不確実な部分を復習する。	2
第9回	フリップフロップ回路(非同期式)	組み合わせ回路に関する部分を読んで予習する。 切替回路・比較回路について不確実な部分を復習する。	2
第10回	フリップフロップ回路(同期式)	非同期式フリップフロップ回路に関する部分を読んで予習する。 各種フリップフロップについて不確実な部分を復習する。	2
第11回	カウンタ	同期式フリップフロップ回路に関する部分を読んで予習する。 各種フリップフロップについて不確実な部分を復習する。	2
第12回	シフトレジスタ	カウンタに関する部分を読んで予習する。 非同期式と同期式の違いについて不確実な部分を復習する。	2
第13回	演算回路	シフトレジスタに関する部分を読んで予習する。 直列と並列の相互変換について不確実な部分を復習する。	2
第14回	入出力変換回路	演算回路に関する部分を読んで予習する。 加算器・減算器について不確実な部分を復習する。	2
		入出力変換回路に関する部分を読んで予習する。 エンコーダ・デコーダについて不確実な部分を復習する。	2

30	電気電子工学実験 I	EE-F-204	必修 3単位 2年後期
	Electric and Electronic Engineering Laboratory I		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		○ 教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当 ○ アクティブラーニング メディア授業	
クラス・担当教員			
2年1組、2年2組 宮下 哲哉 伊藤 仁 鈴木 郁郎 田倉 哲也			
授業の達成目標			
現在の社会では、多様な電気電子機器・装置、電気電子材料を使いこなす実践的な技術が求められており、一連の学生実験によりこれらの基礎技術を習得する。以下にこの電気電子工学実験 I の具体的な達成目標を示す。1. 実験に使われる測定機器の正しい測定方法と、測定技術を習得する。2. 得られたデータの整理とともに、結果の検討と考察を加えて、報告書としてまとめる力を得る。3. 技術者に必要な規律・責任・協調の態度を養う。			
授業の概要			
電気回路、半導体素子の基礎実験とロボットなどに使われるセンサの基本動作を学ぶ実験を行うと共にこの結果を用いて実験の発表方法を学ぶ。さらに、実験結果をレポートにまとめ次回実験開始前までに提出する。なお、実験の実施に際しては、一部を除き3名の班編成を行い、第3回から第11回は班毎にテーマの実施順序が異なる。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は民間企業で各実験に関係する業務に従事した経験があり、これを活かした実践的な教育を行う。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「電気電子工学実験 I (電気電子工学実験室編)」詳細は掲示により案内する。参考書 実験項目ごとに教科書中に指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
レポート点を80%、実験遂行する能力及び質疑応答の内容から実験能力点を20%として総合的に評価する。レポートは次回の実験開始前までに提出し、提出した日に担当教員の査読・添削を受けて、合格レベルになるまで修正と再提出を繰り返して完成させる。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出されたレポートはその日のうちに採点・評価する。不合格レベルのレポートについて修正すべき箇所の個別の指導を行い、合格レベルに達するまで指導・再提出要求を行う。			
備考			

30	電気電子工学実験 I	EE-F-204	必修 3単位 2年後期
	Electric and Electronic Engineering Laboratory I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	実験の概要説明	教科書、文具、ノートを準備する。	1.5
第2回	レポートの書き方	事前配付資料と教科書の概要を読み注意事項を再確認する。今後の学習計画を確認して班構成と実施実験を把握する。実験に必要な事項の確認をする。	1.5
第3回	交流ブリッジ回路によるL、C素子の測定	交流ブリッジ回路によるL、C素子の測定について、教科書を読み、実験の目的・原理・実験方法の部分のレポートの作成を通して内容を把握し、実験の準備をする。	1.5
第4回	R-C、R-L直列回路の電圧、電流、位相差の測定	R-C、R-L直列回路の電圧、電流、位相差の測定について、教科書を読み、実験の目的・原理・実験方法の部分のレポートの作成を通して内容を把握し、実験の準備をする。	1.5
第5回	R-L-C直列回路の共振現象の測定	R-L-C直列回路の共振現象の測定について取得データをまとめるとともに、考察・課題を行って今回の実験のレポートを完成させる。	1.5
第6回	ダイオードとトランジスタの特性測定	ダイオードとトランジスタの特性測定について、教科書を読み、実験の目的・原理・実験方法の部分のレポートの作成を通して内容を把握し、実験の準備をする。	1.5
第7回	FETの特性測定	FETの特性測定について取得データをまとめるとともに、考察・課題を行って今回の実験のレポートを完成させる。	1.5
第8回	サイリスタ、TRIAC制御半導体素子の特性測定	サイリスタ、TRIAC制御半導体素子の特性測定について、教科書を読み、実験の目的・原理・実験方法の部分のレポートの作成を通して内容を把握し、実験の準備をする。	1.5
第9回	センサの実験(光、熱)	センサの実験(光、熱)について取得データをまとめるとともに、考察・課題を行って今回の実験のレポートを完成させる。	1.5
第10回	プレゼンテーション(資料作成および発表練習)	センサの実験のレポートを元にプレゼンテーションの資料作成および発表練習ができるように、使うデータの整理などをして資料作成に必要な準備しておく。	1.5
第11回	プレゼンテーション(発表)	発表の内容や方法について反省や再確認を行って今後の力を付けるとともに、レポートにまとめて完成させる。	1.5
第12回	予備実験 I (追実験)	実施していないテーマの実験(I)について、教科書を読み、実験の目的・原理・実験方法の部分のレポートの作成を通して内容を把握し、実験の準備をする。	1.5
第13回	予備実験 II (実験とレポート作成)	不足しているテーマの実験(II)について、教科書を読み、実験の目的・原理・実験方法の部分のレポートの作成を通して内容を把握し、実験の準備をする。	1.5
第14回	レポート作成(最終提出)	実験(II)について取得データをまとめるとともに、考察・課題を行って今回の実験のレポートを完成させる。未完成・未提出のレポートについて、レポート作成して提出の準備しておく。指導を受けた内容を反復して、合格レベルの記述ができるよう力をつける。	1.5

31	コンピュータネットワーク	EE-D-209	選択 2単位 2年後期
	Computer Network		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
<input type="radio"/>	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
<input type="radio"/>	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
<input type="radio"/>	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
<input type="radio"/>		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 田高 周			
授業の達成目標			
コンピュータネットワークの基本的な仕組みを理解し、ネットワーク管理者としてネットワークを運用するために必要な基本技術と関連知識を習得することを目標とする。			
授業の概要			
情報通信の基礎及びコンピュータネットワークの全体像を学習したのち、OSI 基本参照モデルの各層についての詳細や、近年の技術動向を学習する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「マスタリング TCP/IP 入門編 第6版」竹下他共著 オーム社			
参考書等			
参考書 「ネットワークはなぜつながるのか 第2版 知っておきたい TCP/IP、LAN、光ファイバの基礎知識」戸根 勤 日経 BP 社 「ネットワーク超入門講座 第3版」三上 信男 SB クリエイティブ、 「IT ワールド」インフォテック・サーブ著 インフォテックサーブ			
成績評価方法・基準			
授業中に随時行う小テストと第14回授業終了後に出すレポート課題で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストについては、次回の授業時にフィードバックを行う。			
備考			

31	コンピュータネットワーク	EE-D-209	選択 2単位 2年後期
	Computer Network		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	情報化社会とネットワークサービス	社会における情報通信技術の活用について予習する。 情報通信サービスについて復習する。	2 2
第2回	情報通信の基礎	情報通信の用語について予習する。 符号化や変復調について復習する。	2 2
第3回	コンピュータネットワーク概要	コンピュータネットワークの構成機器について予習する。 プロトコルの階層化について復習する。	2 2
第4回	物理層とデータリンク層	物理層とデータリンク層で使用される機器について予習する。 主要なプロトコルの役割について復習する。	2 2
第5回	イーサネット	イーサネットの仕様について予習する。 同一サブネット内の機器間の通信手順について復習する。	2 2
第6回	IP アドレス	IP アドレスの種類と役割について予習する。 IP アドレスの構造と関連するプロトコルについて復習する。	2 2
第7回	TCP/IP	ウェルノウンポート番号について予習する。 TCP/IP における通信制御について復習する。	2 2
第8回	インターネットサービス	主要なインターネットサービスについて予習する。 電子メールやWWW の仕組みについて復習する。	2 2
第9回	Web API とクラウドサービス	WebAPI を公開しているサービスについて予習する。 HTTP における GET と POST の詳細について復習する。	2 2
第10回	ネットワークセキュリティ	ネットワークに潜む脅威について予習する。 ネットワークの脅威への対処方法について復習する。	2 2
第11回	暗号化技術	暗号化技術の用語について予習する。 公開鍵暗号方式の仕組みについて復習する。	2 2
第12回	ネットワーク管理	ネットワーク管理者の主要なタスクについて予習する。 ネットワーク管理に関するコマンドや手順について復習する。	2 2
第13回	無線 LAN	無線 LAN ルータの主なコンフィグレーションについて予習する。 無線 LAN の要素技術について復習する。	2 2
第14回	移動体通信	主要な移動体通信サービスと用語について予習する。 移動体通信の仕組みについて復習する。	2 2

32	数値計算法	EE-D-210	選択 2単位 2年後期
	Numerical Analysis		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
<input type="radio"/>	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
<input type="radio"/>	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
<input type="radio"/>	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
<input type="radio"/>	クラス分け(クラス分けて担当する)	実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
2年全組 中山 英久			
授業の達成目標			
<p>基本的な数値計算のアルゴリズムをC言語を用いてプログラミングし、実際に計算が実行できるようになること。また、計算結果を数値ファイル化し、グラフの形で可視化できるようになること。その上で、IPA情報処理技術者試験(iパス、基本情報、応用情報等)を受験するために必要な知識を習得すること。</p>			
授業の概要			
<p>数値計算のアルゴリズムを学び、背景にある数学的な知識を習得する。C言語プログラミングによる演習を行い、実際に応用できる力を身につける。あわせて、計算過程の効果的な理解のため、エクセルを用いた表示法について学習する。さらに、IPA情報処理技術者試験の問題演習も行う。</p>			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
<p>「C言語による数値計算法入門【第2版新装版】」堀之内総一・榎園茂・酒井幸吉(著)、森北出版「解答力を高める基本情報技術者試験の解法—暗記の壁を越えて計算力を身につける—」速水治夫・西村広光(著) コロナ社 わかりやすい数値計算法入門 第2版 栗原正仁 著 ムイスリ出版 2011</p>			
参考書等			
<p>やさしく学べる微分積分 石村園子 著 共立出版 1999 やさしく学べる線形代数 石村園子 著 共立出版 2000 やさしく学べる微分方程式 石村園子 著 共立出版 2003</p>			
成績評価方法・基準			
レポート課題等の提出状況 50%、定期試験の結果 50%により、総合的な評価を行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は期限までに提出することを前提とし、LMS等でフィードバックする。			
備考			

32	数値計算法	EE-D-210	選択 2単位 2年後期
	Numerical Analysis		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	プログラミングの基本	コンパイルと実行に関する部分を読んで予習する。 グラフデータの作成について不確実な部分を復習する。	2 2
第2回	数の表現と誤差	数の表現と誤差に関する部分を読んで予習する。 数の表現と誤差について不確実な部分を復習する。	2 2
第3回	連立一次方程式、ピボット選択	連立一次方程式、ピボット選択に関する部分を読んで予習する。 各種プログラムの動作について不確実な部分を復習する。	2 2
第4回	逆行列、線形計画法	逆行列、線形計画法に関する部分を読んで予習する。 各種プログラムの動作について不確実な部分を復習する。	2 2
第5回	非線形方程式(1) 2分法、はさみうち法	2分法、はさみうち法に関する部分を読んで予習する。 プログラムの動作について不確実な部分を復習する。	2 2
第6回	非線形方程式(2) ニュートン法、割線法	ニュートン法、割線法に関する部分を読んで予習する。 プログラムの動作について不確実な部分を復習する。	2 2
第7回	関数近似と補間(1) 最小二乗近似	最小二乗近似に関する部分を読んで予習する。 プログラムの動作について不確実な部分を復習する。	2 2
第8回	関数近似と補間(2) ラグランジュ補間	ラグランジュ補間に関する部分を読んで予習する。 プログラムの動作について不確実な部分を復習する。	2 2
第9回	数値積分(1) 台形公式	台形公式に関する部分を読んで予習する。 プログラムの動作について不確実な部分を復習する。	2 2
第10回	数値積分(2) シンプソンの公式	シンプソンの公式に関する部分を読んで予習する。 プログラムの動作について不確実な部分を復習する。	2 2
第11回	常微分方程式(1) オイラー法、ホイン法	オイラー法に関する部分を読んで予習する。 プログラムの動作について不確実な部分を復習する。	2 2
第12回	常微分方程式(2) クッタ法、ルンゲ・クッタ法	ルンゲ・クッタ法に関する部分を読んで予習する。 プログラムの動作について不確実な部分を復習する。	2 2
第13回	モンテカルロ法	モンテカルロ法に関する部分を読んで予習する。 プログラムの動作について不確実な部分を復習する。	2 2
第14回	まとめと試験	これまで学んだ部分を予めまとめておく。 試験で解けなかった部分を復習する。	2 2

33	CAD製図	EE-C-301	必修 1単位 3年前期
	CAD Drawing		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	○ 教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
電気電子工学科3年全組 小野寺 敏幸			
授業の達成目標			
日本工業規格製図通則の基礎的な知識について課題を通して修得する。1. 手描きによる線と寸法記入法の作図から、基本製図の手法、手順を体得する。2. 手描きによって作図した線と寸法記入法を、再度、CADを使用して作図し、双方の利点・問題点を実感体得する。3. CADソフトを使用し、2次元・3次的に思い通りの図形・立体図を作成できるようにする			
授業の概要			
日本工業規格製図通則(JISZ8302)の基礎的な知識について課題を通して修得する。さらに、その課題により基本製図の手法、手順を体得する。また、CADソフトを使用し製図のツールとして、基礎的操作方法について学ぶ。本講義は、マルチメディア対応に必要な基礎の修得と演習を授業方針とする。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
必要に応じてプリント等を配付する。CADソフトについては市販の解説書もあるので適宜、参考にすること。 JISiにもとづく標準製図法 大西清 オーム社 2020			
参考書等			
成績評価方法・基準			
講義中に実施する製作課題の完成度(100%)により評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題製作の際に個別に対応する。			
備考			


33	CAD製図	EE-C-301	必修 1単位 3年前期
	CAD Drawing		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	製図全般について	教科書を使用して製図の概要について予習する。 教科書および配布資料を使用して製図の概要について復習する。	0.5 0.5
第2回	基礎となる図法	教科書を使用して基礎となる図法について予習する。 教科書および配布資料を使用して基礎となる図法について復習する。	0.5 0.5
第3回	手描きによる製図(線と寸法記入)	教科書を使用して線と寸法の記入法について予習する。 教科書および配布資料を使用して線と寸法の記入法について復習する。	0.5 0.5
第4回	手描きによる製図(寸法と角度)	教科書を使用して寸法と角度の記入法について予習する。 教科書および配布資料を使用して寸法と角度の記入法について復習する。	0.5 0.5
第5回	手描きによる製図(寸法線)	教科書を使用して寸法線の記入法について予習する。 教科書および配布資料を使用して寸法線の記入法について復習する。	0.5 0.5
第6回	手描きによる製図(寸法数字)	教科書を使用して寸法数字の記入法について予習する。 教科書および配布資料を使用して寸法数字の記入法について復習する。	0.5 0.5
第7回	手描きによる製図(寸法補助記号)	教科書を使用して寸法補助記号の記入法について予習する。 教科書および配布資料を使用して寸法補助記号の記入法について復習する。	0.5 0.5
第8回	手描きによる製図(円弧の寸法)	教科書を使用して円弧の寸法記入法について予習する。 教科書および配布資料を使用して円弧の寸法記入法について復習する。	0.5 0.5
第9回	CADソフトの使用説明	配布資料を使用してCADの概要について予習する。 教科書および配布資料を使用してCADの概要について復習する。	0.5 0.5
第10回	CADによる2次元作図(線と寸法記入)	配布資料を使用してCADにおける線と寸法記入法について予習する。 配布資料を使用してCADにおける線と寸法記入法について復習する。	0.5 0.5
第11回	CADによる2次元作図(寸法と角度)	配布資料を使用してCADにおける寸法と角度の記入法について予習する。 配布資料を使用してCADにおける寸法と角度の記入法について復習する。	0.5 0.5
第12回	CADによる2次元作図(寸法線および寸法数字)	配布資料を使用してCADにおける寸法線と寸法数字の記入法について予習する。 配布資料を使用してCADにおける寸法線と寸法数字の記入法について復習する。	0.5 0.5
第13回	CADによる2次元作図(寸法補助記号および円弧の寸法)	配布資料を使用してCADにおける寸法補助記号と円弧の記入法について予習する。 配布資料を使用してCADにおける寸法補助記号と円弧の記入法について復習する。	0.5 0.5
第14回	CADによる3次元作図	配布資料を使用してCADにおける3次元作図の概要について予習する。 配布資料を使用してCADにおける3次元作図の概要について復習する。	0.5 0.5

34	電子回路 I	EE-C-302	必修 2単位 3 年前期
	Electronic Circuits I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		○ 教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 下位 法弘			
授業の達成目標			
電子回路における受動素子と能動素子からなる回路の基本的動作をできるようにする。			
授業の概要			
電子回路に用いられる非線形素子を線形に近似し、小信号における等価回路を中心に電圧や電流増幅利得、バイアス回路そして周波数特性に関する基本動作回路について解説する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書	「アナログ電子回路」大類重範	オーム社	工大生協 2,800 円
参考書等			
成績評価方法・基準			
基本的には定期試験で評価し、60点以上の得点で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題を課した場合は次回授業開始時に課題を回収し、授業の中で解答を解説する。もしくは課題を課さなかった場合は教科書の演習問題を解かせ、授業の中で解答を解説する。			
備考			

34	電子回路 I	EE-C-302	必修 2単位 3 年前期
	Electronic Circuits I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	半導体の簡単な特性と性質を解説する	教科書を読み、半導体の原理を予習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第2回	PN接合ダイオードの動作特性	教科書を読み、PN接合の原理および簡単な回路の動作原理を予習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第3回	トランジスタの基本動作特性	教科書を読みトランジスタの基本回路を予習する。授業で学んだPN接合ダイオードの動作原理を復習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第4回	トランジスタの増幅回路(その1) ベース接地、エミッタ接地、コレクタ接地等	教科書を読みトランジスタ増幅回路の予習する。ダイオードとの差異を復習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第5回	トランジスタの増幅回路(その2) 電流増幅、電圧増幅、電力増幅等	教科書を読みトランジスタ回路の基本構成および動作原理を予習する。授業で学んだトランジスタの電流、電圧増幅度を復習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第6回	トランジスタのバイアス回路(その1) 固定バイアス回路、電流帰還バイアス回路等	トランジスタ回路のバイアスに関する動作原理を教科書を読み予習をする。トランジスタ回路の基本構成について復習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第7回	トランジスタのバイアス回路(その2) 各バイアス回路の安定係数について	教科書を読み、より複雑なバイアス回路の安定係数の予習をする。授業で学んだ基本的なバイアス回路の動作原理を復習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第8回	トランジスタ回路における等価回路(その1) hパラメータの誘導とそのパラメータを使用した等価回路等	hパラメータおよび等価回路に関する基礎知識について、教科書を読み予習する。トランジスタのバイアス回路に関して授業で学んだことを復習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第9回	トランジスタ回路における等価回路(その2) 等価回路を用いた増幅回路の設計	教科書を読み増幅回路の基本構成および動作原理を予習をする。授業で学んだhパラメータおよび等価回路の基本について復習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第10回	トランジスタ増幅回路の等価回路による演習問題(その1)	教科書を読みトランジスタ増幅回路の復習をする。授業で学んだh定数を求める演習を復習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第11回	トランジスタ増幅回路の等価回路による演習問題(その2)	教科書を読み CR 結合増幅回路の復習をする。授業で学んだ低域、中域、高域周波数領域における等価回路を求める演習を復習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第12回	電界効果トランジスタ(FET)(その1) 電界効果トランジスタの構造と動作原理	電界効果トランジスタの構造および動作原理について教科書を読み予習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第13回	電界効果トランジスタ(FET)(その2) 電界効果トランジスタのバイアス回路等	教科書を読み電界効果トランジスタのバイアスについて予習する。電界効果トランジスタの構造および動作原理について授業で学んだことを復習する。 課題や教科書の問題を解き、授業内容を復習する。	2 2
第14回	まとめと試験	定期試験を受験し、総復習を行う。 試験で解答できなかった箇所の解き直しを行う。	2 2

35 電気電子工学実験 II		EE-F-305	必修 3単位 3 年前期
Electric and Electronic Engineering Laboratory II			
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		<input type="radio"/> 教職科目 (工業)	 
<input type="radio"/> 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
<input type="radio"/> オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		<input type="radio"/> アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 田河 育也 中山 英久 小野寺 敏幸			
授業の達成目標			
現在の社会では、多様な電子機器・装置、電子材料を使いこなす実践的な技術が求められており、一連の学生実験によりこれらの基礎技術を習得する。具体的な達成目標を以下に示す。1. 実験に使われる測定機器の原理を理解し、正しい測定方法と、測定技術を習得する。2. 測定した諸量の精度や定量的な概念を把握する。3. 得られたデータの整理と、結果の検討と考察を加えて、報告書としてまとめる力を得る。4. 技術者に必要な責任、規律、協調の態度を養う。			
授業の概要			
実験 I で学んだ測定器を用いて、基本的な電気回路および電子回路について実験を通して理解する。また、半導体集積回路の製造に必要な真空技術について習得する。実験項目は以下の通りである。なお、実験の実施に際しては、一部を除き 3 名の班編成を行い、第 2 回から第 12 回は班ごとに実験項目の実施順序が異なる。			
実務経験を活かした教育について			
民間企業において電子機械の設計開発に携わった経験を活かし、モノづくりに役立つ人材の育成に努める。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「電気電子工学実験 II (電気電子工学科実験室編)」 詳細は掲示により案内する。参考書 実験項目ごとに教科書中に指示する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
レポート点 80%、実験を遂行する能力及び質疑応答の内容を授業点 20%として、総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
授業中にレポートを回収し、不適切な点を個別に指導する。なお、レポートは期限までに提出することを前提とし、フィードバックを受けつつ完成させるようにする。			
備考			

35 電気電子工学実験 II		EE-F-305	必修 3単位 3 年前期
Electric and Electronic Engineering Laboratory II			
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	実験ガイダンス	事前配付資料と教科書の概要を読み内容を把握しておく。	1.5
第 2 回	フィルタ回路	今後の学習計画を理解するまで復習する。	1.5
第 3 回	微分・積分回路	フィルタ回路について教科書で内容を把握しておく。	1.5
第 4 回	トランジスタのhパラメータ測定	今回の実験のレポートを完成させる。	1.5
第 5 回	RC 結合 2 段増幅回路の設計	微分・積分回路について教科書で内容を把握しておく。	1.5
第 6 回	RC 結合 2 段増幅回路の製作	今回の実験のレポートを完成させる。	1.5
第 7 回	試作増幅回路の特性測定・評価	RC 結合 2 段増幅回路の設計について教科書で内容を把握しておく。	1.5
第 8 回	半導体の導電率とホール効果	今回の実験のレポートを完成させる。	1.5
第 9 回	光学基礎実験	RC 結合 2 段増幅回路の製作について教科書で内容を把握しておく。	1.5
第 10 回	真空技術	今回の実験のレポートを完成させる。	1.5
第 11 回	デジタル論理回路	真空技術について教科書で内容を把握しておく。	1.5
第 12 回	パソコンを用いた電子回路シミュレーション	デジタル論理回路について教科書で内容を把握しておく。	1.5
第 13 回	レポート作成 (最終提出)	パソコンを用いた電子回路シミュレーションについて教科書で内容を把握しておく。	1.5
第 14 回	実験に関する整理と総括	今回の実験のレポートを完成させる。	1.5
		不足・不合格のレポート作成の準備をしておく。	1.5
		指導を受けた内容を反復する。	1.5
		実験全体について習得した内容を整理しておく。	1.5
		指導を受けた内容を反復する。	1.5

36	電気回路Ⅳ	EE-C-303	選択 2単位 3 年前期
	Electric Circuits IV		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 柴田 憲治			
授業の達成目標			
長距離送電線や高周波回路などの研究に必須となる分布定数回路(伝送線路)の性質を学ぶ。諸定数の物理的意味を理解し、伝送特性の基礎的解析法を理解する。また、非正弦波交流回路では、周期関数である信号をフーリエ級数展開し、非正弦波交流回路の基本的解析法を理解する。			
授業の概要			
分布定数回路(伝送線路)と非正弦波交流について述べる。前者では、線路長に比べて波長が無視できない場合に必要となる伝送線路の解析法を示し、特性インピーダンスや反射などの基礎的性質について解説する。後者では、高調波を含む交流信号に対する電気回路の応答の解析法について解説する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「続電気回路の基礎」西巻正郎 他著 森北出版(「電気回路Ⅲ」で使用した教科書の後半を使用する)			
参考書等			
成績評価方法・基準			
授業中課題 40%、定期試験 60%の評価合計 60 点以上で合格とする。分布定数回路の諸定数を理解し、伝送特性の基礎的な解析を行えること。また、周期信号をフーリエ級数展開し、非正弦波交流回路の基本的な解析を行えること。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題に対しては、次回授業時に解説を行う。			
備考			

36	電気回路Ⅳ	EE-C-303	選択 2単位 3 年前期
	Electric Circuits IV		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	分布定数回路と波動方程式	テキストの講義予定範囲を読んで予習する。	2
第2回	特性インピーダンス、伝搬定数、伝搬速度	テキストの講義予定範囲を読んで予習する。	2
第3回	基礎方程式	特性インピーダンス、伝搬定数などの意味を理解し、計算問題について復習する。	2
第4回	無限長線路、無ひずみ線路、無損失線路	テキストの講義予定範囲を読んで予習する。	2
第5回	平行線路と同軸線路の線路定数	正弦波の伝播に対する基礎方程式を復習する。	2
第6回	無損失線路上での伝搬	テキストの講義予定範囲を読んで予習する。	2
第7回	反射とインピーダンスマッチング	無損失線路上での各種線路の基礎と計算法について復習する。	2
第8回	進行波と定在波、定在波比	テキストの講義予定範囲を読んで予習する。	2
第9回	伝送路解析の演習	定在波や定在波比、およびそれらの計算問題について復習する。	2
第10回	非正弦波周期的関数のフーリエ展開	テキストの講義予定範囲を読んで予習する。	2
第11回	実用波形のフーリエ展開	フーリエ級数展開の基本を復習する。	2
第12回	非正弦波の実効値、ひずみ率、波高率など	テキストの講義予定範囲を読んで予習する。	2
第13回	非正弦波交流回路の解析	非正弦波交流の実効値等の計算法について復習する。	2
第14回	まとめと試験	非正弦波交流回路の演習問題について復習する。	2
		従前の学習内容を理解し、期末試験に備える。	2
		不確実だった問題について、講義ノートを見直し不明な点を解決する。	2

37	固体電子工学 II	EE-C-304	選択 2単位 3 年前期
	Solid State Electronics II		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		○ 教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 宮下 哲哉			
授業の達成目標			
半導体デバイスや各種電気電子材料を学ぶ上で必要な固体電子物性の基礎を理解することを目標とする。			
授業の概要			
電子デバイスの働きを理解するには、原子が周期的に並んだ結晶中の電子の振舞いを知る必要がある。1 個の電子の振舞いを対象にする量子力学の知識をもとにして、本講義では多数の電子が含まれる原子の構造、そして原子が多数集まった結晶での電子の振舞いへと発展させる。結晶の性質を理解するために必要な逆格子、エネルギーバンド構造、フェルミ準位などについて講義する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「固体電子物性」若原昭浩編著 オーム社参考書 「電子物性」松澤剛雄、高橋清、斎藤幸喜著 森北出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
定期試験で 60%以上の評点を決め、授業中のミニテスト及び演習の結果などから最大 40%の評点を決めて、合計で評価する。ミニテストは実施の前の回に配布した正解例と比べ理解を確認し、演習は実施回に正解の配布と解説をする。点数はポータルサイトで確認する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
毎回のミニテストは講義の最初の時間帯に解説を行う。まだ質問のある学生に対しては、講義終盤に設けた質疑応答の時間で対応を行う。			
備考			

37	固体電子工学 II	EE-C-304	選択 2単位 3 年前期
	Solid State Electronics II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	結晶を作る電子の結合	2 年の講義「固体電子工学 I」を復習して内容を理解しておく。	2
第 2 回	ブラベ格子とミラー指数	結晶を作る電子の結合について、ノート及び教科書で確認して理解を深めた上で次の講義の準備をする。	2
第 3 回	結晶構造	結晶の面と方位を表すミラー指数について復習する。	2
第 4 回	逆格子	結晶の面と方位を表すミラー指数について復習する。	2
第 5 回	波の数学的表現	結晶の面と方位を表すミラー指数について復習する。	2
第 6 回	結晶による波の回折	逆格子ベクトルとその計算法について復習する。	2
第 7 回	構造因子	BCC、FCC、HCP、ダイヤモンド構造など重要な結晶構造についてノート及び教科書で確認して理解を深めた上で次の講義の準備をする。	2
第 8 回	格子振動：単一原子からなる 1 次元格子	テキストの講義実施範囲を読む。電子や X 線などの波、そして波数ベクトルについて、ノート及び教科書で確認して理解を深めた上で次の講義の準備をする。	2
第 9 回	格子振動：2 種類の原子からなる 1 次元格子	波の数学的表現についてノート及び教科書で確認して理解を深めた上で次の講義の準備をする。	2
第 10 回	フェルミ・ディラック分布関数	構造因子についてノート及び教科書で確認して理解を深めた上で次の講義の準備をする。	2
第 11 回	自由電子モデル	フェルミ・ディラック分布関数について復習する。	2
第 12 回	状態密度	自由電子モデルについてノート及び教科書で確認して理解を深めた上で次の講義の準備をする。	2
第 13 回	結晶内の電子のエネルギーバンド構造 1：フロツホの定理	状態密度についてノート及び教科書で確認して理解を深めた上で次の講義の準備をする。	2
第 14 回	結晶内の電子のエネルギーバンド構造 2：クローニッチ・ペニーモデル	フロツホの定理についてノート及び教科書で確認して理解を深めた上で次の講義の準備をする。	2
		テキストの講義実施範囲を読む。結晶でバンド構造が発現する理由、クローニッチ・ペニーモデルについて復習する。	2

38	センサ工学	EE-C-305	選択 2単位 3 年前期
	Sensor Engineering		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		○ 教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 鈴木 郁郎			
授業の達成目標			
各種センサデバイスの動作原理と性能や特徴を理解し、それぞれについて説明することができること。またこれらを使いこなすための、基本回路や計測法について説明することができること。			
授業の概要			
電子制御技術の基本としてのセンシング技術を学ぶ。センサデバイスとして光、温度、磁気、音響センサを前半で取り扱い、後半は変位、速度、加速度、ひずみ量などの機械量センサや、ガス、イオンなどの化学センサ、バイオセンサについて学び、センシング技術の基礎知識を修得する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書	初回にプリントを配付する。参考書 「基礎センサ工学」 稲荷隆彦著 コロナ社		
参考書等			
成績評価方法・基準			
達成目標の各項目について、2回の試験での評価を 70%、毎回の授業中に行った演習課題の評価を 30% として総合評価する。課題は次回講義時に解説を行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
次回の授業開始時に前回の問題の回答および解説を行う			
備考			

38	センサ工学	EE-C-305	選択 2単位 3 年前期
	Sensor Engineering		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	【導入】センサデバイスの種類と半導体センサの概要	センサデバイスの種類について予習する。	2
第 2 回	光センサ①光導電形センサ	テキストに記載してあるセンサデバイスの種類とその概要および半導体センサの原理について復習する。 テキストの光センサ①光導電形センサ部分を読んで予習する。	2
第 3 回	光センサ②光起電力形センサ	授業中に課題した問題を復習する。	2
第 4 回	温度センサ①接触式センサ	テキストの光センサ②光起電力形センサ部分を読んで予習する。 授業中に課題した問題を復習する。	2
第 5 回	温度センサ②非接触式センサ	テキストの温度センサ①接触式センサ部分を読んで予習する。 授業中に課題した問題を復習する。	2
第 6 回	磁気センサ	テキストの温度センサ②非接触式センサ部分を読んで予習する。 授業中に課題した問題を復習する。	2
第 7 回	音響センサ①圧電形超音波センサ	テキストの磁気センサ部分を読んで予習する。 授業中に課題した問題を復習する。	2
第 8 回	音響センサ②超音波センシング	テキストの音響センサ①圧電形超音波センサ部分を読んで予習する。 授業中に課題した問題を復習する。	2
第 9 回	中間まとめと試験	テキストの音響センサ②超音波センシング部分を読んで予習する。 授業中に課題した問題を復習する。	2
第 10 回	機械量センサ①変位・速度・加速度センサ	第 8 回までの内容の復習を行い、授業中に課題した問題を全て解けるようにして授業に臨む。 試験で課題した問題を解きなおし、不確実な部分を復習する。	2
第 11 回	機械量センサ②ひずみセンサ	テキストの機械量センサ①変位・速度・加速度センサ部分を読んで予習する。 授業中に課題した問題を復習する。	2
第 12 回	化学センサ	テキストの機械量センサ②ひずみセンサ部分を読んで予習する。 授業中に課題した問題を復習する。	2
第 13 回	バイオセンサ	テキストの化学センサ部分を読んで予習する。 授業中に課題した問題を復習する。	2
第 14 回	まとめと試験	テキストのバイオセンサ部分を読んで予習する。 授業中に課題した問題を復習する。	2
		13 回までの授業内容および授業中に課題した問題を復習し、試験に臨む。 試験問題で不確実であった部分を復習する。	2

39	制御工学	EE-C-306	選択 2単位 3 年前期
	Control Engineering		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		○ 教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 藤田 豊己			
授業の達成目標			
<p>制御工学では、システムを構成する個々の構成要素間の関係に着目する考え方、すなわちシステムの思考に慣れることが大切である。フィードバック制御系の性能は、安定性、速応性、定常偏差の三つの基本特性により支配される。この基本特性に習熟して、具体的な例題について解析と設計ができるようになること。</p>			
授業の概要			
<p>ロボットや自動車、情報家電などを、ある目的にそって動作させるのに必要なフィードバック制御システム(系)の解析と設計の基礎になる考え方を講義するとともに、実際の設計手法について解説する。事前にフーリエ変換およびラプラス変換について理解しておくこと。</p>			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「自動制御理論」樋口龍雄著 森北出版 配付プリントも使用する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
期末試験 50%、毎回行う小テストもしくは課題 50%の配分で、総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストと課題はそれぞれ採点して返却し、授業中あるいは LMS 上で解説する。			
備考			

39	制御工学	EE-C-306	選択 2単位 3 年前期
	Control Engineering		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	システムと制御	フーリエ変換およびラプラス変換の内容を復習して理解しておく。 教科書とノートを見直し授業の内容を理解する。	2 2
第 2 回	フィードバック制御とブロック線図	ブロック線図について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。	2 2
第 3 回	ラプラス変換	フーリエ変換およびラプラス変換について理解しておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。	2 2
第 4 回	伝達関数と周波数応答	伝達関数と周波数応答について読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2 2
第 5 回	ベクトル軌跡とボード線図	ベクトル軌跡とボード線図について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2 2
第 6 回	微分および積分要素	微分要素および積分要素について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2 2
第 7 回	1 次要素	1 次要素について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2 2
第 8 回	2 次遅れ要素 (1): 伝達関数	2 次要素の伝達関数について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2 2
第 9 回	2 次遅れ要素 (2): ステップ応答	2 次要素について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2 2
第 10 回	2 次遅れ要素 (3): 周波数応答	むだ時間要素について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2 2
第 11 回	フィードバック制御系の安定性	安定性について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2 2
第 12 回	ナイキストの安定判別法	安定判別法について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2 2
第 13 回	制御系の性能 (過渡特性と定常偏差)	過渡特性性と定常偏差について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2 2
第 14 回	フィードバック制御系の設計	フィードバック制御系について教科書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 教科書とノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2 2

40	マルチメディアシステム	EE-E-301	選択 2単位 3 年前期
	Multimedia Systems		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		○ 教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3 年全組 藤田 豊己			
授業の達成目標			
デジタル信号処理技術に基礎をおくマルチメディアの重要事項を十分に理解し、説明できるようになること。			
授業の概要			
現代の情報通信技術 (ICT) の基幹として知られるマルチメディア情報処理について、その重要な考え方や技術をわかりやすく解説する。また、コンピュータによる演習も実施し、理解を深める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
プリントを配付する。			
参考書等			
「MATLAB 対応デジタル信号処理」樋口龍雄・川又政征著 森北出版 「画像情報処理」渡部広一著 共立出版 「ファーストステップマルチメディア」今井崇雅著 近代科学社			
成績評価方法・基準			
期末試験 50%、毎回行う小テストもしくは課題 50%の配分で、総合して評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストと課題はそれぞれ採点し、返却する。また、必要に応じて授業中か LMS 上で解説する			
備考			

40	マルチメディアシステム	EE-E-301	選択 2単位 3 年前期
	Multimedia Systems		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	マルチメディアとは	シラバスを読んで学習内容を把握する。フーリエ変換について復習して理解しておく。 プリントとノートを見直し授業の内容を理解し、次回の小テストに備える。	2
第 2 回	シャノンのサンプリング定理	サンプリング定理についてプリントや参考書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 プリントとノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。	2
第 3 回	デジタルフィルタ	フーリエ変換およびデジタル回路についてプリントや参考書を読み理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 プリントとノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2
第 4 回	演習：デジタルフィルタの実際	デジタルフィルタの内容を復習する。C 言語のプログラミングを復習する。エクセルでの表とグラフの作成方法を理解する。 与えられた演習と課題に取り組んで内容の理解を深め、提出する	2
第 5 回	離散フーリエ変換 (DFT)	フーリエ変換について復習しておく。プリントを読んで内容を理解するよう努め、疑問点など明確にしておく。 プリントとノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2
第 6 回	演習：離散フーリエ変換の実際	離散フーリエ変換の内容を復習する。C 言語のプログラミングを復習する。MATLAB を使用できるようにしておく。 与えられた演習と課題に取り組んで内容の理解を深め、提出する。	2
第 7 回	デジタル画像、画像処理技術 (ヒストグラムと 2 値化)	デジタル画像について、プリントや参考書を読んで内容を理解するよう努め、疑問点や不明な点を明確にしておく。 画像のヒストグラムと 2 値化について、プリントや参考書を読んで内容を理解するよう努め、疑問点や不明な点を明確にしておく。 プリントとノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2
第 8 回	演習：画像処理技術の実際 (ヒストグラムと 2 値化)	画像処理のヒストグラムと 2 値化の内容を復習する。C 言語のプログラミングを復習する。MATLAB でプログラム作成できるようにする。 与えられた演習と課題に取り組んで内容の理解を深め、提出する。	2
第 9 回	画像処理技術 (カラー画像、2 次元フーリエ変換)	2 次元フーリエ変換について、プリントや参考書を読んで内容を理解するよう努め、疑問点や不明な点を明確にしておく。 プリントとノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2
第 10 回	演習：画像処理技術の実際 (2次元フーリエ変換)	画像処理の2次元フーリエ変換の内容を復習する。C 言語のプログラミングを復習する。MATLAB でプログラム作成できるようにする。 与えられた演習と課題に取り組んで内容の理解を深め、提出する。	2
第 11 回	画像処理技術 (画像のフィルタリング)	画像フィルタリングについて、プリントや参考書を読んで内容を理解するよう努め、疑問点や不明な点を明確にしておく。 プリントとノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2
第 12 回	演習：画像処理技術の実際 (画像のフィルタリング)	画像フィルタリングの内容を復習する。C 言語および MATLAB のプログラミングを復習する。 与えられた演習と課題に取り組んで内容の理解を深め、提出する。	2
第 13 回	情報圧縮技術および音声・画像・動画処理技術	情報圧縮および音声・画像・動画処理技術について、プリントや参考書を読んで内容を理解するよう努め、疑問点や不明な点を明確にしておく。 プリントとノートを見直し授業内容を理解し、次回の小テストに備える。返却された小テストを見直し理解する。	2
第 14 回	まとめと試験	これまでのプリント、ノート、演習、課題を見直し内容を理解し、試験に備える。 試験で不明だった点を解決する。未提出の課題を全て提出する。	2

41	組込システム入門	EE-E-302	選択 2単位 3年前期
Introduction to Embedded System			
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	 
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 中山 英久			
授業の達成目標			
マイコンエンジニアや、エンベデッドシステム(組込みシステム)開発者として、実社会のあらゆるところで「組込みマイコン」を活用できるようになるために、マイコン実機を用いた演習を通してその原理を理解し、組込みシステムの構築技術を修得すること。			
授業の概要			
ユビキタス時代のマイクロコンピュータは、情報家電、自動車、制御機器など、日常生活のあらゆるところで「組込みマイコン」として使用されている。8ビットマイクロプロセッサ(MPU)として幅広く使用されているAVRマイコンを選び、その仕組みをハードウェアとソフトウェアの両面から学ぶ。また応用事例を通して、マイコンによる組込みシステム構築技術を実習する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
Arduinoで学ぶ組込みシステム入門 第2版 猪股俊光 著 森北出版 2023			
参考書等			
Arduinoをはじめよう 第4版 Massimo Banzi 著, Michael Shiloh 著, 船田 巧 翻訳 オライリージャパン 2023 Processingをはじめよう 第2版 Casey Reas 著, Ben Fry 著, 船田巧 翻訳 オライリージャパン 2016			
成績評価方法・基準			
レポート課題等の提出状況 50%、定期試験の結果 50%により、総合的な評価を行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は期限までに提出することを前提とし、LMS等でフィードバックする。			
備考			

41	組込システム入門	EE-E-302	選択 2単位 3年前期
Introduction to Embedded System			
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	マイコン制御の基礎とマイコンでのデータ表現	マイコン制御の基礎とマイコンでのデータ表現について予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第2回	組込みシステムとArduino	組込みシステムとArduinoに関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第3回	組込みシステムのハードウェア	組込みシステムのハードウェアに関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第4回	ハードウェア実習	組込みシステムのハードウェアに関する部分を読んで予習する。 実習で不確実だった部分を復習する。	2 2
第5回	組込みシステムのソフトウェア	組込みシステムのソフトウェアに関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第6回	ソフトウェア実習	組込みシステムのソフトウェアに関する部分を読んで予習する。 実習で不確実だった部分を復習する。	2 2
第7回	Arduinoによるプログラミング(1) LED関連	Arduinoによるプログラミング実習「LED関連」に関する部分を読んで予習する。 実習で不確実だった部分を復習する。	2 2
第8回	Arduinoによるプログラミング(2) センサ活用	Arduinoによるプログラミング実習「センサ活用」に関する部分を読んで予習する。 実習で不確実だった部分を復習する。	2 2
第9回	組込みシステムのモデリング	組込みシステムのモデリングに関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第10回	組込みシステムの実装法	組込みシステムの実装法に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第11回	組込みシステムの作成技法	組込みシステムの作成技法に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第12回	組込みソフトウェアのテスト技法	組込みソフトウェアのテスト技法に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第13回	組込みシステムとパソコンの協調動作	組込みシステムとパソコンの協調動作に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第14回	まとめと課題演習	これまで行った実習を総復習する。 課題演習で不確実な部分を復習する。	2 2

42	電子回路 II	EE-C-307	必修 2単位 3年後期
	Electronic Circuits II		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)		
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
電気電子工学科3年全組 小野寺 敏幸			
授業の達成目標			
電子機器を構成する基本的な電子回路を学び、それらの基本的な動作原理の理解を深める。			
授業の概要			
電子計測、あるいは電子機器・装置の駆動・制御等に用いられる電子回路、および情報伝達・処理に用いられる基本電子回路について解説する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「アナログ電子回路」大類重範 オーム社 工大生協			
参考書等			
講義に使用するスライドおよび演習問題は、Webclassに公開するので予習、復習に活用すること。			
成績評価方法・基準			
期末試験100%、60 点以上を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
演習課題は、講義内またはWebclassを用いてフィードバックする。			
備考			

42	電子回路 II	EE-C-307	必修 2単位 3年後期
	Electronic Circuits II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	負帰還増幅回路 (その1) 負帰還増幅回路の原理と動作	公開資料および教科書を利用し、負帰還増幅回路の動作原理を予習する。	2
第2回	負帰還増幅回路 (その2) 負帰還増幅回路の周波数特性と増幅利得との関係	公開資料、教科書および講義の動画を利用し、負帰還増幅回路の動作原理を復習する。また、翌週までに演習問題を回答する。	2
第3回	電力増幅回路 (その1) 電力増幅回路の動作原理	公開資料および教科書を利用し、負帰還増幅回路の周波数特性と増幅利得との関係を予習する。	2
第4回	電力増幅回路 (その2) B級電力増幅回路およびダーリントン接続回路の動作原理	公開資料、教科書および講義の動画を利用し、負帰還増幅回路の周波数特性と増幅利得との関係を復習する。また、翌週までに演習問題を回答する。	2
第5回	同調増幅回路の動作原理	公開資料および教科書を利用し、電力増幅回路の動作原理を予習する。	2
第6回	差動増幅回路 (その1) 直結増幅回路と差動増幅回路 (1入力) の動作原理	公開資料、教科書および講義の動画を利用し、電力増幅回路の動作原理を復習する。また、翌週までに演習問題を回答する。	2
第7回	差動増幅回路 (その2) 差動増幅回路 (2入力) の動作原理とOPアンプの基本	公開資料および教科書を利用し、B級電力増幅回路およびダーリントン接続回路の動作原理を予習する。	2
第8回	OPアンプ (その1) を用いた基本回路の動作原理	公開資料、教科書および講義の動画を利用し、B級電力増幅回路およびダーリントン接続回路の動作原理を復習する。また、翌週までに演習問題を回答する。	2
第9回	OPアンプ (その2) を用いた応用回路の動作原理	公開資料、教科書および講義の動画を利用し、差動増幅回路 (1入力) の動作原理を予習する。	2
第10回	発振回路 (その1) 発振回路の動作原理	公開資料、教科書および講義の動画を利用し、差動増幅回路 (2入力) の動作原理とOPアンプの基本を予習する。	2
第11回	発振回路 (その2) LC発振回路、RC発振回路、水晶発振回路	公開資料、教科書および講義の動画を利用し、OPアンプを用いた基本回路の動作原理を復習する。また、翌週までに演習問題を回答する。	2
第12回	変調 (振幅変調、周波数変調、位相変調) ・復調回路の動作原理	公開資料、教科書および講義の動画を利用し、OPアンプを用いた応用回路の動作原理を復習する。また、翌週までに演習問題を回答する。	2
第13回	第1回～第12回までの内容を網羅する総合演習を行う。制限時間内に演習問題を回答した後、解説することで理解	公開資料および教科書を利用し、発振回路の動作原理を予習する。また、翌週までに演習問題を回答する。	2
第14回	まとめと試験	公開資料、教科書および講義の動画を利用し、変調 (振幅変調、周波数変調、位相変調) ・復調回路の動作原理を復習する。また、翌週までに演習問題を回答する。	2
		公開資料、教科書、総合演習問題および講義の動画を利用し、電子回路II全般を復習する。	2
		全講義に亘る学習内容を復習する。	4
			0

43	電気電子工学実験Ⅲ	EE-F-306	必修 3単位 3年後期
	Electric and Electronic Engineering Laboratory III		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目(工業)	
○ 複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		○ 教職科目(情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目(商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年1組、3年2組 内野 俊 水野 文雄 室山 真徳			
授業の達成目標			
<p>社会のあらゆる分野で高度な電子技術・電子材料が応用され、IT(情報通信技術)革命をもたらしている。このような情報化社会においては、講義や教科書などから得られる専門知識を学ぶことはもちろん、種々の電子機器・装置、電子材料そしてコンピュータを使いこなし得るような基礎技術を身につけておく必要がある。そこで、以下の能力を身につけることを達成目標とする。1. 実験に用いられる測定機器の原理を理解し、取り扱い方に習熟する。2. 測定においては、目的に合った最も妥当な測定方法を考え、その測定技術を体得する。3. 測定した諸量の精度や数量的な概念を把握する。4. 得られた実験結果は、データ整理・検討を加え、公表するための報告書としてまとめる。5. 技術者として望ましい責任、規律、協調などの能力を養う。</p>			
授業の概要			
電気電子回路の応用、システム制御および電子計測技術について実験的に学ぶ。さらに、半導体集積回路の設計(CAD)・製造プロセスの基本技術について体得する。実験項目と進め方は次に示す通りである。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 電気電子工学実験Ⅲ(電気電子工学実験室編) 参考書 教科書中の実験項目ごとに指示。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
提出したレポートを100点満点に点数化することで評価する。評価の前提として、全てのレポートを提出していることを必須とする。なお、レポートは期限までに提出することを前提とし、フィードバックを受けつつ完成させる。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
提出されたレポートにコメントを付して、返却する。発表会を通して、学生間で評価しあう機会を設ける。			
備考			

43	電気電子工学実験Ⅲ	EE-F-306	必修 3単位 3年後期
	Electric and Electronic Engineering Laboratory III		
授業計画(各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	実験ガイダンス	教科書を購入し読むことで全体の実験内容と進め方について予習する。班の編成を確認し、メンバーとともに実験の進め方について相談し、次週からの実験に備える。 ガイダンス内容の確認	1.5
第2回	A / D、D / A変換回路	教科書のA / D、D / A変換回路の部分を読んで予習する。	1.5
第3回	近赤外光を用いた脈波計の原理と製作	実施した内容の確認と実験データを整理した後、得られた実験データを用いてレポートを作成し提出する。 近赤外光を用いた脈波計の原理と製作の部分を読んで予習する。	1.5
第4回	オペアンプ(反転増幅回路、積分回路、フィルタ回路の特性測定)	実施した内容の確認と実験データを整理した後、得られた実験データを用いてレポートを作成し提出する。 教科書のオペアンプの部分を読んで予習する。	1.5
第5回	ワンボードマイコンによる制御技術	実施した内容の確認と実験データを整理した後、得られた実験データを用いてレポートを作成し提出する。 教科書のワンボードマイコンによる制御技術の部分を読んで予習する。	1.5
第6回	倒立振子の制御実験	実施した内容の確認と実験データを整理した後、得られた実験データを用いてレポートを作成し提出する。 教科書の倒立振子の部分を読んで予習する。	1.5
第7回	オプトエレクトロニクス(半導体レーザーの発振、ファイバ伝送他)	実施した内容の確認と実験データを整理した後、得られた実験データを用いてレポートを作成し提出する。 教科書のオプトエレクトロニクスの部分を読んで予習する。	1.5
第8回	半導体集積回路の回路設計とパターン設計	教科書の半導体集積回路の回路・パターン設計の部分を読んで予習する。 実施した内容を確認後、レポートを作成し提出する。	1.5
第9回	半導体集積回路の製造プロセスの基本技術	教科書の半導体集積回路の製造プロセスの部分を読んで予習する。 実施した内容の確認。	1.5
第10回	試作半導体素子の特性測定と評価	教科書の試作半導体素子の特性測定と評価の部分を読んで予習する。 実施した内容の確認と実験データを整理した後、得られた実験データを用いてレポートを作成し提出する。	1.5
第11回	実験課題に関する発表資料の作成	指定された実験課題について、教科書を熟読し周辺技術などを調べておく。 作成した発表資料についてメンバー全員で議論し、内容を磨く。	1.5
第12回	実験課題に関する発表会	作成した発表資料を用いて発表練習を行う。 教員や学生からの質問や助言を参考にして復習することで、今後の発表に生かす。	1.5
第13回	レポート作成(最終提出)	全ての実験課題について、未提出の実験レポートを整理して提出する。 差し戻されたレポートについて修正し、速やかに再提出する。	1.5
第14回	実験に関するまとめ	これまでの実験課題を復習し、苦手な部分を確認しておく。 これまでの実験内容を総復習することで、得られた知識を今後に生かす。	1.5

44	電気電子工学研修 I	EE-F-307	必修 1単位 3年後期
	Electric and Electronic Engineering Research Project I		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 藤田 豊己 小林 正樹 水野 文雄 中山 英久 伊藤 仁 内野 俊 宮下 哲哉 小野寺 敏幸 柴田 憲治 鈴木 郁郎 辛島 彰洋 葛西 重信 田河 育也 下位 法弘 室山 真徳 田倉 哲也			
授業の達成目標			
自分の進路(就職・進学)について決定し、その目標実現に向けて行動する力を身に付けることを目的とする。就職希望の場合は、業種・職種の種別を決めて、具体的な企業などを調べる。また、就職試験対策(一般常識、専門、論文など)を行う。進学希望の場合は、就職関連講座も受講するが、進学を考慮した卒業研修の準備も行う。			
授業の概要			
現代はグローバル化が進行し、どんな国内企業も世界情勢と密接に関係する時代となっている。このため、企業の採用基準はますます高くなってきており、また、採用時期の前倒し傾向にも拍車がかかっている。早期に内定を獲得するためには、それ相応の準備活動が必要である。実際に、早い時期から自らの進路に関して高い問題意識を持った学生から内定が決まっている。また、企業は目的意識が高く主体性があり、またコミュニケーション能力のある人材を求めている。このような就職情勢を鑑みて、早期に就職活動がスタートできるような実践的セミナーを行う。セミナーの主な内容は、履歴書・自己PRの作成、プレゼンテーション、SPI試験、小論文、模擬面接、企業説明会、OB講演会などで、各担当の教員が指示するものと学科あるいは大学全体で行うものがある。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
SPI 問題集。その他は各指導教員の指示による。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
レポート、小論文の成績と学習した知識量だけでなく、セミナーにおける自主性や理解および社会性などを総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
学生間で課題を評価し合う機会を設け、自分に足りなかった知識・経験を補うための学び直しの機会を与える。			
備考			

44	電気電子工学研修 I	EE-F-307	必修 1単位 3年後期
	Electric and Electronic Engineering Research Project I		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	全体ガイダンス (研究室配属等)	与えられた課題の事前学習を行う。	0.5
第2回	進路支援 (履歴書の書き方)	実施した課題の振り返りを行う。 履歴書の書き方について調べる。 履歴書の書き方のポイントを復習する。	0.5 0.5
第3回	進路支援 (自己PR)	自己の強みと弱みを整理する。 自己PRのポイントを復習する。	0.5 0.5
第4回	進路支援 (模擬面接)	面接時の心得を調べる。 面接のポイントを復習する。	0.5 0.5
第5回	SPI試験 (非言語能力問題)	SPI問題集の非言語能力問題を解く。 SPI問題集の間違ったところを復習する。	0.5 0.5
第6回	SPI試験 (言語能力問題)	SPIの問題集の言語能力問題を解く。 SPI問題集の間違ったところを復習する。	0.5 0.5
第7回	研修準備セミナー (1) 研究の背景の説明	与えられた課題の事前学習を行う。 実施した課題の振り返りを行う。	0.5 0.5
第8回	研修準備セミナー (2) 研究を遂行するための基礎実験手法の取得 1	与えられた課題の事前学習を行う。 実施した課題の振り返りを行う。	0.5 0.5
第9回	研修準備セミナー (3) 研究を遂行するための基礎実験手法の取得 2	与えられた課題の事前学習を行う。 実施した課題の振り返りを行う。	0.5 0.5
第10回	小論文の作成・添削	小論文のテーマを考えておく。 小論文作成におけるポイントを復習する。	0.5 0.5
第11回	就職講演会 (1)、感想文	講演会テーマに関連する事項について調べる。 講演テーマの内容をまとめ、感想文作成のポイントを復習しつつ感想文を作成する。	0.5 0.5
第12回	就職講演会 (2)、感想文	講演会テーマに関連する事項について調べる。 講演テーマの内容をまとめ、感想文を作成する。	0.5 0.5
第13回	就職講演会 (3)、感想文	講演会テーマに関連する事項について調べる。感想文作成のポイントを復習する。 講演テーマの内容をまとめ、感想文を作成する。	0.5 0.5
第14回	総括	これまでの総復習を行う。(注)講演会講師の日程を優先するため授業計画は適宜変更される。 授業で得られた知識・スキルを復習し、知識として足りない内容は学び直しを行う。	0.5 0.5

45	電力工学概論	EE-C-308	選択 2単位 3年後期
	Outline of Power Engineering		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	○ 地域志向科目	
		○ 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 埴淵 憲太			
授業の達成目標			
各種発電方式、送電および変電の仕組みや特徴を理解するとともに、カーボンニュートラルの実現に向けた動向、エネルギーセキュリティなど現代社会が抱える問題点、および電力分野における様々な取り組みについて理解する。			
授業の概要			
日本における電気事業の歴史と変遷、新エネルギーを含む主な発電方式の原理と特徴、需要場所に電気を送るための送変電の仕組みを概説する。さらに、電気事業者によるカーボンニュートラルの実現に向けた二酸化炭素排出削減や再生可能エネルギーの導入拡大への取り組みに加え、酸性雨対策や温排水対策などの取り組み、原子燃料サイクルの意義、および電気自動車の動向などについて講義する。また、地域志向科目として、東北地域の電力系統や電力設備について、毎回の授業テーマの中で学ぶ。東北地域の課題や他地域との違いを説明し、電力系統や電力設備の特徴、環境対策について具体例を挙げて紹介する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員の民間企業における経験をもとに、実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義テキスト「電力工学概論」※初回講義時に配付			
参考書等			
成績評価方法・基準			
毎回の講義で行う理解度チェック、および試験により総合的に成績を評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
理解度のチェックについては、次回授業時に全体に対し解説、フィードバックを行う。			
備考			

45	電力工学概論	EE-C-308	選択 2単位 3年後期
	Outline of Power Engineering		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	電力システムの概要、電気事業の歴史	教科書の「電力システムの概要」および「電気事業の歴史」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第2回	電気の使われ方、エネルギーに関する諸問題	教科書の「エネルギー・電気の使われ方」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第3回	水力発電の仕組み	教科書の「水力発電」の各種分類に関する部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第4回	水力発電の付属設備	教科書の「水力発電」の設備構成や付属装置に関する部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第5回	火力発電および高効率コンバインドサイクル発電の仕組み	教科書の「火力発電」の各種発電方式に関する部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第6回	酸性雨対策およびCO2排出抑制への電気事業者の取り組み	教科書の「火力発電」の環境対策に関する部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第7回	原子力発電の仕組み	教科書の「原子力発電」の基本構造等に関する部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第8回	原子燃料サイクル、プルサーマル	教科書の「原子力発電」の原子燃料サイクル等に関する部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第9回	新エネルギーの種類・特徴	教科書の「新エネルギー」の定義や課題等に関する部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第10回	新エネルギー導入促進、東北地方の電力形態	教科書の「新エネルギー」の買取制度等に関する部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第11回	送電工学	教科書の「送電および変電のしくみ」の送電に関する部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第12回	変電工学、電力系統の保護	教科書の「送電および変電のしくみ」の変電に関する部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第13回	電力自由化など電力関係の最新動向 (電気自動車含む)	教科書の「電力自由化」に関する部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第14回	まとめと試験	これまでの総復習と理解度を確認するための試験を行う。 試験で解けなかった問題は再度復習する。	2

46	電気機械工学	EE-C-309	選択 2単位 3年後期
	Electromechanical Engineering		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 小川 智之			
授業の達成目標			
電圧や電流を変換する変圧器、電動機（モータ）や発電機などについて原理および構造を理解し、等価回路やベクトル図を用いて特性の計算ができるようになる。			
授業の概要			
電気機器は、電気を作り出す発電所の発電機、その電気を効率よく送電したり、家庭電化製品などで使うために電圧を下げる変圧器、またエレベータやエアコンなど電気を使って動かすモータなどが多数使用されている。このような我々の身近で使われている電気機器の基礎を学修する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「電気機器」西方正司 著 オーム社			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テストおよび課題レポート 30%、期末試験 70% により総合的に成績を評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題提出後の授業の中で、提出課題に対する解説やよくある誤り等についてコメントする。			
備考			

46	電気機械工学	EE-C-309	選択 2単位 3年後期
	Electromechanical Engineering		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	三相交流回路の電圧と電流	テキストの講義予定範囲を読む。 三相交流の基礎、計算問題について復習する。	2 2
第2回	三相交流回路の電力と力率	テキストの講義予定範囲を読む。 電力と力率、およびそれらの計算問題について復習する。	2 2
第3回	変圧器の基礎	テキストの講義予定範囲を読む。 理想的な単相変圧器についての基礎と計算問題について復習する。	2 2
第4回	変圧器の等価回路	テキストの講義予定範囲を読む。 単相変圧器の等価回路について復習する。	2 2
第5回	三相変圧器	テキストの講義予定範囲を読む。 三相変圧器の計算問題について復習する。	2 2
第6回	誘導電動機	テキストの講義予定範囲を読む。 誘導電動機の原理について復習する。	2 2
第7回	誘導電動機の世界制御	テキストの講義予定範囲を読む。 等価回路、すべり、速度制御法について復習する。	2 2
第8回	誘導発電機	テキストの講義予定範囲を読む。 誘導発電機について復習する。	2 2
第9回	同期発電機	テキストの講義予定範囲を読む。 同期発電機の原理と計算問題について復習する。	2 2
第10回	同期電動機	テキストの講義予定範囲を読む。 同期電動機の原理、計算問題について復習する。	2 2
第11回	無整流子電動機	テキストの講義予定範囲を読む。 無整流子電動機の原理と計算問題について復習する。	2 2
第12回	直流電動機	テキストの講義予定範囲を読む。 直流電動機の原理と計算問題について復習する。	2 2
第13回	電気機器の利用法	テキストの講義予定範囲を読む。 直流発電機について復習する。各種電気機器の利用法について復習する。	2 2
第14回	まとめと試験	これまでの講義範囲を復習する。	4 0

47	情報理論	EE-E-303	選択 2単位 3年後期
	Information Theory		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 三浦 直樹			
授業の達成目標			
情報理論の基礎的知識を学習し、誤り検出・訂正できる符号理論の入門的知識を得る。			
授業の概要			
シャノンの情報理論の基礎的概念から始まり符号理論の入門的知識までを学ぶ。情報の表現、情報量、情報源のモデル、情報源符号化、情報通信路のモデル、通信路符号化、線形符号、ハミング符号などの符号理論入門を学習する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
情報理論の基礎 横尾英俊 共立出版 2004			
参考書等			
情報理論 宮川洋 コロナ社 1979			
成績評価方法・基準			
講義中の課題レポート 40%、まとめの試験 60%に基づき評価を行う。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
講義中に出题した課題は次回講義時に解説を行う。			
備考			

47	情報理論	EE-E-303	選択 2単位 3年後期
	Information Theory		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス、情報の表現 (2進数、アルファベットと符号化)	教科書の情報の表現に関する部分を読んで予習する。 2進数や符号化の概念について復習しておく。	2 2
第2回	情報量、エントロピー	情報量、エントロピーに関する部分を読んで予習する。 例題等を復習し学習内容で不確実な部分を再度確認しておく。	2 2
第3回	条件付き確率、結合確率などの確率の復習	条件付き確率、結合確率に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第4回	いろいろな情報量の求め方とそれらの演習	いろいろな情報量の求め方に関する部分を読んで予習する。 例題などを振り返り確率変数が2つの場合のエントロピー計算について復習する。	2 2
第5回	情報源のモデル	情報源のモデルに関する部分を読んで予習する。 教科書の例題を参考に学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第6回	情報源のエントロピー	情報源のエントロピーに関する部分を読んで予習する。 例題などを振り返り様々な情報源のエントロピー計算について復習する。	2 2
第7回	情報源符号化、クラフトの不等式	情報源符号化、クラフトの不等式に関する部分を読んで予習する。 教科書の例題を参考に種々の用語について整理しておく。	2 2
第8回	情報源符号化定理、最適な情報源符号化法	情報源符号化定理、シャノンの符号化法、ハフマン符号に関する部分を読んで予習する。 教科書の問題を解き符号化の手順について復習しておく。	2 2
第9回	情報通信路のモデル	情報通信路のモデルに関する部分を読んで予習する。 教科書の例題を参考に種々の用語について整理しておく。	2 2
第10回	通信路容量、通信路符号化定理	通信路符号化定理に関する部分を読んで予習する。 例題などを振り返り通信路容量や符号のレート計算について復習する。	2 2
第11回	通信路符号化、誤り検出、誤り訂正	通信路符号化、誤り検出、誤り訂正に関する部分を読んで予習する。 教科書の例題を参考に種々の用語について整理しておく。	2 2
第12回	線形符号	線形符号に関する部分を読んで予習する。 例題などを振り返り符号化の方法について復習する。	2 2
第13回	ハミング符号	ハミング符号に関する部分を読んで予習する。 例題などを振り返り符号化の方法について復習する。	2 2
第14回	総まとめ	これまでの内容について教科書や講義中の課題を見直し予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2

48	創造開発	EE-E-304	選択 2単位 3年後期 (集中講義)
	Innovative Design and Development		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
○ オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
3年全組 水野 文雄			
授業の達成目標			
講義と演習を通じて、エンジニアリングファシリテーションの基礎的な知識と実践能力を身につける。また、組込みコンピュータ、センサおよびアクチュエータを用いた製品開発実習を通じて、これまで学んだ電気電子工学技術を実践する能力を養う。課題として、自らのアイデアに基づき立案した開発プロジェクトに取り組むことで、製品開発プロセスを遂行する基礎スキルを身につける。			
授業の概要			
本講義では、グループワークによる製品企画と開発実習を通じて、これまで学んだ電気電子工学技術を実践する。はじめに、アイデアを出すためのエンジニアリングファシリテーションに関する講義・演習を行う。次に、組込みマイコンによるセンサやアクチュエータを用いた実習を行う。並行して自らのアイデアに基づく製品企画、設計書の作成および製品試作を行う。最後に成果発表を実施するが、学内だけでなく外部のコンテスト等においても行う。なお、本講義は使用機器や設備等の関係上、受講者数を20名程度とする。本講義の受講は、組込システム入門などの関連科目の履修および修得状況に応じて認める。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
講義の初めに指示する。また、必要に応じてプリント配付を行う。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
課題の製品企画書 45%、製作した装置 45%、発表および報告書 10% とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポート類については、次回授業時にフィードバックを行う。作業状況については逐次確認を行い、都度フィードバックを行う。採点基準は、新規性、製作物の品質で判断することにする。			
備考			

48	創造開発	EE-E-304	選択 2単位 3年後期 (集中講義)
	Innovative Design and Development		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス 授業の概要と進め方	製品開発を行うために必要となる事柄の調査を行う。	2
第2回	製品開発に必要なツール	講義時配付資料を見直し講義の全体像を把握する。	2
第3回	製品開発に関わるアイデアを生み出す方法	電子機械の製品開発に必要なツールについて調査する。	2
第4回	製品開発に関わるアイデアの発散と収束	これまでの講義と実験を含む演習科目の内容を復習する。	2
第5回	製品開発に関わるアイデアの具体化	製品開発のためのアイデア発想法に関する資料を読む。	2
第6回	製品開発の企画および計画	授業で活用した項目をまとめ復習する。	2
第7回	センサと駆動回路の構成方法	製品開発のためのアイデア発散と収束に関する資料を読む。	2
第8回	組込みマイコンを用いたセンサ情報の取得	授業で活用した項目をまとめ復習する。	2
第9回	アクチュエータと駆動回路の構成方法	従前の学習内容を理解し、製品企画の考えをまとめる。	2
第10回	組込みマイコンを用いたアクチュエータの制御	資料を確認し、製品企画および計画書の作成を行う。	2
第11回	組込みマイコンにおけるデジタル信号処理の導入	電子機械で利用されるセンサと使い方について調査する。	2
第12回	センサ、アクチュエータおよび機械の統合	必要となるアクチュエータと部品の選定を行う。	2
第13回	開発製品の評価試験と結果のまとめ	組込みマイコンによるアクチュエータ制御方法について調べる。	2
第14回	課題についての総括	駆動回路の構成と制御プログラムの実装を行う。	2
		組込みマイコンとデジタル信号処理について調査を行う。	2
		組込みマイコンの選定とプログラム作成法の復習をする。	2
		センサ、アクチュエータ、組込みマイコンおよび機械部品の統合技術について調べる。	2
		自らの製品開発で実装する。	2
		電子機械の評価試験方法について調べる。	2
		自ら開発した製品の評価試験を行い、その結果をまとめる。	2
		これまでの課題の報告書と発表資料を作成する。	2
		追加調査や指摘事項の修正を行い、最終報告書をまとめる。	2

49	電気電子工学研修 II	EE-F-408	必修 3単位 4 年前期
	Electric and Electronic Engineering Research Project II		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 藤田 豊己 小林 正樹 水野 文雄 中山 英久 伊藤 仁 内野 俊 宮下 哲哉 小野寺 敏幸 柴田 憲治 鈴木 郁郎 辛島 彰洋 葛西 重信 田河 育也 下位 法弘 室山 真徳 田倉 哲也			
授業の達成目標			
卒業研修はこれまで学んだ様々な学科目の再構築と統合化である。研修テーマを通じて、未知のものに取り組み、結果をまとめる方法を身につける。			
授業の概要			
電気電子工学研修はいわゆる卒業研修と呼ばれるもので、特定の研究室に所属し、研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで一年半を通してセミナーやそれぞれの研修テーマに応じた調査や実験を行う。これまで学んだ知識の集約と統合化を行うとともに、理論の深い理解や実験計画の作成と実行、実験結果の考察、文献の調査などを行い創造力と応用力を培うものである。電気電子工学研修Ⅱの内容は研究室の各指導教員から説明される。セミナー等により研修テーマの専門的な学修を行い、設計、製作、実験、調査など実際の研修活動に役立てる。学期末には各研修テーマの成果を研究室内で発表する。なお、研修テーマは大きく、電子機械・ロボット系、医工学・バイオ系、光・情報デバイス系の3つの分野に分かれる。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
各指導教員の指示による。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
研修テーマに対する達成度や学習した知識量だけでなく、研修への取り組み方や理解度、プレゼンテーションなどを総合評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
半年の研修計画から予定した目標に対し成果がどの程度の進捗状況なのか総括しつつ、計画とずれた場合の原因を考察する。その考察を基に、次の研修に向けた計画内容を立案する。			
備考			

49	電気電子工学研修 II	EE-F-408	必修 3単位 4 年前期
	Electric and Electronic Engineering Research Project II		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	研修テーマに従い、半年間の計画を立てる。	1.5
第2回	卒業研修に向けた研究の遂行1	計画の見直しおよび修正を行う。	1.5
第3回	卒業研修に向けた研究の遂行2	一週間の成果のまとめを行い、次の一週間の計画を立てる。	1.5
第4回	卒業研修に向けた研究の遂行3	一週間の成果で生じた疑問点を洗い出し、その疑問に対する解答を考察する。	1.5
第5回	卒業研修に向けた研究の遂行4	一週間の成果のまとめを行い、前回授業で考えた考察を立証するための、次の一週間の計画を立てる。	1.5
第6回	卒業研修に向けた研究の遂行5	一週間の成果で生じた疑問点を洗い出し、その疑問に対する解答を考察する。	1.5
第7回	卒業研修に向けた研究の遂行6	一週間の成果のまとめを行い、前回授業で考えた考察を立証するための、次の一週間の計画を立てる。	1.5
第8回	卒業研修に向けた研究の遂行7	一週間の成果で生じた疑問点を洗い出し、その疑問に対する解答を考察する。	1.5
第9回	卒業研修に向けた研究の遂行8	一週間の成果のまとめを行い、前回授業で考えた考察を立証するための、次の一週間の計画を立てる。	1.5
第10回	卒業研修に向けた研究の遂行9	一週間の成果で生じた疑問点を洗い出し、その疑問に対する解答を考察する。	1.5
第11回	卒業研修に向けた研究の遂行10	一週間の成果のまとめを行い、前回授業で考えた考察を立証するための、次の一週間の計画を立てる。	1.5
第12回	卒業研修に向けた研究の遂行11	一週間の成果で生じた疑問点を洗い出し、その疑問に対する解答を考察する。	1.5
第13回	卒業研修に向けた研究の遂行12	これまでの成果の総まとめを行い、発表の準備をする。	1.5
第14回	総括 (現時点での成果および計画全体に対する進捗度合の発表)	発表内容を推敲する。	1.5
		成果発表の反省と、今後の課題をまとめる。	1.5
		初回授業で立てた半年間の計画に対して成果がどの程度追隨しているか、成果に対するフィードバックを行う。	1.5

50	電気電子材料	EE-C-410	選択 2単位 4 年前期
	Electrical and Electronic Materials		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 柴田 憲治			
授業の達成目標			
様々な電気・電子材料の基本的な性質と応用例を学習することで、身近な電気電子機器の動作原理を理解し、説明できるようになること。			
授業の概要			
現在の高度情報化社会の発展は、電気電子材料の進展に負うところが大きい。代表的な電気電子材料の特徴・機能について解説し、それらの電気電子部品・デバイスなどへの応用について示す。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
参考書 「電気・電子材料」中澤達夫 他著 コロナ社「半導体材料工学」大貫 仁 著 内田老鶴圃 など講義ではプリント補助資料も配付する			
参考書等			
成績評価方法・基準			
レポート 30%、試験 70% で評価する。各項目の基礎的事項が理解されているかどうかで評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポート課題に対しては、次回授業時に解説を行う。			
備考			

50	電気電子材料	EE-C-410	選択 2単位 4 年前期
	Electrical and Electronic Materials		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	電子材料と電子デバイス技術の概説	電子デバイスについて予習。 電気・電子材料の分類と役割について復習する。	2 2
第 2 回	原子の電子配置と原子の性質、原子の結合と結晶構造	原子の電子配置と結晶構造の予習。 電子配置と原子の性質、および結晶構造を復習。	2 2
第 3 回	導電材料と抵抗材料	導電材料を予習。 抵抗率の復習。	2 2
第 4 回	半導体材料の基本的性質と作製法	半導体の材料を予習。 半導体の性質を復習。	2 2
第 5 回	Si 半導体デバイス	半導体デバイスを予習。 Si 半導体デバイスを復習。	2 2
第 6 回	誘電体材料と電気的性質	誘電体を予習。 誘電体の電気的性質を復習。	2 2
第 7 回	誘電体材料デバイス	誘電体デバイスを予習。 誘電体の応用を復習。	2 2
第 8 回	磁性材料	磁性材料を予習。 磁性材料の応用を復習。	2 2
第 9 回	磁気工学と記録材料	HDD について予習。 磁性材料の HDD への応用を復習。	2 2
第 10 回	超伝導材料	超伝導について予習。 超伝導材料の応用を復習。	2 2
第 11 回	光エレクトロニクス材料と光デバイス	光材料を予習。 光デバイスを復習。	2 2
第 12 回	液晶・EL ディスプレイ材料、炭素材料	ディスプレイを予習。 FPD の材料と構造を復習。	2 2
第 13 回	材料の構造・組成解析技術、電気・磁気評価技術	結晶構造とブラッグ反射、材料の評価技術を予習。 X 線回折による構造解析、組成解析、電気的評価、磁気的評価を復習。	2 2
第 14 回	まとめと試験	従前の学習内容を理解し、期末試験に備える。 不確実だった問題について、講義ノートを見直し不明な点を解決する。	2 2

51	バイオ・光エレクトロニクス	EE-C-411	選択 2単位 4 年前期
	Bioelectronics and Optoelectronics		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)		
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)		
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)		
クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目		
	○ 実務経験のある教員担当		
	アクティブラーニング		
	メディア授業		
クラス・担当教員			
4 年全組 小林 正樹			
授業の達成目標			
1. 光エンジニアリングおよびバイオエンジニアリングに必要な光学および生物学の基本知識を身につける。2. 光デバイスの種類や動作原理を理解し、使い方や特性について説明することができる。3. バイオエレクトロニクスデバイスの種類や動作原理を理解し、用途や特徴を説明することができる。4. 各種医用機器の用途、特徴、しくみを理解し、装置の概要を説明することができる。			
授業の概要			
前半は光エレクトロニクス分野として、光学の基礎、半導体受光素子、半導体レーザー、光ファイバ、光制御素子などの光エレクトロニクスデバイス、および光通信を中心とした光応用システムについて学ぶ。			
後半はバイオエレクトロニクス分野として、生物学の基礎、バイオセンサデバイス、生体計測のための医用電子 (ME) 機器について学ぶ。とくに、放射線計測、超音波計測、光計測に基づく医用画像診断技術を取り扱う。これらを通じて、エレクトロニクスとの融合分野としての光およびバイオエレクトロニクス技術に関する基礎知識を修得する。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員は、民間企業において光を利用した生体計測など生体医工学に精通した経験を有し、これを授業に登用することで実務に対応できるスキルを養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
資料をLMSで配付する。			
参考書等			
(光エレクトロニクス) 「新インターユニバーシティ光エレクトロニクス」神保孝志著 オーム社 「基礎光エレクトロニクス」藤本晶著 森北出版			
(バイオエレクトロニクス) 「コア講義生物学」田村隆明著 裳華房 「バイオセンサ入門」六車仁志著 コロナ社 「生体計測学」金井寛他著 コロナ社			
成績評価方法・基準			
達成目標の各項目について、2回の試験での評価を 60%、毎回の演習課題の評価を 40% として総合評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
課題は LMS 上でフィードバックする。			
備考			

51	バイオ・光エレクトロニクス	EE-C-411	選択 2単位 4 年前期
	Bioelectronics and Optoelectronics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	【導入】光エレクトロニクスおよびバイオエレクトロニクスの技術分野とデバイスおよび関連する機器の紹介	光エレクトロニクス分野としては、物理学Ⅱ、電磁気学Ⅰ・Ⅱ、固体電子工学Ⅰ・Ⅱの内容を復習する。バイオエレクトロニクス分野としては、電気電子計測、センサ工学の内容を復習する。光エレクトロニクスとバイオエレクトロニクスに関連するデバイスや機器について調べる。	2 2
第2回	【光学基礎】 光の反射、屈折、偏光、干渉、回折	光学基礎に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第3回	【光の検出】 半導体受光素子の原理、フォトダイオード、イメージセ	光の検出に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第4回	【光の発生】 レーザーの原理、半導体レーザー	光の発生に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第5回	【光の伝送】 光ファイバの原理、光通信	光の伝送に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第6回	【光エレクトロニクスのまとめと中間試験】	演習問題を解き中間試験の予習をする。 試験内容で不確実だった部分を復習する。	2 2
第7回	【バイオエレクトロニクスのための生物学基礎】 ①遺伝、代謝	遺伝、代謝に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第8回	【バイオエレクトロニクスのための生物学基礎】 ②神経伝達、免疫	神経伝達、免疫に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第9回	【バイオエレクトロニクスデバイス】 ①バイオセンサ	バイオセンサに関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第10回	【バイオエレクトロニクスデバイス】 ②バイオチップ	バイオチップに関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第11回	【メディカルエレクトロニクス】 ①X線CT、MRI	X線CT、MRIに関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第12回	【メディカルエレクトロニクス】 ②核医学画像診断装置、超音波画像診断装置	核医学画像診断装置、超音波画像診断装置に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第13回	【メディカルエレクトロニクス】 ③生体電気計測、生体光計測	生体電気計測、生体光計測に関する部分を読んで予習する。 演習問題を解き学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第14回	【バイオエレクトロニクスのまとめと期末試験】	演習問題を解き期末試験の予習をする。 試験内容で不確実だった部分を復習する。	2 2

52	ロボティクス	EE-C-412	選択 2単位 4 年前期
	Robotics		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		○ 教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 水野 文雄			
授業の達成目標			
<p>ロボットは電気電子、機械、情報および制御など幅広い領域の技術に関係している。本講義では、以下に述べる項目を修得することを目標とする。(1) ロボットの構成要素であるセンサや電子回路、アクチュエータなどの動作原理の理解と知識を身に付ける。(2) センサ、アクチュエータなどを統合したロボット制御の仕組みを理解する。(3) 運動学に基づくロボットの動作について理解する。</p>			
授業の概要			
<p>ロボットは、センサからの情報を処理して環境を認識し、それに応じて行動・動作を計画し、アクチュエータを制御して行動する知的機械である。その要素技術は生活家電、生産用機械および輸送機器など装置で重要な役割を果たしている。本講義では、統合システムであるロボットを制御するために必要な基礎知識の習得を目的とする。はじめに、ロボットの構成要素であるセンサおよびアクチュエータについて解説する。その後、車輪移動ロボットとロボットアームを対象とした運動学および逆運動学について解説する。</p>			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書 「はじめてのロボット創造設計」米田 完、坪内孝司、天隈 久、講談社			
参考書等			
成績評価方法・基準			
定期試験 50%、中間試験 20%、毎授業の小テストおよびレポート 30% の配分で、総合して評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テスト、レポート、中間試験を実施した場合には次回授業時に全体に対してフィードバックを行う。			
備考			

52	ロボティクス	EE-C-412	選択 2単位 4 年前期
	Robotics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ロボット工学概説	シラバスを読み学習内容を理解する。	2
第2回	ロボットで使用するセンサ	数学の復習を行う。講義時配付資料を見直し講義の全体像を把握する。 ロボットで使用するセンサに関する範囲の教科書を読む。	2
第3回	ロボットで使用するアクチュエータ	教科書とノートを見直し、演習問題に取り組む。 ロボットで使用するアクチュエータの範囲の教科書を読む。	2
第4回	ロボットで使用する機械部品	教科書とノートを見直し、演習問題に取り組む。 ロボットで使用する機械部品の範囲の教科書を読む。	2
第5回	車輪移動ロボットの構成要素	教科書とノートを見直し、演習問題に取り組む。 車輪型移動ロボットの構成に関する範囲の教科書を読む。	2
第6回	車輪移動ロボットの運動学	教科書とノートを見直し、演習問題に取り組む。 車輪型移動ロボットの運動学に関する範囲の教科書を読む。	2
第7回	車輪移動ロボットのモータ制御	教科書とノートを見直し、演習問題に取り組む。 車輪移動ロボットのモータ制御に関する範囲の教科書を読む。	2
第8回	車輪移動ロボットの走行制御	教科書とノートを見直し、演習問題に取り組む。 車輪移動ロボットの走行制御に関する範囲の教科書を読む。	2
第9回	前半のまとめと中間試験	従前の学習内容を理解し中間試験に備える。 不確実だった問題について教科書等を見直し不明な点を解決する。	2
第10回	ロボットアームの運動学	教科書とノートを見直し、演習問題に取り組む。 ロボットアームの運動学に関する範囲の教科書を読む。	2
第11回	ロボットアームの逆運動学	教科書とノートを見直し、演習問題に取り組む。 ロボットアームの逆運動学に関する範囲の教科書を読む。	2
第12回	ロボットアームのヤコビ行列	教科書とノートを見直し、演習問題に取り組む。 ロボットアームのヤコビ行列に関する範囲の教科書を読む。	2
第13回	ロボットアームの特異姿勢	教科書とノートを見直し、演習問題に取り組む。 ロボットアームの特異姿勢に関する範囲の教科書を読む。	2
第14回	まとめと試験	従前の学習内容を理解し期末試験に備える。 不確実だった問題について教科書等を見直し不明な点を解決する。	2

53	パワーエレクトロニクス	EE-C-413	選択 2単位 4 年前期
	Power Electronics		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
○ 単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 田倉 哲也			
授業の達成目標			
パワー半導体デバイスの種類とその特徴、スイッチングによる電力の変換と制御法、サイリスタコンバータ回路、DC-DC コンバータ回路、インバータ回路の動作と特性を理解し、電気電子工学分野において重要なパワーエレクトロニクス分野の知識と技術の習得を目標とする。			
授業の概要			
パワーエレクトロニクスは半導体デバイス、電力、制御の技術を融合することで電力の変換・制御を高い効率で行う技術分野である。本講義では、電力変換の基本回路と応用例の紹介からはじまり、パワー半導体デバイスの種類と性能、スイッチングの原理、整流回路、コンバータ回路、インバータ回路の役割と動作について学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
新インターユニバーシティ パワーエレクトロニクス 堀孝正編著 オーム社			
参考書等			
適宜授業中に指示			
成績評価方法・基準			
小テスト (40%) と期末テスト (60%) で総合評価して、その合計点が 60 点以上の者を合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストについては、次回授業時に提出課題に対しての見解や、よくある誤り等についてコメントする。			
備考			

53	パワーエレクトロニクス	EE-C-413	選択 2単位 4 年前期
	Power Electronics		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第 1 回	ガイダンス・パワーエレクトロニクスとは	パワーエレクトロニクスの簡単な本を読み予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 2 回	単相・三相回路の基本	単相・三相回路についてまとめておく。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 3 回	電力変換の基本回路と応用例	変換回路の種類に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 4 回	電力変換回路で発生するひずみ波形	波形のひずみと高調波に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 5 回	パワー半導体デバイス (ダイオードとサイリスタ)	サイリスタの基本特性に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 6 回	パワー半導体デバイス (パワートランジスタ)	パワートランジスタに関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 7 回	スイッチングによる電力変換	スイッチ回路の動作に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 8 回	スイッチング損失	電力変換回路の損失に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 9 回	単相サイリスタコンバータ	単相整流回路に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 10 回	三相サイリスタコンバータ	三相整流回路に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 11 回	DC-DC コンバータ (チョップパ回路)	降圧・昇圧チョップパに関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 12 回	DC-DC コンバータ (スイッチングレギュレータ)	フォワード・フライバックに関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 13 回	単相/三相インバータとその特性	インバータの基本回路に関する部分を読んで予習する。 学習内容で不確実な部分を復習する。	2 2
第 14 回	まとめと試験	これまでの学習内容を振り返り予習として試験準備をする。 試験の解答時に不確実だった部分を復習する。	2 2

54	電気電子工学研修Ⅲ	EE-F-409	必修 3単位 4 年後期
	Electric and Electronic Engineering Research Project III		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
単独(1人が全回担当)		教職科目 (工業)	 
複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)	
オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)	
○ クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		○ アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4 年全組 藤田 豊己 小林 正樹 水野 文雄 中山 英久 伊藤 仁 内野 俊 宮下 哲哉 小野寺 敏幸 柴田 憲治 鈴木 郁郎 辛島 彰洋 葛西 重信 田河 育也 下位 法弘 室山 真徳 田倉 哲也			
授業の達成目標			
卒業研修はこれまで学んだ知識と技能の再構築と統合化である。研修テーマを通じて、未知のものに取り組み、結果をまとめるとともに発表する方法を身につける。			
授業の概要			
電気電子工学研修はいわゆる卒業研修と呼ばれるもので、特定の研究室に所属し、研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで一年半の期間を通してセミナーやそれぞれの研修テーマに応じた調査や実験を行う。これまで学んだ知識の集約と統合化を行うとともに、理論の深い理解や実験計画の作成と実行、実験結果の考察、文献の調査などを行い創造力と応用力を培うものである。電気電子工学研修Ⅲは、これまで学んだ知識、3年後期の研修Ⅰや前期の研修Ⅱで得た専門的知識や洞察力、創造力により総合的に研究成果をまとめ上げる。最終的には各研修テーマの成果を学科の発表会で発表し、研修報告書(卒論)にまとめて提出する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
各指導教員の指示による。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
研修テーマに対する達成度や学習した知識量だけでなく、研修への取り組みにおける自主性の度合と理解度、発表の良否、および好奇心とチャレンジ精神の有無を総合して評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
研修を通じて得た知識・経験を基に、与えられた研修テーマに対して自ら立案し、実行した内容および得られた成果を振り返り、自分なりのPDCA(Plan-Do-Check-Act)サイクル手法を確立する。			
備考			

54	電気電子工学研修Ⅲ	EE-F-409	必修 3単位 4 年後期
	Electric and Electronic Engineering Research Project III		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス	前期の振り返りを基に、半年間の計画を立てる。	1.5
第2回	卒業研修に向けた研究の遂行1	卒業研修で行う研究・実験の最終的な成果目標を確立する。	1.5
第3回	卒業研修に向けた研究の遂行2	一週間の成果のまとめを行い、次の一週間の計画を立てる。	1.5
第4回	卒業研修に向けた研究の遂行3	一週間の成果で生じた疑問点を洗い出し、その疑問に対する解答を考察する。	1.5
第5回	卒業研修に向けた研究の遂行4	一週間の成果のまとめを行い、前回授業で考えた考察を立証するための、次の一週間の計画を立てる。	1.5
第6回	卒業研修に向けた研究の遂行5	一週間の成果で生じた疑問点を洗い出し、その疑問に対する解答を考察する。	1.5
第7回	卒業研修に向けた研究の遂行6	一週間の成果のまとめを行い、前回授業で考えた考察を立証するための、次の一週間の計画を立てる。	1.5
第8回	卒業研修に向けた研究の遂行7	一週間の成果で生じた疑問点を洗い出し、その疑問に対する解答を考察する。	1.5
第9回	卒業研修に向けた研究の遂行8	一週間の成果のまとめを行い、前回授業で考えた考察を立証するための、次の一週間の計画を立てる。	1.5
第10回	卒業研修に向けた研究の遂行9	一週間の成果で生じた疑問点を洗い出し、その疑問に対する解答を考察する。	1.5
第11回	卒業研修に向けた研究の総括および研修概要作成	電気電子工学研修ⅠⅡⅢで得られた研究成果を総括し、その成果内容に関する妥当性およびメカニズムを考察する。	1.5
第12回	卒業研修発表会	研修概要の作成の準備を行う。研修概要を精読して修正・加筆して提出する。	1.5
第13回	研修報告書(卒論)の作成、提出	提出した研修概要を推敲し、卒論作成のためのストーリー案を立てる。	1.5
第14回	総括	卒業研修発表会のプレゼンテーションの準備を行う。	1.5
		発表の振り返りを行い、受けた質問などに対する解答を作成し卒論のストーリーに充足させる。	1.5
		一年間の成果の総まとめを行い、卒論作成の準備をする。卒論を精読して修正・加筆し、完成度を高めて提出する。	1.5
		初回授業で立てた研修計画および目標に対し、得られた成果の進捗度合を振り返る。	1.5
		一年間を振り返る。	1.5
		研修で得られた研究成果から今後の課題をまとめる。	1.5

55	電気法規	EE-C-415	選択 2単位 4年後期
	The electric law and facility management		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
○	単独(1人が全回担当)	○ 教職科目 (工業)	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目 (情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目 (商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	地域志向科目	
		実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4年全組 山田 洋			
授業の達成目標			
電気事業に関わる電気法規を学習することを通じて、エネルギー供給における技術とその安全を考慮した規制の詳細を学習し、電気設備関係の技術者として必要な知識を得ること。 1 電気事業法を中心に電気関係法規の概要を理解できること。 2 電気事業法の目的である事業規制と保安規制の概要を理解できること。 3 電気工作物の技術基準について、その主な規制の内容を理解できること。 4 電気施設管理について、その概要を理解できること。			
授業の概要			
電気関係の法律としてはどのようなものがあるか。また、これらの法律がなぜ必要であるかを示すとともに、電気事業法に基づく事業規制、保安規制、電気工作物の技術基準ならびに電気施設管理について学習する。電気関係法令の主要点について、エネルギーや環境問題等との関連を明らかにしながら、電気事業法を中心に講述する。			
実務経験を活かした教育について			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
みんなが欲しかった!電験三種 法規の教科書&問題集 第2版 TAC出版開発グループ 編 TAC出版			
参考書等			
成績評価方法・基準			
毎回講義で行う理解度チェック、および試験により総合的に成績を評価する。 (期末試験70%、課題など30%の割合で総合的に評価し、100点満点のうち60点以上を合格とする。)			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
毎回講義で理解度をチェックし、フィードバックする。			
備考			

55	電気法規	EE-C-415	選択 2単位 4年後期
	The electric law and facility management		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	電気事業	教科書の「各種電気事業者、我が国の使用周波数」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第2回	電力需給	教科書の「負荷の種類と特性、供給力の種類と特性」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第3回	電気事業法と関連法規	教科書の「電気事業法」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第4回	電気工事法と関連法規	教科書の「電気工事士法、電気用品安全法」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第5回	電気施設管理	教科書の「施設管理」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第6回	電気設備に関する技術基準	教科書の「用語の定義、電圧の種別」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第7回	電気設備に関する技術基準 (電路の絶縁、絶縁体力試験)	教科書の「電路の絶縁、絶縁耐力試験」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第8回	電気設備に関する技術基準 (接地工事、施設制限)	教科書の「接地工事」と「施設制限」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第9回	電気設備に関する技術基準 (機械器具の施設方法及び保護)	教科書の「機械器具の施設方法及び保護」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第10回	電気設備に関する技術基準 (発電所等への取扱者以外の者の立入防止、架空電線路及び支持物)	教科書の「発電所等への取扱者以外の者の立入防止、架空電線路及び支持物」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第11回	電気設備に関する技術基準 (危険や障害の防止、施設の禁止、施設、保護)	教科書の「危険や障害の防止、施設の禁止、施設、保護」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第12回	電気設備に関する技術基準 (過電流からの保護措置、分散型電源の系統連系設備)	教科書の「過電流からの保護措置、分散型電源の系統連系設備」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第13回	電気設備に関する技術基準 (法令の計算)	教科書の「法令の計算」の部分を読んで予習する。 授業で学んだ内容について復習する。	2
第14回	これまでのまとめ、その確認と振り返り	これまでのまとめ、その確認と振り返り。 これまでのまとめとその確認を振り返り、学習内容の定着を目指す。	2

56	品質管理及び知的財産	EE-C-414	選択 2単位 4年後期
	Quality Control and Intellectual Property		
授業形態		該当科目	SDGsの取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	教職科目(工業)	 
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)	教職科目(情報)	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)	教職科目(商業)	
	クラス分け(クラス分けて担当する)	<input type="radio"/> 地域志向科目	
		<input type="radio"/> 実務経験のある教員担当	
		アクティブラーニング	
		メディア授業	
クラス・担当教員			
4年全組 若生 一広			
授業の達成目標			
品質管理で多用される統計手法を理解し、それを独自で実践できる。また、電子・情報分野の技術者として仕事をする上で必要となる特許、実用新案などの知的財産権について理解できる。			
授業の概要			
企業で仕事をするときに、品質管理で必要となる基本的な統計手法について、講義と演習を通して学ぶ。また、製品開発等で生まれる発明やデザインに関連して、知的財産権を取得するための要件・出願方法・特許検索方法・アイデアを特許に結び付けるための権利化手法について学ぶ。さらに、地域志向科目「地域と宮城」として、宮城県内企業における知的財産活動について学ぶ。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員が、民間企業において研究開発に従事した経験を活用し、実務への対応力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
教科書：「統計学図鑑」栗原伸一、丸山敦史 共著 オーム社 2,500円(税別) ISBN978-4-274-22080-7 知的財産については、適宜資料を配布する。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
試験 50%、レポート 50% の配分で総合的に評価する。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
レポートについては回収後、解答例を示す。			
備考			

56	品質管理及び知的財産	EE-C-414	選択 2単位 4年後期
	Quality Control and Intellectual Property		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容(授業方法)	学習課題(上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	ガイダンス 品質管理(歴史的背景)とQC7つ道具について	QC7つ道具について調べ、予習する。	2
第2回	データの統計的処理	ガイダンスで行った歴史的背景及びQC7つ道具について理解し復習する。 教科書「第1章記述統計学」(pp.8-12)、「第3章推測統計学」(pp.42-47, pp.54-55)を予習する。 講義内容を復習する。	2
第3回	確率分布	教科書「第2章確率分布」(pp.20-38)を予習する。 講義内容を復習する。	2
第4回	推測統計学	教科書「第3章推測統計学」(pp.48-51, pp.56-57)を予習する。 講義内容を復習する。	2
第5回	信頼区間の推定、帰無仮説と対立仮説	教科書「第4章信頼区間の推定」(pp.60-65, pp.68-69)、「第5章仮説検定」(pp.72-77, p.87)を予習する。 講義内容を復習する。	2
第6回	仮説検定	教科書「第5章仮説検定」(pp.78-86, pp.90-101)を予習する。 講義内容を復習する。	2
第7回	相関分析	教科書(pp.14-17, pp.52-53, p.66, p.88)を予習する。 講義内容を復習する。	2
第8回	回帰分析	教科書の「第9章回帰分析」(pp.186-197)を予習する。 講義内容を復習する。	2
第9回	私たちの暮らしと知的財産、知的財産権の概要、特許制度の概要	知的財産権の概要、特許制度の概要について予習する。 講義内容を復習する。	2
第10回	特許要件：新規性、進歩性、先願主義、新規性喪失の例外	特許要件に関して予習する。 講義内容を復習する。	2
第11回	発明に関わるアイデアを生み出す方法	発明のためのアイデア発想法について、資料を読んで予習する。 講義で活用したことをまとめ復習する。	2
第12回	発明に関わるアイデアの権利化	考えたアイデアの新規性、進歩性の部分を予め整理する。 アイデアの権利化の手順をまとめ復習する。	2
第13回	「地域と宮城」宮城県内企業の特許活動事例	宮城県内企業の特許活動事例について予習する。 特徴について復習する。	2
第14回	まとめと試験	品質管理および知的財産に関するこれまでの講義内容についてまとめ、復習し、試験に臨む。	4
			0

57	エネルギー変換工学	EE-C-416	選択 2単位 4年後期
	Energy Conversion Engineering		
授業形態		該当科目	SDGs の取り組み
<input type="radio"/>	単独(1人が全回担当)	<input type="radio"/>	教職科目 (工業)
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目 (情報)
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目 (商業)
	クラス分け(クラス分けて担当する)		地域志向科目
		<input type="radio"/>	実務経験のある教員担当
			アクティブラーニング
			メディア授業
クラス・担当教員			
4年全組 下位 法弘			
授業の達成目標			
はじめに代表的なエネルギーの形態としての熱・力学・電気・光の各エネルギーに関連する物理法則を概説する。これを基礎にして、熱機関と太陽電池を重点にして相互間のエネルギー変換の具体的な応用事例を紹介し、それぞれの原理的特徴や問題点等について考察・議論する。			
授業の概要			
各種エネルギー相互間のエネルギー変換の応用例を、関連する物理法則を基礎にして学び、それぞれの特質を理解する。目的とするエネルギー形態と条件に依存して適切な一次エネルギー形態と方法を選択するなど、実践的な問題解決能力を身につける。			
実務経験を活かした教育について			
担当教員が民間企業に従事した経験を活かし、実践力を養成する。			
メディア授業の実施形態			
教科書等			
テキストもしくはプリントを配付。			
参考書等			
成績評価方法・基準			
小テストを含む課題レポート40%、まとめの試験60%、評価合計60点以上の得点で合格とする。			
課題や試験等に対するフィードバック方法			
小テストを含む課題レポートの内容に関するフィードバックは次回授業時もしくはLMS上で行う。			
備考			

57	エネルギー変換工学	EE-C-416	選択 2単位 4年後期
	Energy Conversion Engineering		
授業計画 (各回の学習内容等)			
	学習内容 (授業方法)	学習課題 (上段予習・下段復習)	目安時間(時)
第1回	エネルギー需給に関する背景	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第2回	エネルギー保存則と各種エネルギー形態	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第3回	関連する熱力学の基礎	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。前回の授業内容であるエネルギー保存則の原理について復習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第4回	関連する電磁気学・光学の基礎	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。前回の授業内容である熱力学の要点について復習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第5回	関連する量子力学の基礎	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。前回の授業内容である電磁気学および光学の基礎について復習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第6回	熱機関の種類と実例	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。前回の授業内容である量子力学の基礎について復習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第7回	熱電・圧電変換素子 (ペルチェ素子・ピエゾ素子)	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。前回の授業内容である熱機関に関する要点を復習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第8回	火力発電・原子力発電の概要	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。前回の授業内容である熱電・圧電変換素子について復習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第9回	光電変換素子 (発光素子と光検出器・太陽電池)	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。前回の授業内容である火力発電・原子力発電について復習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第10回	太陽電池の動作原理・効率	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。前回の授業内容である光電変換素子について復習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第11回	蓄電池の原理	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。前回の授業内容である太陽電池の動作原理について復習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第12回	蓄電池モジュールおよびエネルギーマネジメントシステムの概要	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。前回の授業内容である蓄電池の原理について復習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第13回	変圧器の基礎	授業用サーバー上の該当ファイルを印刷し予習する。前回の授業内容である蓄電池モジュール_エネルギーマネジメントシステムの概要について復習する。 授業で説明した内容の要点について復習する。	2 2
第14回	まとめと試験	第1～13回の内容を復習する。 試験問題で解答できなかった内容の直し直しを行う。	2 2

58	電気電子工学特別課外活動 I	EE-X-001	選択 2単位 1年前期～4年後期														
Extracurricular Activities in Electric and Electronic Engineering I																	
全学年全組 学科長																	
<p>大学での講義以外の優れた自己研鑽活動に対して、専門選択科目として単位と認定する。学科の専門性に関する資格や検定の取得、学科が指定する実習や研修、企業インターンシップへの参加に対し、申請に基づいて電気電子工学科で単位認定の可否を審査する。単位認定を許可された項目に関しては、難易度や成果を考慮して「電気電子工学特別課外活動 I～Ⅲ」で1～2単位を認定する。なお教養教育科目としての「特別課外活動」との重複申請は認めない。</p> <p>1. 電気電子工学に関連する資格や検定 対象となるのは、電気主任技術者、電気工事士、電気通信主任技術者、応用情報技術者、基本情報技術者、ITパスポート、エンベデッドシステムスペシャリストなど専門分野に関連した資格および検定である（下表参照）。その他の資格、検定については申請により学科で審査する。</p> <p>2. 学科が指定する実習と研修 みやぎカーインテリジェント人材育成センター研修講座（総講義時間：所定の時間以上、修了証とレポート提出）、みやぎ高度電子機械人材育成センター研修講座（修了証とレポート提出）など学科が指定する実習と研修である。</p> <p>3. インターンシップ等の企業内研修 一般企業で開催されるインターンシップ（研修）や実習など。単位認定の対象となるのは、期間が1週間以上で、参加を証明できる文書が発行されるものである。また申請時には、必ずレポートを添付すること。</p> <p>資格取得または検定等の主な認定例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">資格等名称</th> <th style="text-align: center;">単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一種電気工事士</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>電気主任技術者</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>第二種電気工事士</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>危険物取扱者（乙種）</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。</p>				資格等名称	単位	第一種電気工事士	2	基本情報技術者	2	電気主任技術者	2	第二種電気工事士	1	ITパスポート試験	1	危険物取扱者（乙種）	1
資格等名称	単位																
第一種電気工事士	2																
基本情報技術者	2																
電気主任技術者	2																
第二種電気工事士	1																
ITパスポート試験	1																
危険物取扱者（乙種）	1																

59	電気電子工学特別課外活動Ⅱ	EE-X-002	選択 2単位 1年前期～4年後期														
Extracurricular Activities in Electric and Electronic Engineering Ⅱ																	
全学年全組 学科長																	
<p>大学での講義以外の優れた自己研鑽活動に対して、専門選択科目として単位と認定する。学科の専門性に関する資格や検定の取得、学科が指定する実習や研修、企業インターンシップへの参加に対し、申請に基づいて電気電子工学科で単位認定の可否を審査する。単位認定を許可された項目に関しては、難易度や成果を考慮して「電気電子工学特別課外活動Ⅰ～Ⅲ」で1～2単位を認定する。なお教養教育科目としての「特別課外活動」との重複申請は認めない。</p> <p>1. 電気電子工学に関連する資格や検定 対象となるのは、電気主任技術者、電気工事士、電気通信主任技術者、応用情報技術者、基本情報技術者、ITパスポート、エンベデッドシステムスペシャリストなど専門分野に関連した資格および検定である（下表参照）。その他の資格、検定については申請により学科で審査する。</p> <p>2. 学科が指定する実習と研修 みやぎカーインテリジェント人材育成センター研修講座（総講義時間：所定の時間以上、修了証とレポート提出）、みやぎ高度電子機械人材育成センター研修講座（修了証とレポート提出）など学科が指定する実習と研修である。</p> <p>3. インターンシップ等の企業内研修 一般企業で開催されるインターンシップ（研修）や実習など。単位認定の対象となるのは、期間が1週間以上で、参加を証明できる文書が発行されるものである。また申請時には、必ずレポートを添付すること。</p> <p>資格取得または検定等の主な認定例</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">資格等名称</th> <th style="text-align: center;">単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一種電気工事士</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>電気主任技術者</td> <td style="text-align: center;">2</td> </tr> <tr> <td>第二種電気工事士</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>ITパスポート試験</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td>危険物取扱者（乙種）</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。</p>				資格等名称	単位	第一種電気工事士	2	基本情報技術者	2	電気主任技術者	2	第二種電気工事士	1	ITパスポート試験	1	危険物取扱者（乙種）	1
資格等名称	単位																
第一種電気工事士	2																
基本情報技術者	2																
電気主任技術者	2																
第二種電気工事士	1																
ITパスポート試験	1																
危険物取扱者（乙種）	1																

60	電気電子工学特別課外活動Ⅲ EE-X-003	選択 2単位 1年前期～4年後期
-----------	-------------------------------	------------------

Extracurricular Activities in Electric and Electronic Engineering Ⅲ

全学年全組 学科長

大学での講義以外の優れた自己研鑽活動に対して、専門選択科目として単位と認定する。学科の専門性に関する資格や検定の取得、学科が指定する実習や研修、企業インターンシップへの参加に対し、申請に基づいて電気電子工学科で単位認定の可否を審査する。単位認定を許可された項目に関しては、難易度や成果を考慮して「電気電子工学特別課外活動Ⅰ～Ⅲ」で1～2単位を認定する。なお教養教育科目としての「特別課外活動」との重複申請は認めない。

1. 電気電子工学に関連する資格や検定

対象となるのは、電気主任技術者、電気工事士、電気通信主任技術者、応用情報技術者、基本情報技術者、ITパスポート、エンベデッドシステムスペシャリストなど専門分野に関連した資格および検定である（下表参照）。その他の資格、検定については申請により学科で審査する。

2. 学科が指定する実習と研修

みやぎカーインテリジェント人材育成センター研修講座（総講義時間：所定の時間以上、修了証とレポート提出）、みやぎ高度電子機械人材育成センター研修講座（修了証とレポート提出）など学科が指定する実習と研修である。

3. インターンシップ等の企業内研修

一般企業で開催されるインターンシップ（研修）や実習など。単位認定の対象となるのは、期間が1週間以上で、参加を証明できる文書が発行されるものである。また申請時には、必ずレポートを添付すること。

資格取得または検定等の主な認定例

資格等名称	単位
第一種電気工事士	2
基本情報技術者	2
電気主任技術者	2
第二種電気工事士	1
ITパスポート試験	1
危険物取扱者（乙種）	1

※認定希望者は事前に教務学生課又は長町キャンパス事務室に問合せること。

<p>61</p>	<p>他学科開講科目群 EE-X-004</p>	<p>選択 4単位 3年前期～4年後期</p>
<p>Subjects offered by other departments</p>		
<p>本学科の関連領域は広く、本学科の専門知識をより良く理解するため他学科の開講科目を履修する機会を設けている。他学科の開講科目を履修した場合、教務学生課で所定の手続きをすることによって「他学科開講科目」として卒業、進級に必要な専門選択科目の単位に算入することが出来る。受講条件の詳細については各科目のシラバスを参照のこと。 受講に際しては本学科教務委員に相談した上で各科目の担当教員の許可を得ること。履修状況によっては人数の制限を行う場合があるので注意すること。</p>		

62	他大学開講科目群 EE-X-005	選択 4単位 1年後期～4年前期
-----------	--------------------------	------------------

Subjects offered by other universities

詳細については学生便覧の「他大学開講科目」、キャンパスライフの「学都仙台単位互換ネットワーク協定および国内外の大学等との単位互換に関する協定に基づく東北工業大学特別聴講学生取扱要項」を参照のこと。